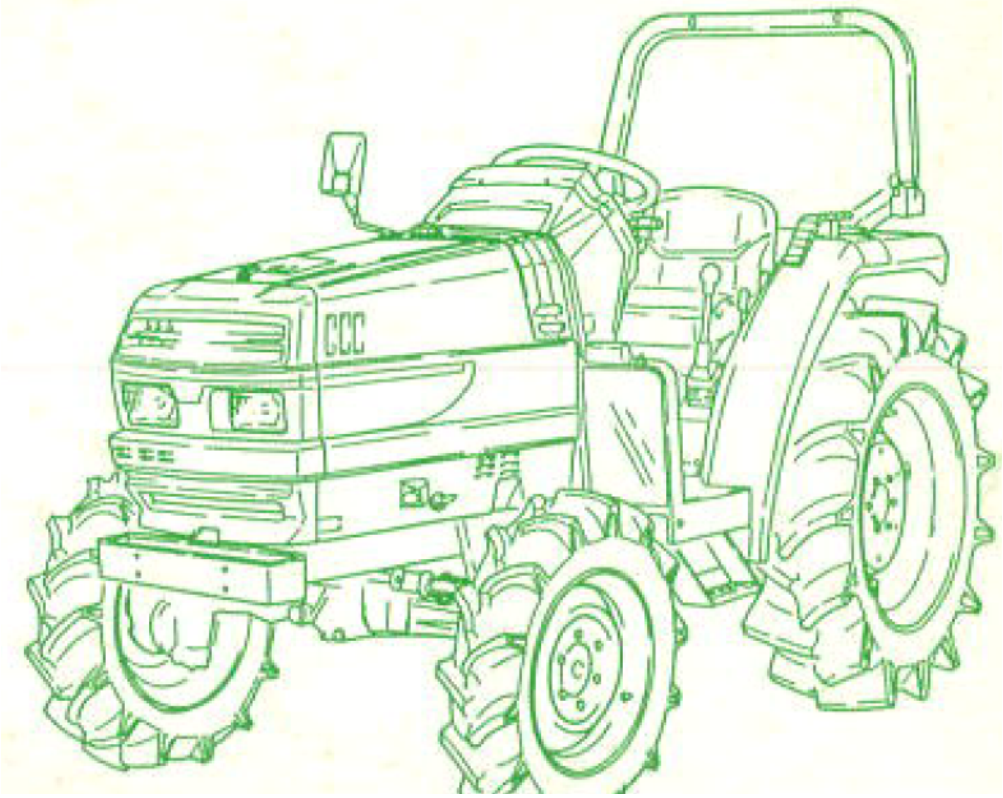
トラクタ

取扱説明書

MT245G



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表



型式名：三菱 2F

合格番号：９２０４３

種　　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：三菱農機株式会社
住　　所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667番地1

I　装着可能トラクター

1．型式名

三菱 MT285　　三菱 MT265　　三菱 MT245　　三菱 MT225

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型式名	：	三菱 MT285	三菱 MT225
■種類	：	4 輪駆動	4 輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg：	1304	1199
■軸距	mm：	1605	1565
■機関出力／回転数	kW{PS}／rpm：	21.0{28.5}／2500	16.5{22.5}／2500

II　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	82.5 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	125.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	80.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－ cm
■戸口の幅	(上部)	：	－ cm
	(中部)	：	－ cm
	(下部)	：	－ cm
■戸口の高さ	(フートプレートから)	：	－ cm
■最低位ステップの高さ		：	42.5 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	(屋根部材上面まで)	：	194.0 cm
■フレームの全幅		：	102.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	30.0 cm

※1．三菱 MT285（タイヤサイズ：前輪7-16　後輪11.2-26）に装着時。

2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，GO シート

3．ステアリングホイールは，チルト中央位置に調節。

4．主要材料

■主　フ　レ　ー　ム：STKR 400，SS 400，STKM 11A，STKM 12C，SM 490B
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S45C，SCM435

III　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。

■基　準　質　量：1350 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷 2.17 kJ{222 kgf･m}
　　側部負荷 2.99 kJ{305 kgf･m}
■圧　　壊　　力：19.86 kN{2025 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

■後　部（前　方　へ）：右側　　9.5 cm　　左側　　10.5 cm
■側　部（右側方へ）：15.0 cm
■上　部（下　方　へ）：右側　　1.0 cm　　左側　　−2.0 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：8.0 cm

2．騒　　音※

■83 dBA〔三菱 MT285〕　　85 dBA〔三菱 MT225〕

※　7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

IV　付　　記

強度試験は，コードIIにより実施した。

もくじ

主な名称 …… 1

ご使用まえに …… 2

1 「機械番号」と「エンジン番号」について …… 2
2 「用語」と「マーク」について …… 3
3 「特別仕様」について …… 3

✚安全のポイント …… 4

1 安全作業をするために …… 4
2 小型特殊自動車について …… 9
3 電装関係を取扱うときは …… 11

安全フレームの取扱い …… 18

上手な運転のしかた …… 20

1 各部の取扱い
- [1] スイッチ・計器関係 …… 20
- [2] レバー・ペダル・シート関係 …… 24

2 運転まえの準備
- [1] 給油・注油・給水個所 …… 30
- [2] 給油・注油・給水表 …… 31

3 運転操作の要領
- [1] エンジンの始動 …… 35
- [2] 発進のしかた …… 36
- [3] 停止のしかた …… 38

上手な作業のしかた …… 40

1 油圧装置の取扱い
- [1] コントロールレバーの操作 …… 40
- [2] 作業機降下速度の調節 …… 41
- [3] パワーステアリングの取扱い …… 42

2 3点リンクの取扱い
- [1] トップリンクの取付け …… 43
- [2] 作業機をつけないで道路走行のとき …… 43
- [3] ドローバ …… 43
- [4] PTOキャップ …… 43

もくじ

5 3点リンクの取付方法と調整…… 44
3 作業運転のしかた
1 走行速度とPTO回転速度…… 45
2 旋　回…… 46
3 ダイヤクイックターン…… 46
4 車輪がスリップするとき…… 46

マイコン装備機の取扱い …… 47

1 マイコンの取扱い
1 マイコンの機能…… 47
2 ポジションコントロールの取扱い
1 運転装置…… 48
2 取扱い操作…… 48
3 傾斜自動の取扱い
1 運転装置…… 50
2 取扱い操作…… 50
4 耕深自動の取扱い
1 運転装置…… 52
2 取扱い操作…… 52
5 安全装置の取扱い
1 安全装置…… 54
2 ヒューズ…… 57
6 作業機切替
1 作業機切替機能…… 58
7 マイコンの操作要領…… 59
8 マイコン装備機の作業別，組合せ操作…… 61

手入れのしかた …… 63

1 定期点検整備表…… 63
2 点検と清掃
1 エンジンオイル…… 65
2 燃料の補給…… 66
3 冷却水の保守管理…… 67
4 エアクリーナの清掃…… 69
5 ラジエータ・
ラジエータスクリーンの清掃… 69
6 ミッションオイル…… 70
7 油圧フィルタの交換…… 71
8 タイヤの空気圧及び損傷…… 71
9 フロントアクスルオイル…… 71
10 電気配線の点検・清掃…… 72
11 バッテリの点検…… 72
3 調整のしかた
1 ベルトの点検・調整…… 73
2 ペダルの点検・調整…… 73

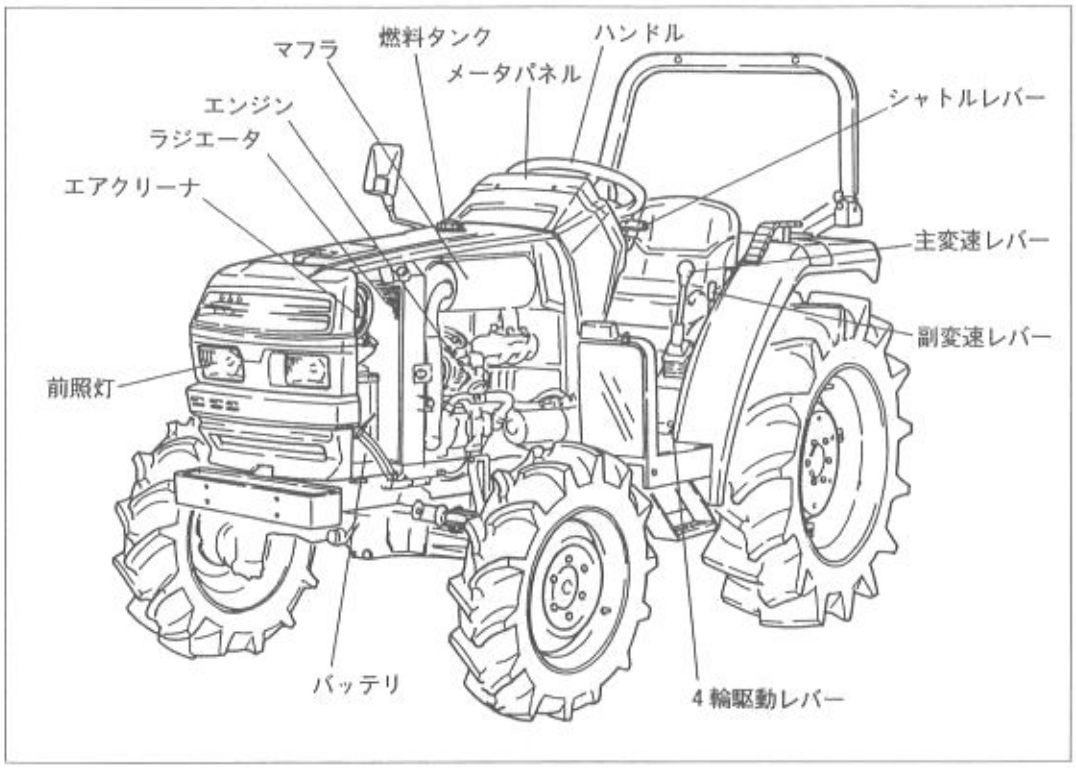
4 格納のしかた
3 トーインの点検・調整…… 75
1 機体の清掃・洗浄・格納…… 76
2 格納中の手入れ…… 77
3 再使用にあたって…… 77

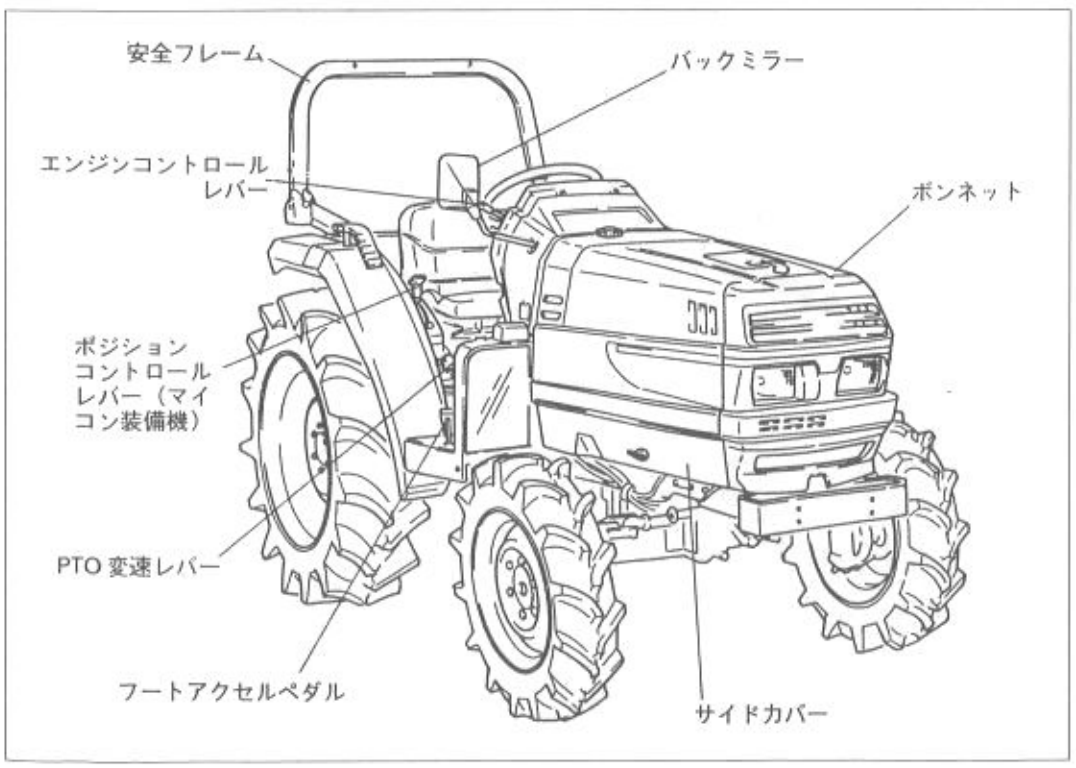
不調の発見と処置 …… 78

付　　表 …… 86

1 主要諸元…… 86
2 電気配線図…… 87
3 主な消耗部品…… 91
4 アタッチメント一覧表…… 93
5 潤 滑 油…… 94
6 トラクタ関連商品…… 96

主な名称


マフラ
燃料タンク
ハンドル
メータパネル
エンジン
ラジエータ
エアクリーナ
シャトルレバー
主変速レバー
副変速レバー
前照灯
バッテリ
4輪駆動レバー


安全フレーム
バックミラー
エンジンコントロール
レバー
ボンネット
ポジション
コントロール
レバー（マイ
コン装備機）
PTO 変速レバー
フートアクセルペダル
サイドカバー

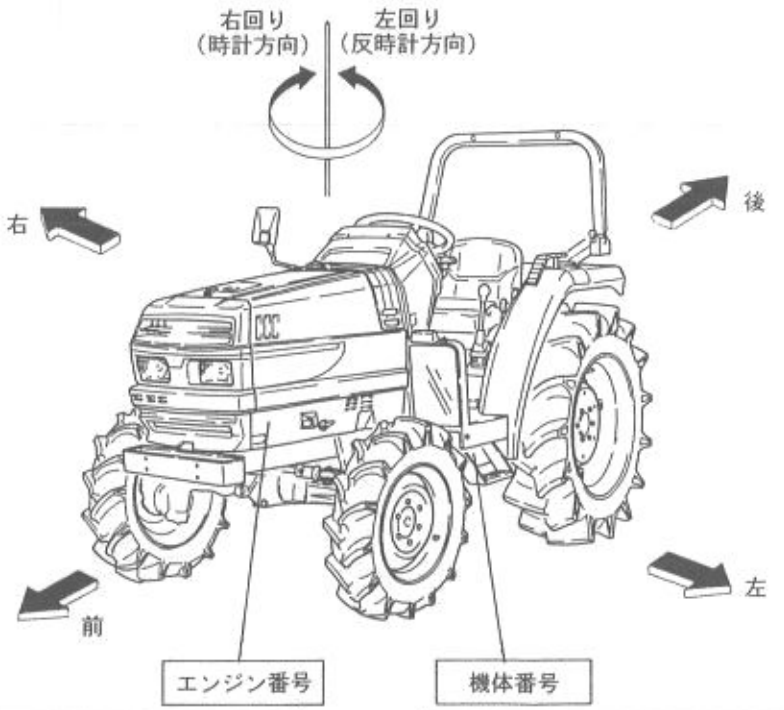
ご使用まえに

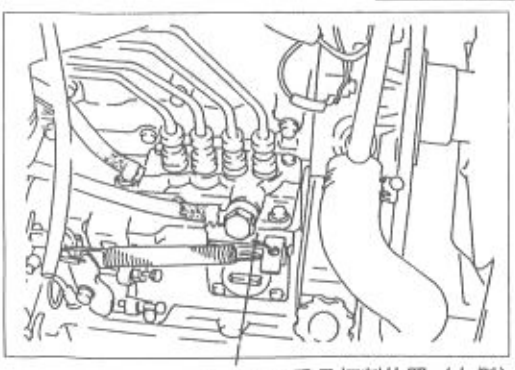
このたびは，トラクタをお買いあげいただき，まことにありがとうございます。

このトラクタの性能を十分に発揮させ，より安全で快適な農作業をしていただくためにご使用のまえに《取扱説明書》をよくお読みいただき，正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

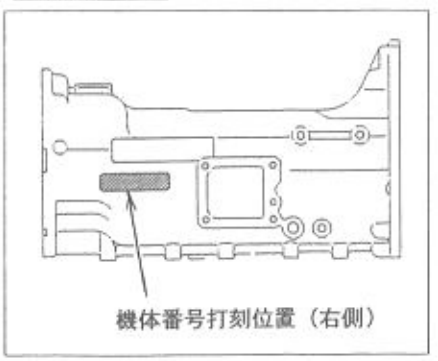
1 「機械番号」と「エンジン番号」について

このトラクタには《機体番号》と《エンジン番号》がそれぞれ図示のところに表示されています。サービスについてのお問いあわせや部品などご用命のときには，《お買いあげ先》に必ず《機体番号》と《エンジン番号》をお知らせください。





エンジン番号打刻位置（右側）



機体番号打刻位置（右側）

2「用語」と「マーク」について

この《取扱説明書》で使用している“前後”“左右”“左回り”“右回り”などの《用語》は，図示（前ページ）のように決めております。またこの《取扱説明書》では特に注意していただくところに下記《マーク》を使用しております。

マーク		……安全作業
		……不具合防止と作業ポイント
		……補足説明

3「特別仕様」について

この《取扱説明書》は標準機を基本に編集しております。

仕様（装備）の異なった製品については，異なる点のみ追加説明してありますので，お買いあげの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ，おまちがいのないようお願いいたします。

- マイクロコンピュータ装備機（略称：マイコン装備機）
- ダイヤクイックターン装備機

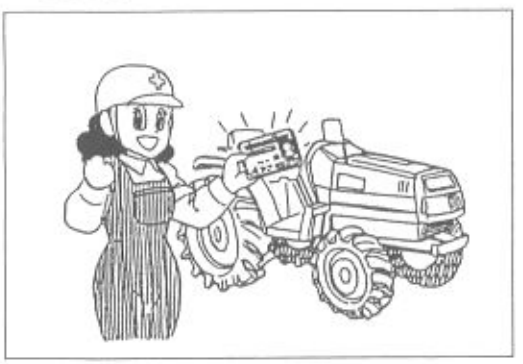
安全のポイント

安全な作業をしていただくためには，まず機械の性能を十分に理解し正しい取扱いをすることが基本となります。この《取扱説明書》のなかでそのつど ✚ マークで表示の《安全作業》のポイントと交通法規を守っていただき，さらにつぎの《安全作業をするために》もよくお読みいただいて事故のない楽しい作業をしてください。

1 安全作業をするために

1 運転者の条件

❶ このトラクタの運転には，小型特殊自動車の運転免許が必要です。道路を走行する時は，運転免許証を必ず所持してください。



❷ この《取扱説明書》をくりかえし読んで，機械の取扱いを十分に理解し《正しい運転操作》をしてください。



❸ 《酒気おびの人》《妊娠中の人》そのほか《身体の調子が悪い》などで正常な取扱いができない人および《16歳未満の人》は機械の運転をしないでください。



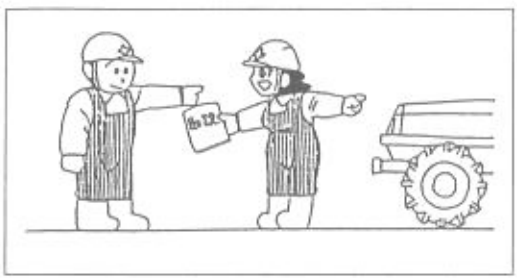
❹ 服装は作業に適したものを着てください。特に《だぶついた服装》は回転部に巻き込まれやすく危険です。

《ヘルメット・保護具》などをつけ，キチンとした《すべらない靴》をはいてください。



2 人に機械を貸すときは

貸出すまえに《取扱いかた》や《安全のポイント》をよく説明し，さらにこの《取扱説明書》を十分に読むように指導してください。



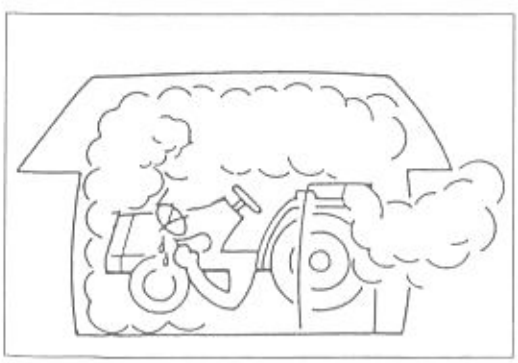
3 エンジンの始動と運転

❶ トラクタに乗車する前には，トラクタの外周を見て回り，異常がないことを目視で確認してください。

❷ エンジンを始動するときは必ず主変速レバーを《中立(N)》にしてください。

❸ 屋内など換気の悪い場所でエンジンを運転するときは《排ガス中毒》の危険があります。

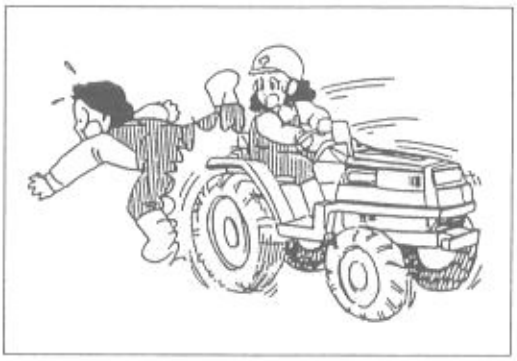
《窓や戸》を開け，換気には十分注意をしましょう。



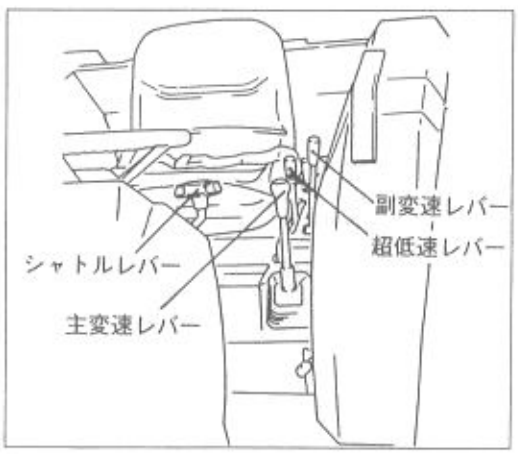
❹ マフラ排気口付近に燃えやすいものがないことを確認してください。

❺ エンジンを始動し発進するときは，必ずシートに着席して，まわりに人がいないか確かめ《ホーンボタン》を押して必ず《あいず》をしてからスタートしてください。

始動要領については（「エンジンの始動」の項参照）

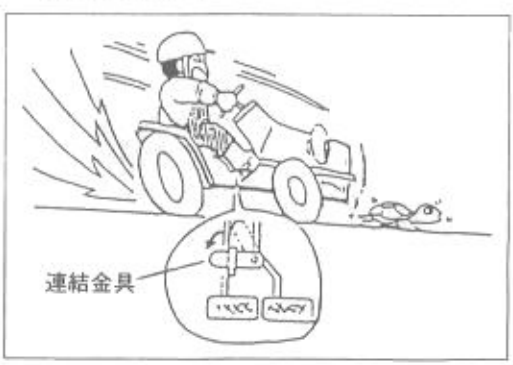


❻ 下り坂では必ず《エンジンブレーキ》をかけ，決して変速レバーを中立状態にしないようにしてください。



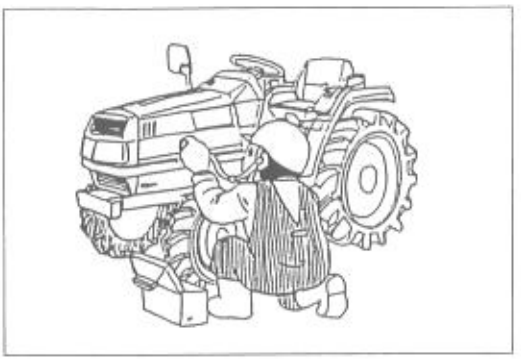
❼ ブレーキはいつも左右《同一の制動力》があるよう調整してください。

❽ 道路走行時及びトラックへの積み降し時は必ず《左右ブレーキペダル》を連結してください。

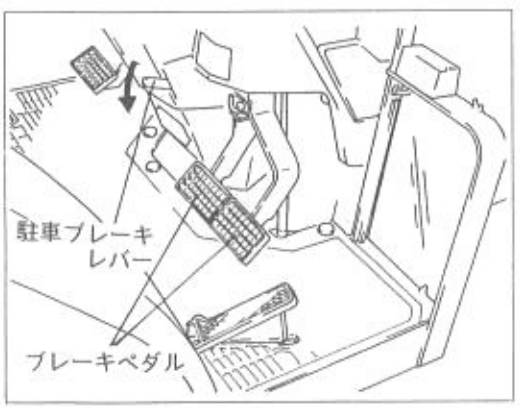


4 点検・整備

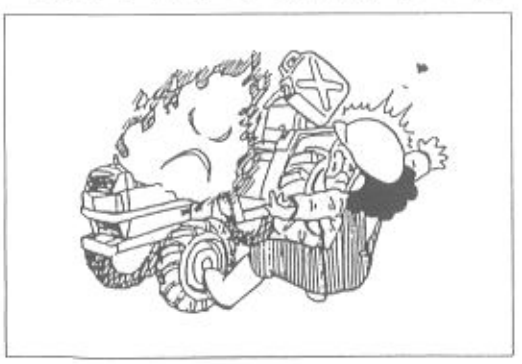
❶ この《取扱説明書》を参考に《始業点検》を行い，いつも機械が正常に働き安全な状態であるようにしてください。



❷ 掃除・点検・整備をするときは《平坦な場所》で必ず《エンジンを停止》し駐車ブレーキをかけ，安全を確認してから作業をしてください。



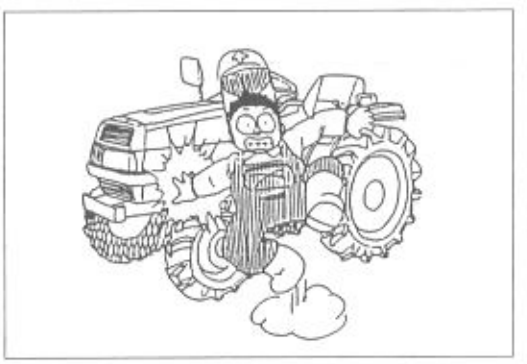
❸ 燃料の補給は《エンジン回転中》または停止直後の《過熱した状態》で絶対にしないでください。燃料補給時は《くわえタバコ》《裸火照明》は絶対しないでください。燃料に引火し，火災の原因となります。



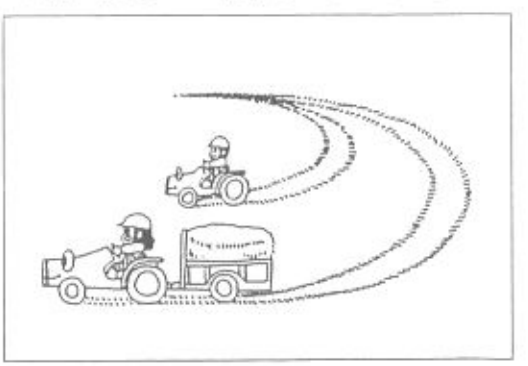
❹ エンジン回転中および停止直後は，絶対にラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹出し《ヤケド》をすることがあります。運転停止後10分間程度して，エンジンがよく冷えてから注意しつつ開けてください。

5 安全な作業

❶ 回転部や作動部・マフラ・ラジエータ等の過熱部，バッテリ端子などの通電部など《危険な個所》には手を触れないよう注意してください。

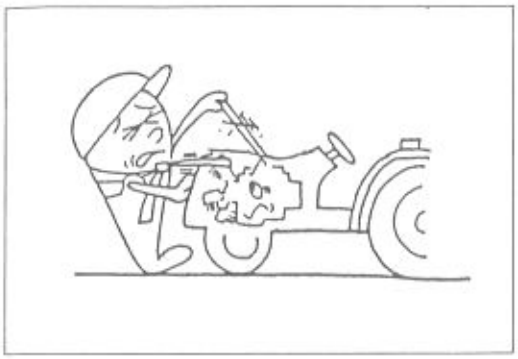


❷ 高速で《急旋回》しないでください。特に長い作業機をつけた時は旋回半径が大きくなるので注意してください。



❸ けん引作業はトラクタ用《純正ドローバ》を使用してください。

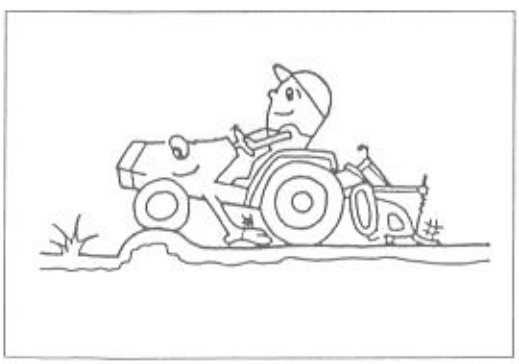
❹ トラクタやエンジン又は作業機の動いている部分に近づく時には必ず服装をきちんとしてからにしてください。



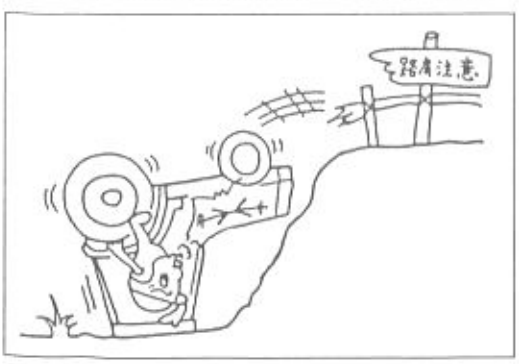
❺ 道路を走る時には《デフロック》を使用しないでください。

❻ あぜ越え時は転倒防止のため，作業機（ロータリ）の回転を止めてひきずるようにし，低速であぜに対して《直角》に進んでください。

・ダイヤクイックターン装備機の場合には必ずダイヤクイックターンスイッチを切ってください。

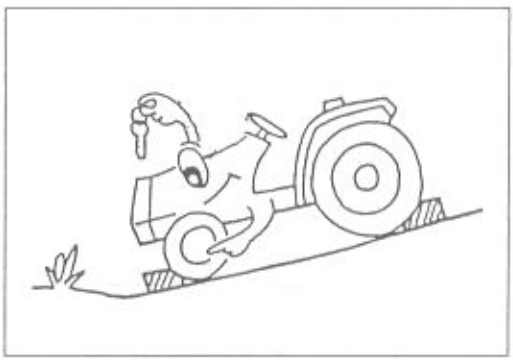


❼ 作業の安全及び保護のために，通常の作業では確実に安全フレームを装着し，必ずシートベルトを締めてください。



❽ トラクタから離れる時には必ず《エンジンを停止》し作業機を地上におろし，主変速レバー・副変速レバー・超低速レバーを《低速位置》に，更にシャトルレバーを《R》位置に入れ《駐車ブレーキ》を確実にかけてください。

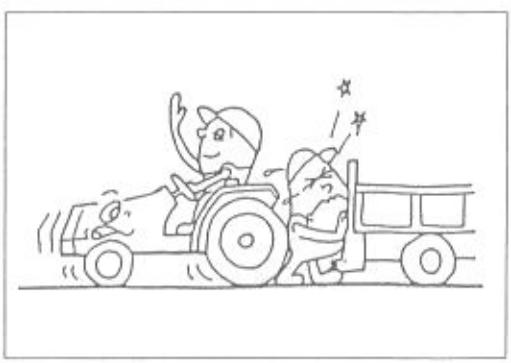
（傾斜地は歯止めを忘れずに，又スタータスイッチキーを抜きとってください。）



❾ ケガ防止のため，運転中に回転体に触れたり，物を当てないようにしてください。

❿ 作業機の取付け取外しは，トラクタと作業機の間に立って作業しないでください。

（脇から扱うようにしてください。）



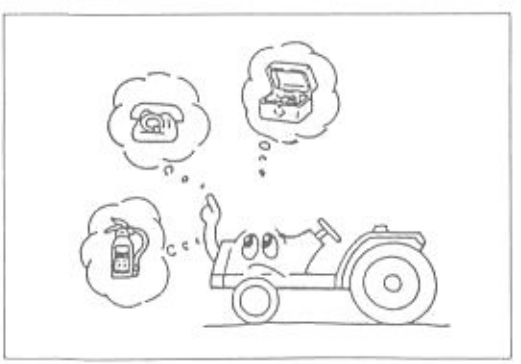
⓫ 傾斜地ではエンジンコントロールレバー，ハンドル，ブレーキを《ゆっくり操作》し，特にすべりやすいところでは注意してください。



⓬ トラクタの上や連結部にはいかなる場合も，人は絶対のせないでください。



⓭ 事故や火災などが発生した場合の処置や連絡方法を決めておきます。また救急箱の保管場所，消火器の使い方を確認しましょう。



⓮ 機械を離れるときは《平坦な場所》を選びエンジンを止め，駐車ブレーキをかけてください。

やむを得ず傾斜地におくときは必ずタイヤに《ハドメ》をしてください。



⓯ 過労にならないよう《適度の休憩》をとりながら，楽しい作業をしてください。



2 小型特殊自動車について

このトラクタは，道路交通法，道路運送車両法の《小型特殊自動車》に該当します。

1 小型特殊自動車の届出と免許

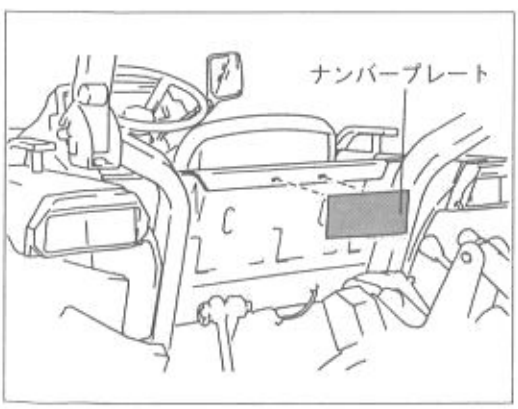
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは《市（町・村）役所》または《お買いあげ先》にご相談ください。

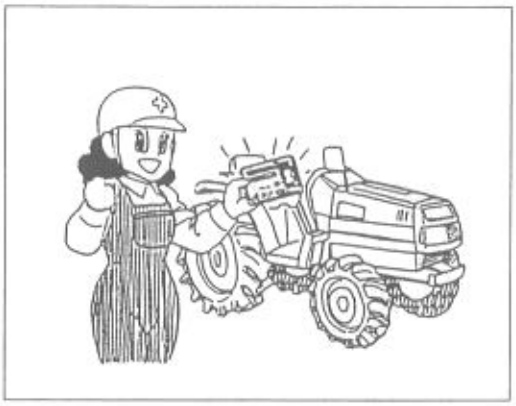
小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（《お買いあげ先》で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けてください。

ナンバープレートは，機体の指定された位置に取付けます。



❷ 運転免許

道路を走行するときは，《小型特殊自動車》の運転免許が必要です。必ず運転免許証を所持してください。



❸ 小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最　高　速　度		15km/時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

小型特殊自動車は，上記の条件を満足していなければなりませんので，次のようなことは絶対に行わないでください。

・型式の異なるエンジンの搭載
・走行装置の構造の改造
・エンジン，本体の封印されている部分の解封

❹ 任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ，任意保険に加入されるようお勧めします。

2 道路を走行するとき

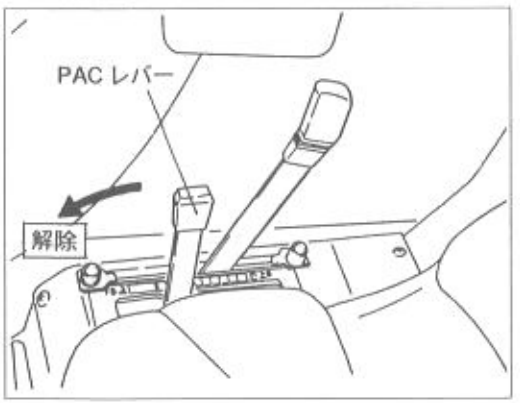
道路を走行するときは，次の注意事項に従って，《安全速度》で走行してください。

❶ 左右のブレーキペタルを必ず連結して走行してください。

❷ 作業機を取付けた状態での走行はしないでください。

❸ 標準機

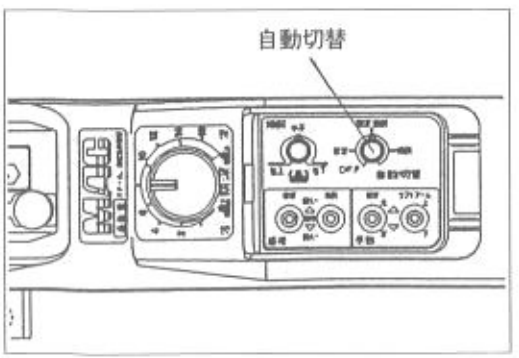
道路走行するときは必ずPACレバーを 解除 位置にしてください。



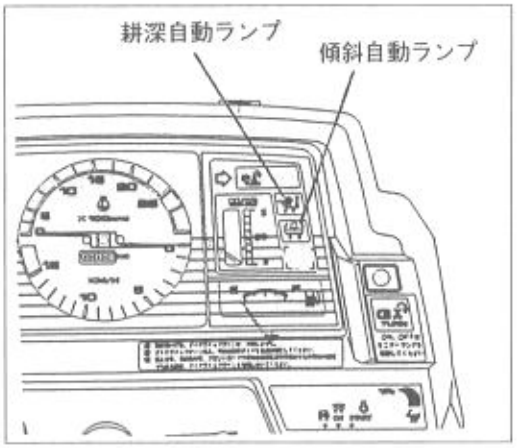
❹ マイコン装備機

道路走行をするときは自動切替を《OFF》にし，必ず自動ランプが消えていることを確認します。

●サイドパネル

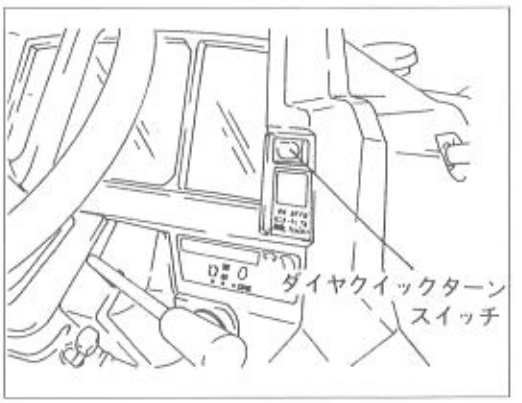


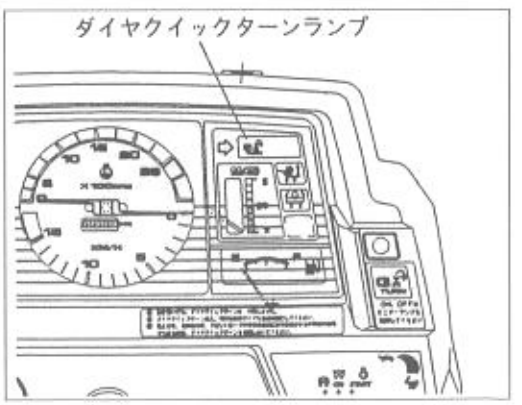
●メータパネル



❺ ダイヤクイックターン装備機

道路を走行するときは，必ずダイヤクイックターンスイッチを《切》り，ダイヤクイックターンランプが消えていることを確認します。



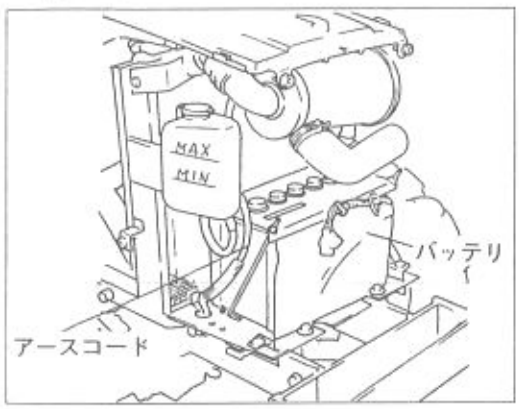


3 電装関係を取扱うときは

1 電気配線点検時の注意事項

❶ 電気配線の点検時には，危険ですので《エンジンを停止》してください。

❷ 接続部の点検時には，危険ですので必ずスタータスイッチを《ＯＦＦ》にし，バッテリターミナルコードのアース側㊀端子を外してください。



2 電気配線の点検

配線のターミナル（端子）部の《緩み》や《接続不良》，または配線が《損傷》していると電気部品の性能を損なうだけでなく，《ショート（短絡）》《漏電》または《焼損》などで《火災》の原因になります。

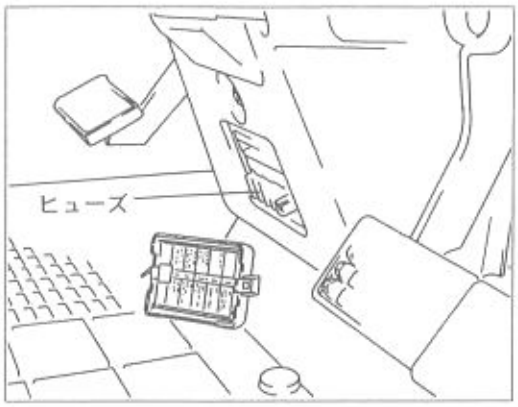
傷んだ配線は，早めに交換，修理してください。

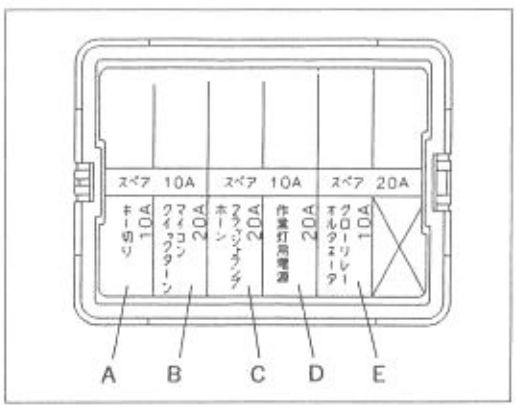
3 ヒューズ及びヒュージブルリンクの取扱い

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズ及びヒュージブルリンクが設けてあります。

運転中，電気系統に異常を確認したときは，ヒューズ及びヒュージブルリンクが切れていないかチェックします。

❶ ヒューズ





◆ヒューズが溶断しているときは，原因を調べ，修理後スペアのヒューズ（指定容量）と交換します。決して針金などで代用しないでください。

◆ヒューズが溶断しているときは

(1) Aのヒューズ溶断

・スタータスイッチを《ＯＦＦ》にしてもエンジンは停止しません。

(2) Bのヒューズ溶断

・マイコンの各種制御が作動しません。（マイコン装備機）

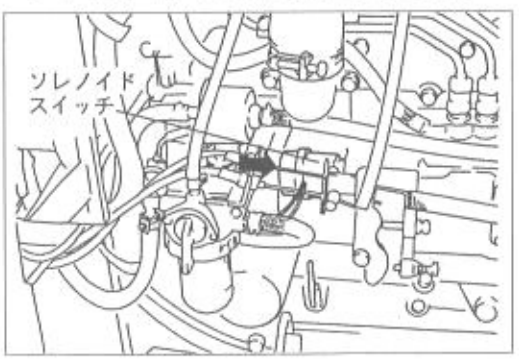
・ダイヤクイックターンが作動しません。（ダイヤクイックターン装備機）

(3) Cのヒューズ溶断
- 方向指示灯が点灯しません。
- メータ類ランプが点灯しません。
- ブザーが鳴りません。（マイコン装備機）

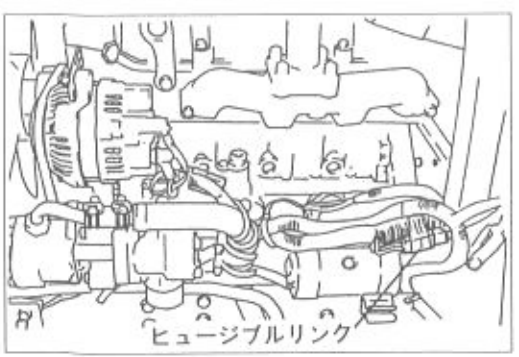
(4) Dのヒューズ溶断
- 作業灯用電源が使用できなくなります。

(5) Eのヒューズ溶断
- 前照灯が点灯しません。
- ホーンが鳴りません。
- 運転中に溶断するとエンジンは停止します。
- 溶断したままでもエンジンは始動しますが，スタータスイッチを《OFF》にしてもエンジンは停止しません。

◆バッテリが上がったり，ヒューズA，Dが溶断した場合はキー切り停止が効きません。その場合はボンネットを開けソレノイドスイッチを押せば止まります。



❷ ヒュージブルリンク

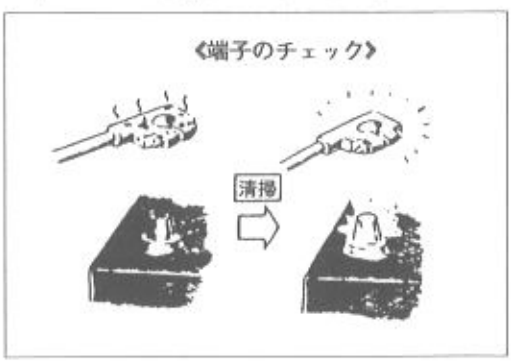


◆ヒュージブルリンクが切れているときは，すべての電気系統が作動しません。
切れた原因を調べ，修理後，純正部品のヒュージブルリンクと交換してください。

4 電気配線の清掃

❶ エンジンまわり，バッテリ，電気配線部に溜っている《ワラやゴミ》などは《火災》の原因になりますので取除いてください。

❷ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が《腐食》することがあります。端子が腐食すると，《接触抵抗》が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，《定期的》に汚れや腐食をサンドペーパーやブラシで取除いてください。



◆⊕端子と機体が接触しないように注意してください。

◆⊕端子と⊖端子を間違えないように注意してください。（逆接すると，電装部品が破損します。）

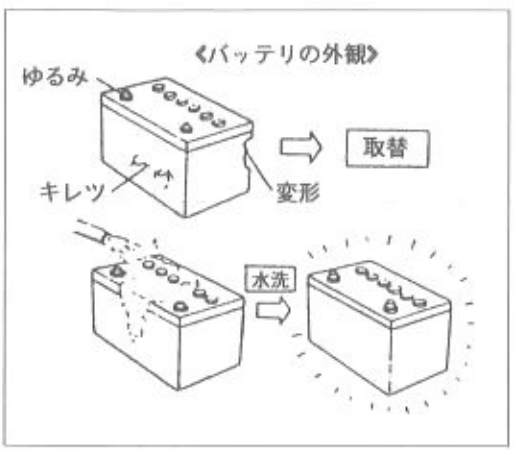
◆各端子は《ゆるみ》がないように確実に締付けてください。

❸ 取付金具のチェック

バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，電装やフタが摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

取付金具でしっかり固定します。腐食していれば修理または取替えます。

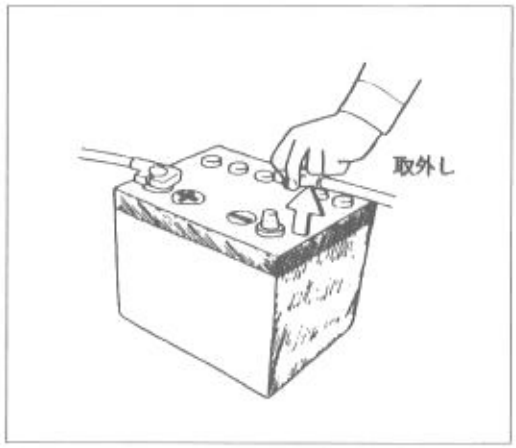
亀裂や変形のあるバッテリは新品と取替えます。汚れていれば清水で洗浄します。洗浄後は水分を完全に拭きとってください。（化繊布による拭きとりは，静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。）



5 バッテリ着脱時の注意事項

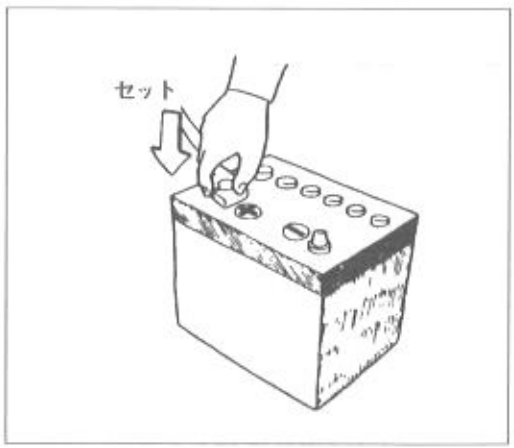
❶ バッテリを《着脱》したり一般の充電器で《充電》するときは，必ずエンジンを止め，《キー》を抜取り，すべての電気スイッチを《ＯＦＦ》にしてください。

❷ ターミナルコード（端子）を《取外す》ときは，《アース側㊀端子を先に》外します。



❸ ターミナルコードを《セット》するときは，《プラス側㊉端子を先に》取付けます。

その時㊉端子と機体が接触しないよう注意してください。



❹ セットするとき㊉端子と㊀端子を間違えないよう十分に注意してください。

《逆接》すると，電装部品が《破損》します。

❺ 各端子は《ゆるみ》がないように《確実に締付》けてください。

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い《水素ガス》を多量に発生し，《引火爆発》の危険があります。絶対に《スパーク》による電気花火が発生しないよう注意してください。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物です。取扱いには十分注意してください。

◆バッテリを《着脱》したり一般の充電器で《充電》するときは，必ずエンジンを止め《キー》を抜取ってください。

6 バッテリの点検

バッテリの電気量と液量を確認します。

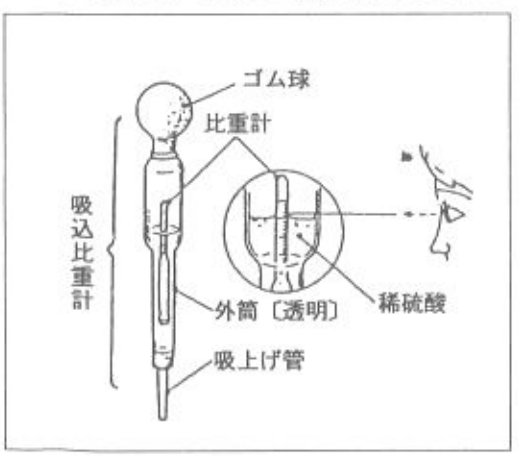
❶ 残存容量の確認

バッテリ液の《比重》を測定する方法と，《バッテリテスタ》で測定する方法があります。

残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

㋐ バッテリ液の比重が《1.220(20℃)》以下であれば補充電をします。

バッテリ液比重は大気温20℃を標準とし，1℃変化するごとに比重値を0.0007だけ増減して温度補正します。



比　重 (20℃)	放電電気量 (%)	残存容量 (%)
1.280	0	100
1.235	25	75
1.190	50	50
1.145	75	25
1.100	100	0

㋑ バッテリテスタで測定し，メータの指示範囲が黄ゾーン以下であれば補充電をします。

《緑ゾーン》……正常

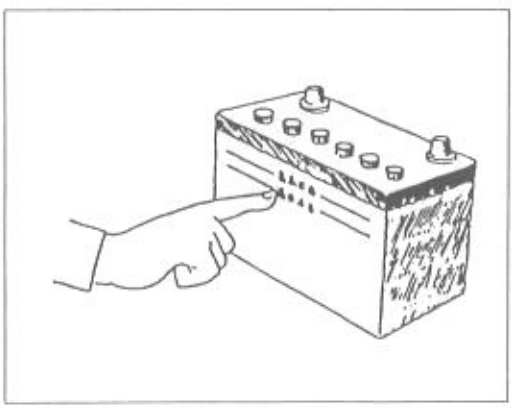
《黄ゾーン》……やや放電

《赤ゾーン》……かなり放電

❷ バッテリ液量の確認

使用状態での充電電流によりバッテリ液が電気分解され，しだいに液面が低下します。

減っていれば，バッテリ補充液を《最高液面》まで注水補給します。



7 ブースタケーブルを使用するときの注意

バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。このときは次の手順を守ってください。

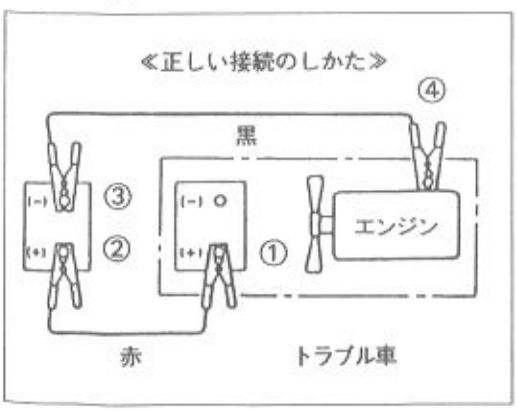
《ブースタケーブルの正しい接続のしかた》

❶ ブースタケーブルを接続する前に次の事項を十分点検してください。
- ケーブルのクリップのスプリングが正常であること。
- ケーブル及びクリップは断線腐食していないこと。

❷ 正常車のエンジンを止めてください。

❸ 図のようにブースタケーブル赤色のクリップをトラブル車のバッテリ⊕端子につなぎ，他方のクリップを正常車の⊕端子にしっかり接続してください。

❹ 次にブースタケーブル黒色のクリップを正常車のバッテリの⊖端子につなぎ最後に他方のクリップをトラブル車のエンジンブロックにしっかり接続してください。この順序は間違えないでください。最後の接続時には必ずスパークしますのでガスの発生しているバッテリからできるだけ離れているエンジンブロックに接続してください。



◆液口栓を取外してから接続してください。
液口栓が取外してあれば万一引火しても爆発力は低下しますので被害は少なくなります。

◆ブースタケーブル接続前にエンジンを止めてください。

◆ブースタケーブルはできるだけ通電容量の大きいブースタケーブルを選んでください。

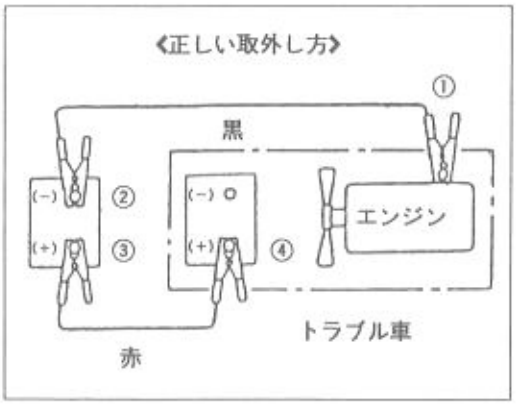
❺ トラブル車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせてください。

《正しいブースタケーブルの取外し方》

エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，接続の場合との逆の順序で行ってください。

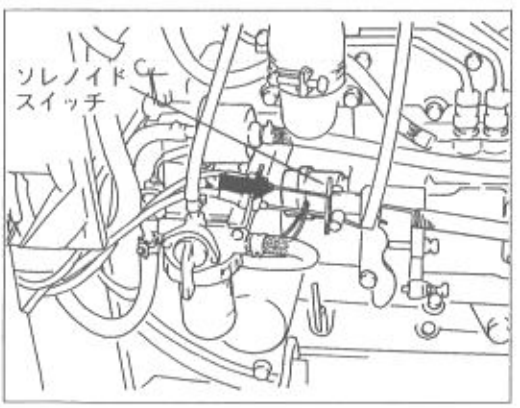
❶ トラブル車のエンジンブロックからクリップを外し，次に正常車の⊖端子からクリップを外します。

❷ 次に正常車の⊕端子からクリップを外し，最後にトラブル車の⊕端子からクリップを取外します。



◆バッテリがあがった場合は，キー切停止が不能となります。

その場合はボンネットを開けソレノイドスイッチを押せば止まります。



8 充電するときの注意

❶ 充電作業にとりかかるまえに必ずエンジンを止め《キー》を抜きとります。



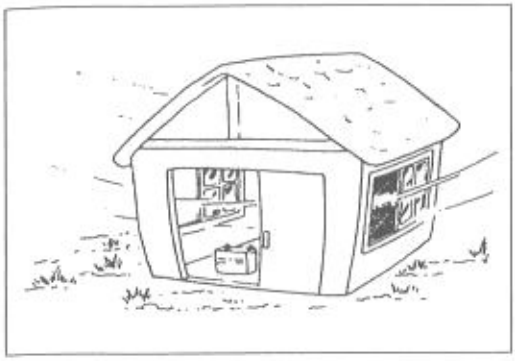
❷ 充電するときは《液口栓》をすべて取外します。



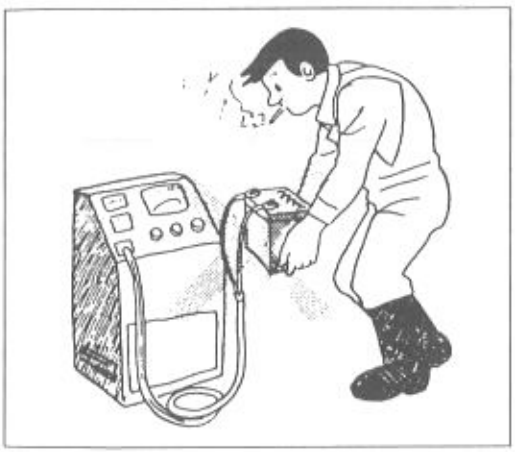
❸ 急速充電はできるだけ避け，普通充電し液温が《45℃》を超えないように注意します。



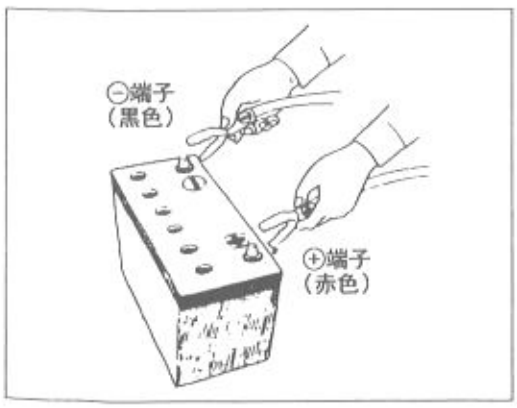
❹ 《水素ガス》が滞溜しないよう風通しのよい場所で充電をします。



❺ 《火気》を近づけたり《スパーク》により電気火花が発生しないよう注意をします。

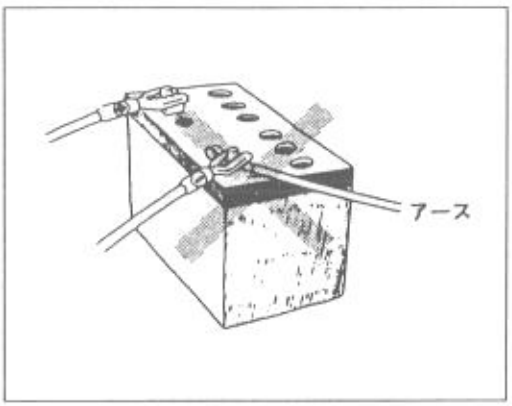


❻ 充電器のクリップを着脱するときは，必ず充電器のスイッチを《ＯＦＦ》にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく確実に取付けます。



❼ バッテリを搭載したまま充電するときは，バッテリの《アース側(⊖端子)》を必ず取外します。

・⊖端子を取付けたままで充電すると発電器やハーネスを焼損することがあります。



❽ 充電のとき《バッテリ液》が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないよう注意します。

・バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，ただちに水洗いをし，医師の手当を受けます。



・衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ石けんで硫酸分を洗い流します。

安全フレームの取扱い

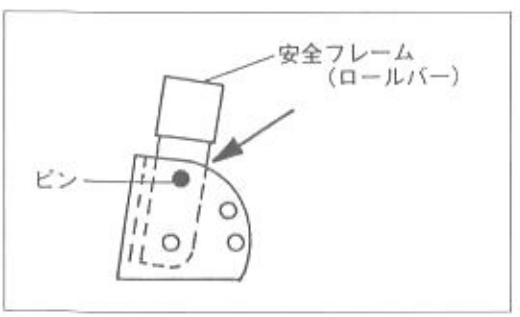
1 安全作業について

安全で快適な農作業をしていただくために，下記については特に注意して，《安全作業をするために》の項とあわせてお読みいただき，正しい取扱いをしてください。



◆安全フレームはトラクタが転倒した時に身を守るものですから，正しく使用してください。

◆通常の作業では確実に安全フレームを《おこして》矢印の位置にピンをセットして使用してください。作業中はシートベルトを必ず締めてください。



◆高さ制限のある屋内，果樹園等での作業は安全フレームを後方にたおすことができますが，この位置では身体を保護することはできませんのでシートベルトは締めないでください。

◆たおして使用するときは，フレームと作業機のスキマを確保してください。(作業機をゆっくり最大高さまで上げて確認してください。)

◆安全フレームに付属品を溶接したり，穴をあける等の改造はしないでください。

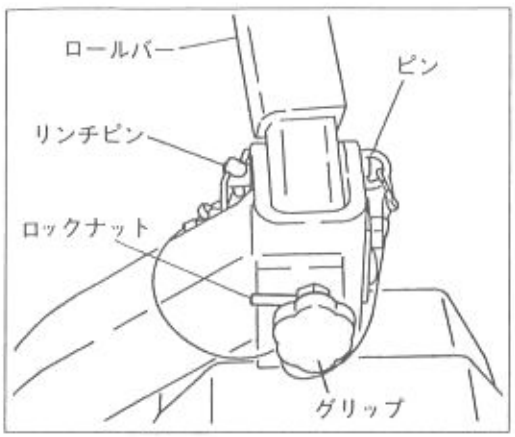
◆万一，事故により安全フレームが変形した場合は，すべての部品をチェックして《溶接したり，曲げたり》修理しないで新しい部品と交換してください。

◆交換部品は，必ず純正部品を使用してください。ボルト，ナットは下表のトルクで締めつけてください。

サイズ	M10	M12	M14
締めつけトルク(kgf•m)	4.0 ～4.5	8.5 ～9.5	15.0 ～17.0

2 安全フレームのたおしかた・おこしかた

安全フレームを《たおす》または《おこす》ときは，次の要領で行ってください。



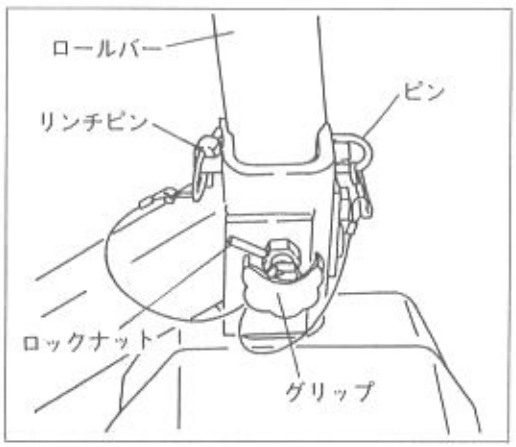
1 たおしかた

❶ リンチピンを抜いてください。
❷ ロックナットをゆるめ，ピンが自由に抜けるまでグリップをゆるめてください。
❸ 片方の手でロールバーを支えながらピンを抜いてください。
❹ ロールバーを後方にたおした位置でピンを差込んでください。
❺ リンチピンを差込んでください。

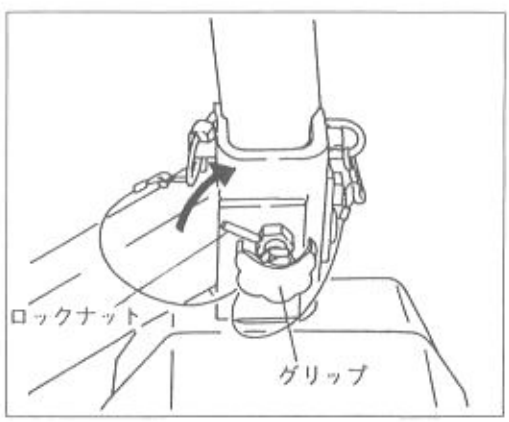
◆たおして使用するときは，フレームと作業機のスキマを確保してください。（作業機をゆっくり最大高さまで上げて確認してください。）
◆高さ制限のある場所（屋内，果樹園等）以外は必ず安全フレームを《おこして》使用してください。

◆安全フレームを《たおす》または《おこす》ときは機体を水平な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，必ずエンジンを停止してから行ってください。

2 おこしかた



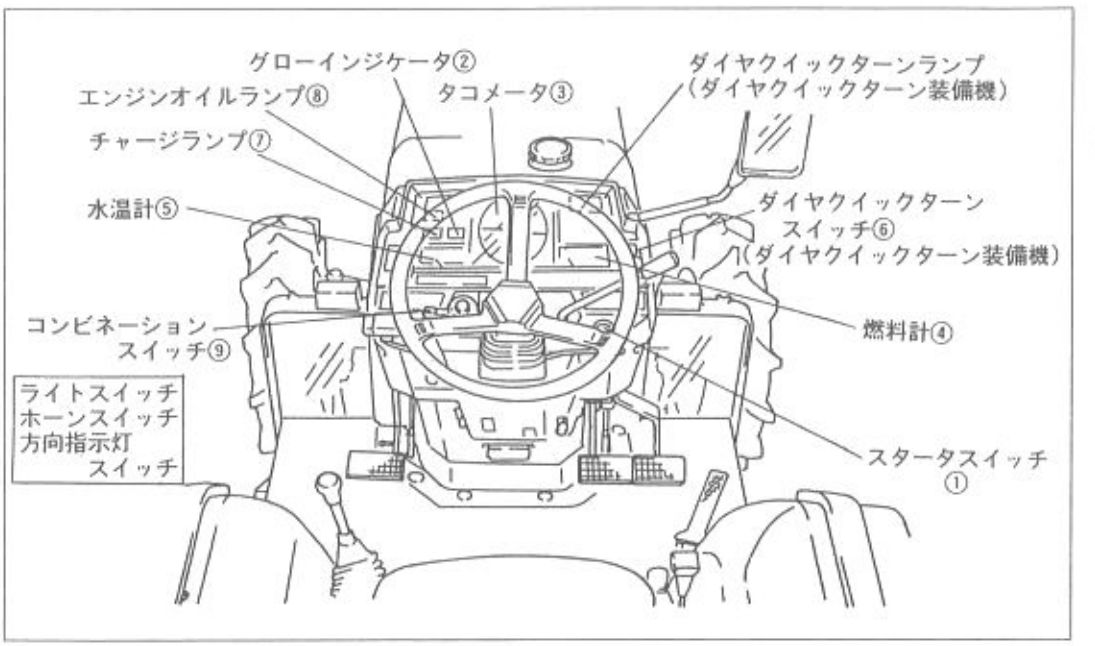
❶ リンチピンを抜いてください。
❷ 片方の手をロールバーを支えながらピンを抜いてください。
❸ ロールバーを前方におこして直立にした位置でピンを差込んでください。
❹ リンチピンを差込んでください。
❺ グリップをいっぱい締め込んでください。
❻ ロックナットをいっぱい締め込んでください。



上手な運転のしかた

1 各部の取扱い

1 スイッチ，計器関係





❶ スタータスイッチ

ＯＦＦ……電源切（エンジン停止）

キーをＯＦＦにするとエンジンが停止します。

ＯＮ（予熱）……電源入（運転中）

キーをＯＮにするとメータ内のグローインジケータが点灯し，グローに通電します。
グローインジケータ点灯時間は
冷却水温 5 ℃以上…… 1 秒
冷却水温 5 ℃以下…… 3 秒

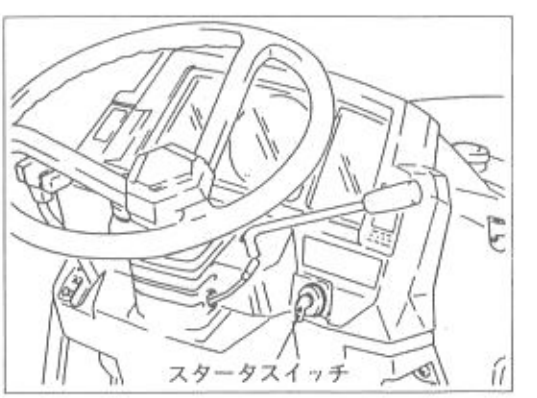
ＳＴＡＲＴ……エンジン始動

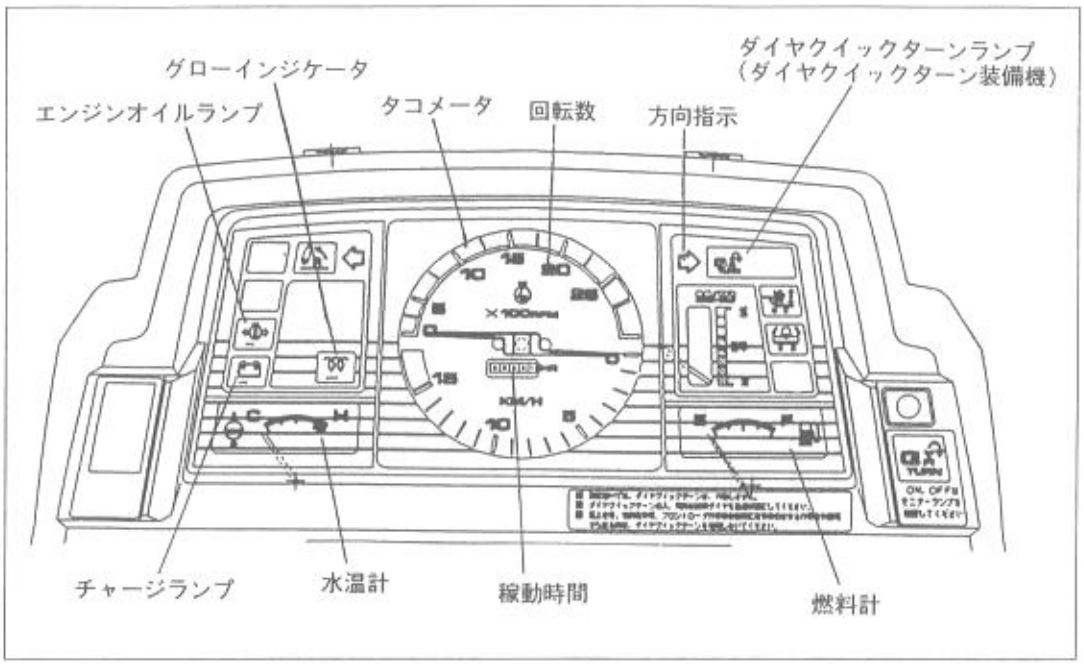
手を放せば自動的に《ＯＮ》位置にもどります。



◆クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。

◆トラクタを使用しないときは必ずキーを抜いておいてください。





❷ グローインジケータ

スタータスイッチを《ON》にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。

❸ タコメータ

・エンジン回転数を示します。

(1) 右側の針

最高速度段の走行速度を示します。

(2) 左側の針

エンジン回転数を示します。

・稼動時間 0 0 1 9 1 は19.1時間（19時間6分）使用したことを示します。

❹ 燃料計

燃料の残量を示します。

針が“E”を示した場合は早めに補給してください。

❺ 水温計

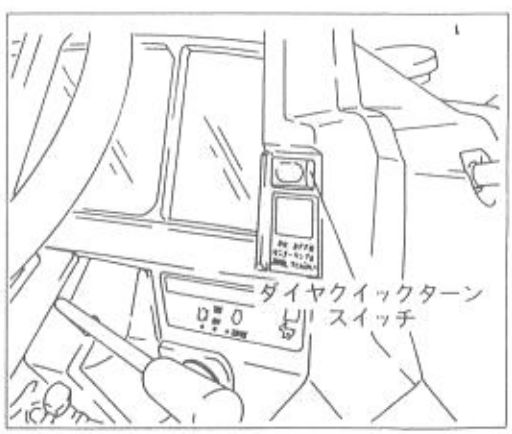
エンジン冷却水温度を示します。

◆針が“H”を示した場合は，しばらく休憩の後，冷却水の量，ラジエータの目づまり，ファンベルトの張りを点検してください。

❻ ダイヤクイックターンスイッチ（ダイヤクイックターン装備機）

・ダイヤクイックターンスイッチを押すとパネル内のダイヤクイックターンランプが点灯し，ダイヤクイックターンが作動し，旋回時の速度が早くなります。

安全のため副変速レバーが《H》及び超低速レバーが高速（🐇）のときはダイヤクイックターンが作動しない構造にしてありますので点灯しません。



◆ダイヤクイックターンに入れたり，切ったりするときは前輪タイヤを直進状態にしてください。

◆道路走行時はダイヤクイックターンを必ず切ってください。

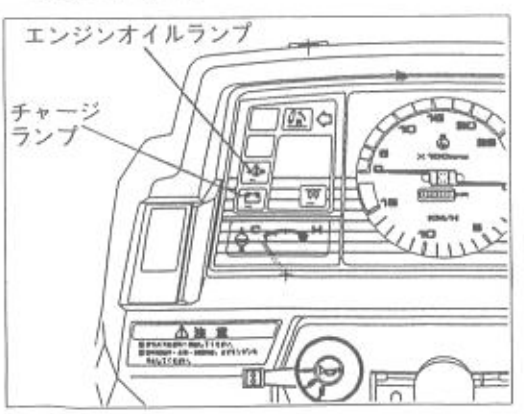
◆副変速レバーが《H》及び超低速レバーが高速（🐇）ではダイヤクイックターンは作動しない構造になっています。ダイヤクイックターンを使用するときは，必ず安全速度で運転してください。今までの旋回速度より速くなり横転等の危険があります。

◆路上走行・傾斜地作業・フロントローダ作業等の前輪に高負荷のかかる作業時や，ほ場から出る時は，ダイヤクイックターンを使用しないでください。

❼ チャージランプ

エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンが停止しているとき，スタータスイッチを《ON》位置にすると点灯し，エンジンを始動すると《消灯》するのが正常です。



◆エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを止め，エンジンファンベルトを張ってください。

◆エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。

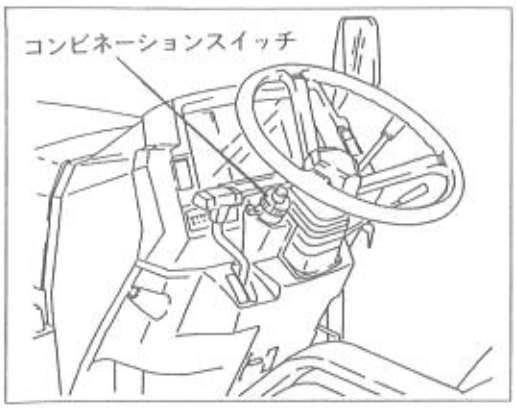
❽ エンジンオイルランプ

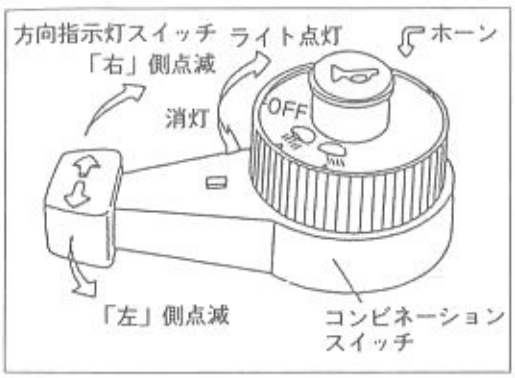
エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば《点灯》し，エンジンが停止します。

エンジンを始動後，回転があれば《消灯》するのが正常です。

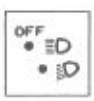
◆運転中に点灯したときは，エンジンオイル量を点検してください。
オイル量が正規であれば，ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。

❾ コンビネーションスイッチ





(1) ライトスイッチ



ＯＦＦ……消灯

……メータ類ランプ点灯及び前照灯上向点灯

……メータ類ランプ点灯及び前照灯下向点灯

(2) ホーンスイッチ



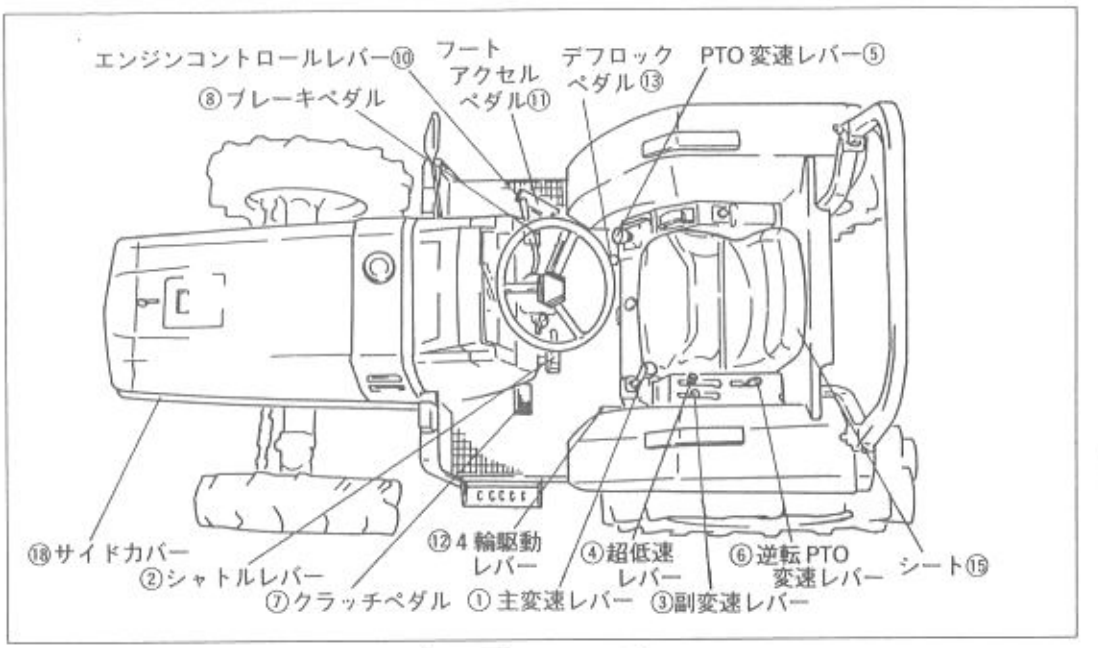
ホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。

(3) 方向指示灯スイッチ



右折，左折のとき使用します。

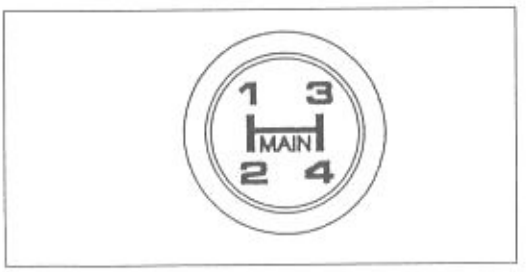
2 レバー，ペダル，シート関係





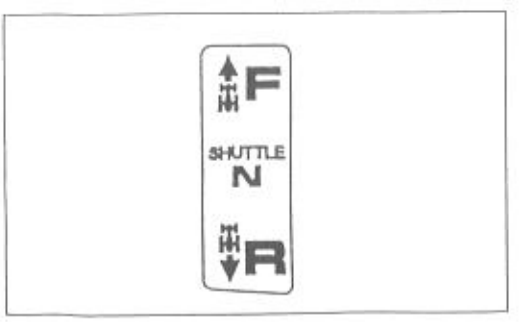
❶ 主変速レバー

4段の変速位置があります。副変速レバー・超低速レバーと併せて，16段の変速ができます。



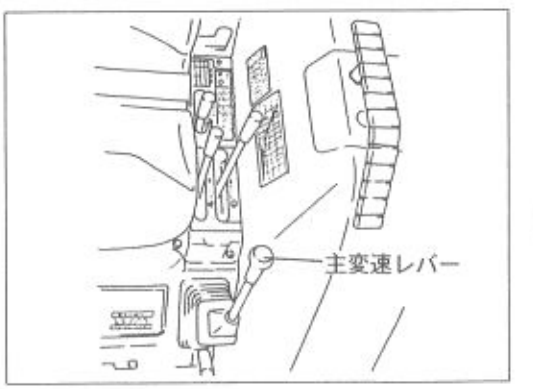
❷ シャトルレバー

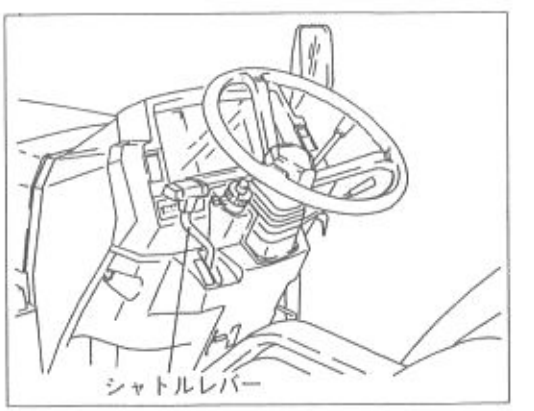
前進，後進の切換えができます。レバー位置は前側が前進，後側が後進となっています。





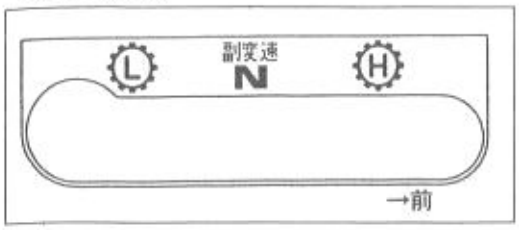
◆後進は，エンジンの回転を下げて，後方の安全を確認してから行ってください。





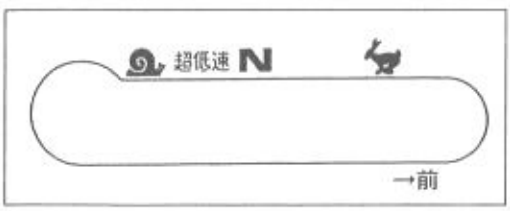
❸ 副変速レバー

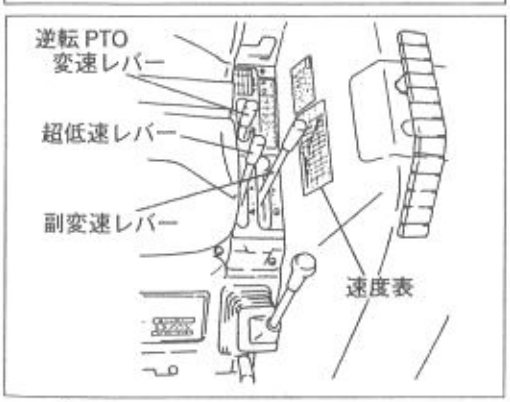
・H高速，L低速２段の変速位置があります。



❹ 超低速レバー

・高速（🐇）と低速（🐢）の２段の変速位置があります。

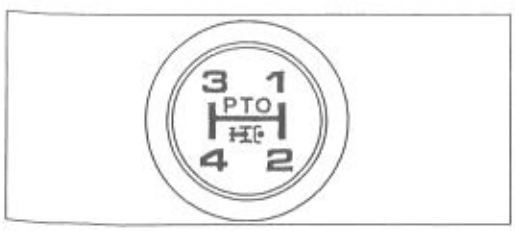


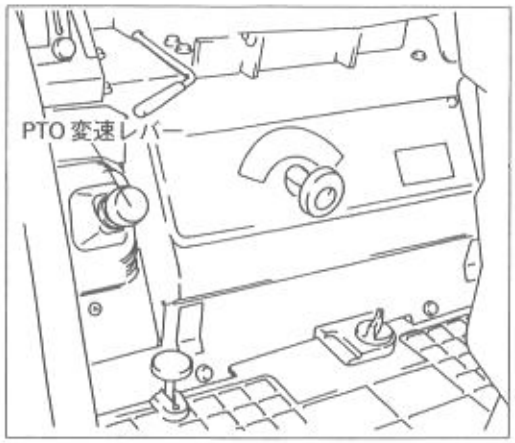


◆主変速，副変速，超低速レバーの各々の位置での車速はフェンダー(左)に貼り付けてある速度表をご覧ください。(作業速度と PTO 回転速度はP46参照)

❺ PTO 変速レバー

・PTO 軸の回転速度を４段に変速できます。

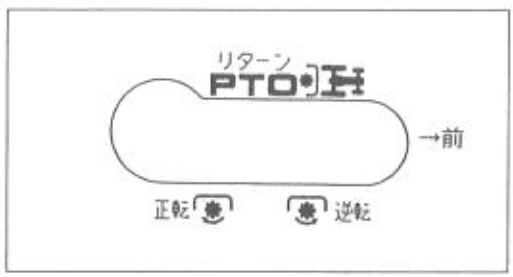




❻ 逆転ＰＴＯ変速レバー

・PTO 軸の回転方向を正転と逆転に切換えます。

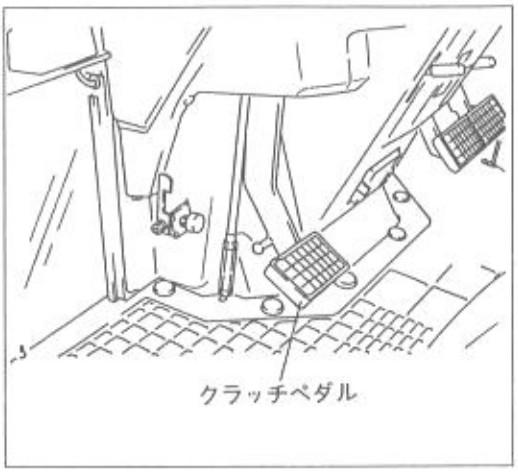
・PTO レバーと合わせて正転４段・逆転４段の変速ができます。



◆PTO 変速レバー，逆転 PTO 変速レバーの操作は作業機（ロータリ）を上げた後，クラッチペダルを踏込んで，PTO 回転が完全に停止してから行ってください。入り難い場合は，無理な操作をせず，もう一度，クラッチペダルを踏み直してから操作をしてください。

❼ クラッチペダル

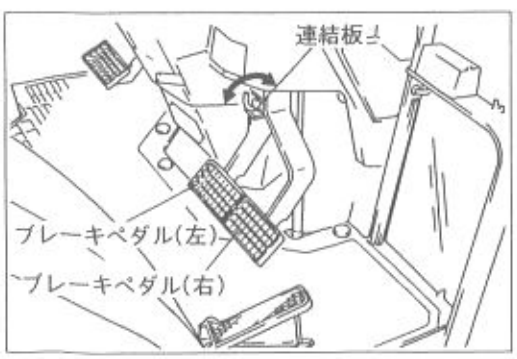
・ペダルをいっぱい踏込むと，クラッチが切れます。
・エンジン始動，変速，停止のとき踏込みます。



◆クラッチペダルはす早く踏込み，ゆっくり離してください。
◆安全上，始動安全スイッチが装備されており，ペダルを踏込まないと始動できないようになっています。

❽ ブレーキペダル

右・左のペダルに分かれており，右のペダルを踏むと，右後輪にブレーキがかかります。

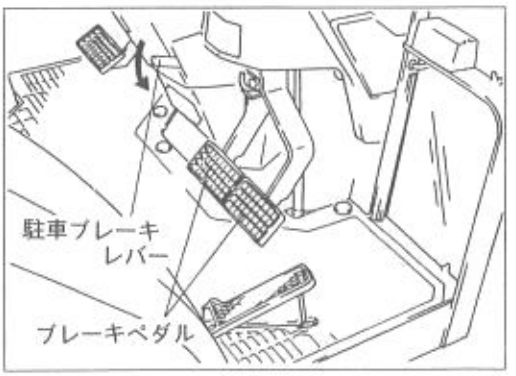


◆運転時は，クラッチペダル，ブレーキペダルから足を離しましょう。足を乗せたまま運転しますと故障の原因となります。

◆停止の場合はクラッチペダルも同時に踏込みます。
◆道路走行時は連結板で左右のペダルを必ず連結してください。片ブレーキでは横転，衝突，転落等の危険があります。

❾ 駐車ブレーキレバー

・左右ブレーキペダルを連結し，駐車ブレーキレバーを下方に押さえながらブレーキペダルを強く踏込みます。
・駐車ブレーキを解除するのは，ブレーキペダルを強く踏込めば外れます。

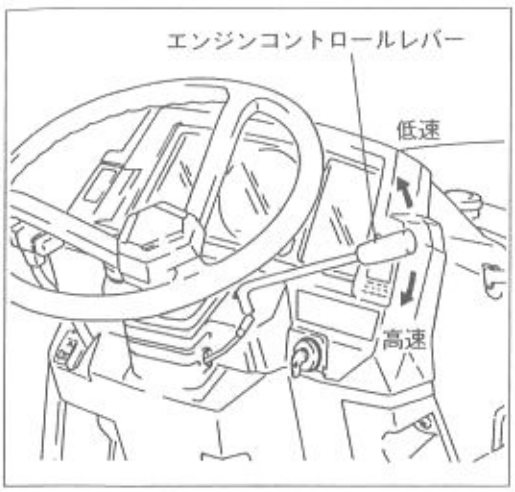


◆駐車時，停車時には必ず駐車ブレーキレバーをかけてください。

⑩ エンジンコントロールレバー



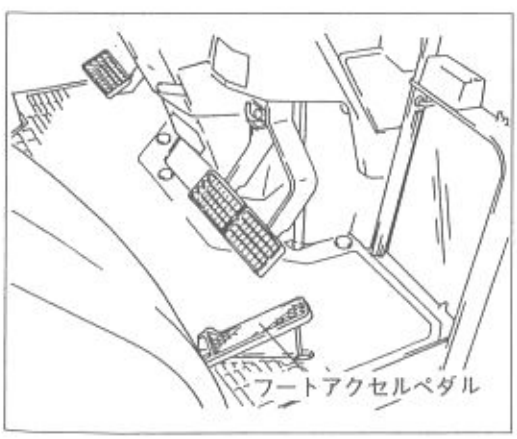
レバーを手前に引けば高速となり，前方へ押せば低速となります。



⑪ フートアクセルペダル

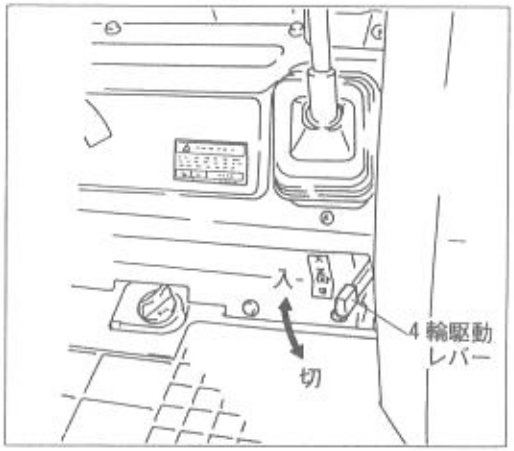
・道路走行に使用します。

・この時，エンジンコントロールレバーを低速にしておきます。



⑫ 4輪駆動レバー

4輪駆動レバーを上方に引上げると前輪駆動が入ります。



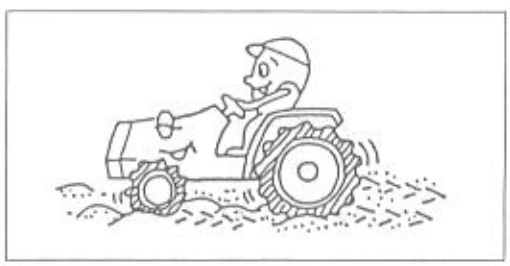
4輪駆動にすると，次のような場合に威力を発揮します。

(1) 傾斜地，湿田，トレーラ，フロントローダ，プラウ作業時でけん引力を必要とする場合。

(2) 砂地で作業をする場合。

(3) 固いほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

(4) ほ場への出入り，およびあぜ越えを行う場合。

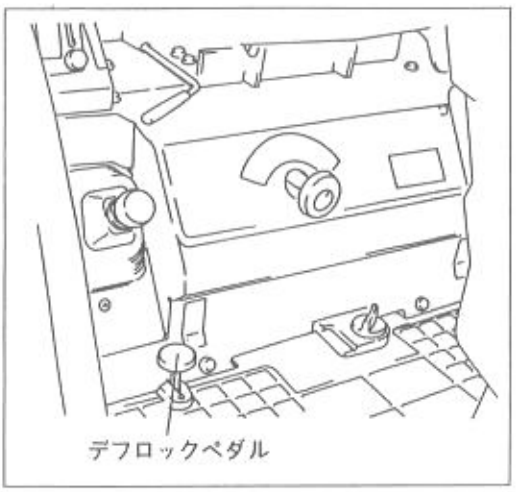


◆クラッチペダルを踏んでから，4輪駆動レバーを操作してください。

◆トラクタ単体で，平坦な路上走行時は，タイヤ摩耗防止のため，4輪駆動レバーを《切》に操作し，走行してください。

⑬ デフロックペダル

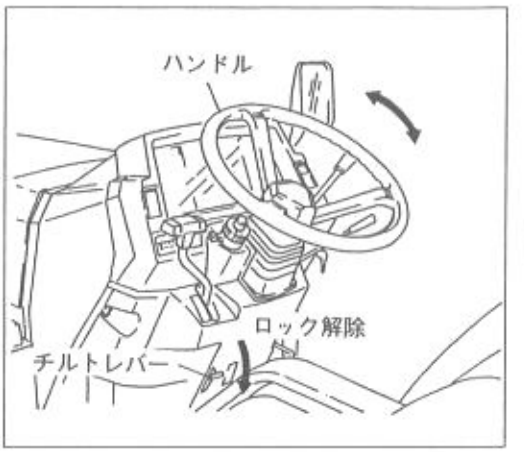
・このペダルを踏むと左右の後輪は同じ回転でしか回転できなくなります。
・ペダルから足を離すと外れます。はずれない場合は片側のブレーキを瞬間的に踏めば外れます。
・片側車輪がスリップするときやあぜ越えのときに使用します。



◆このペダルを踏込みますと，直進しかできなくなります。道路走行時は使用しないでください。
◆両輪の回転差が大きい場合は，一度クラッチを切ってから行ってください。
◆デフロックを入れたままで旋回すると非常に危険です。もしおこたると障害事故につながります。

⑭ チルトハンドル

・チルトレバーを押し下げると，ハンドルの角度を前後３段階に変えることができます。
・レバーから手を離すとハンドルはロックされます。



◆ハンドルの角度を変えた時は，チルトレバーが上方に戻り，ハンドルが確実にロックされていることを確認してください。

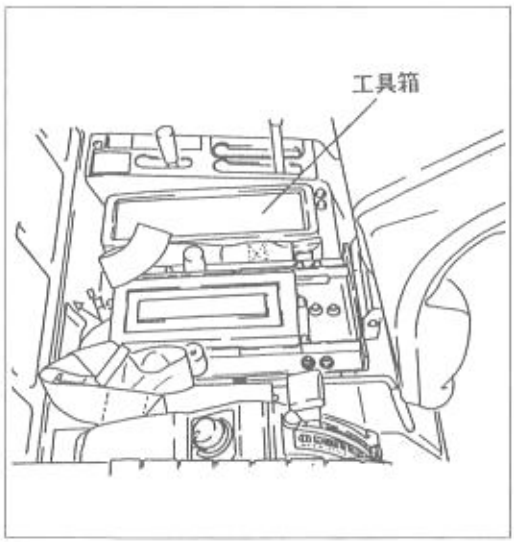
⑮ シート

シートの位置はシート調節レバーで５段階に調節できます。



⑯ 工具箱

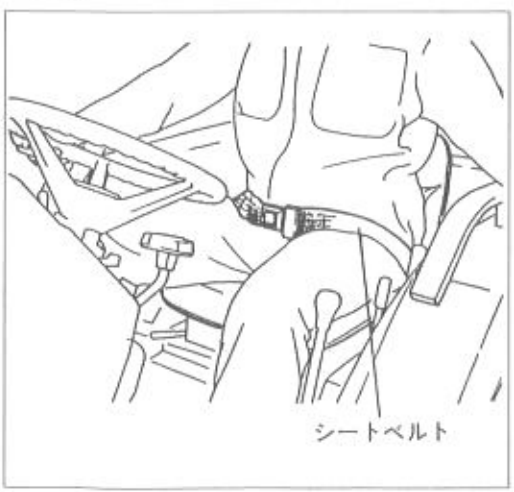
工具箱はシート下の左側にあります。



⑰ シートベルト

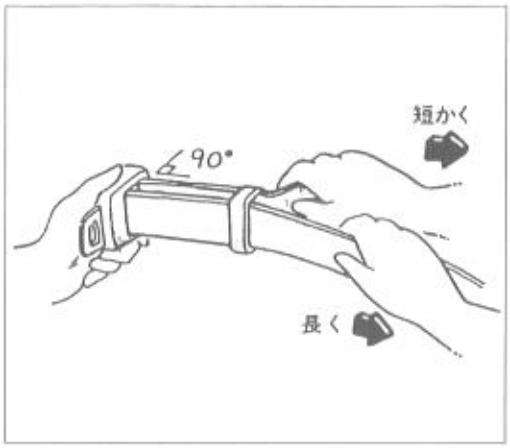
運転するときは，シートベルトを使用してください。

◆安全フレームを後方に倒して作業するときは，シートベルトを使用しないでください。



●着けるときは

1．ベルトをプレートと直角にして，ベルトを着けたときに腰部とベルトの間に手のひらが入る程度となるように長さを調整します。



2．シートベルトがねじれていないことを確かめた後，プレートをバックルに〝カチッ〟と音がするまではめ込みます。

●外すときは

バックルのボタン（中央の赤い部分）を押すと外れます。外したベルトはバックルとプレートをはめておいてください。

⑱ サイドカバー

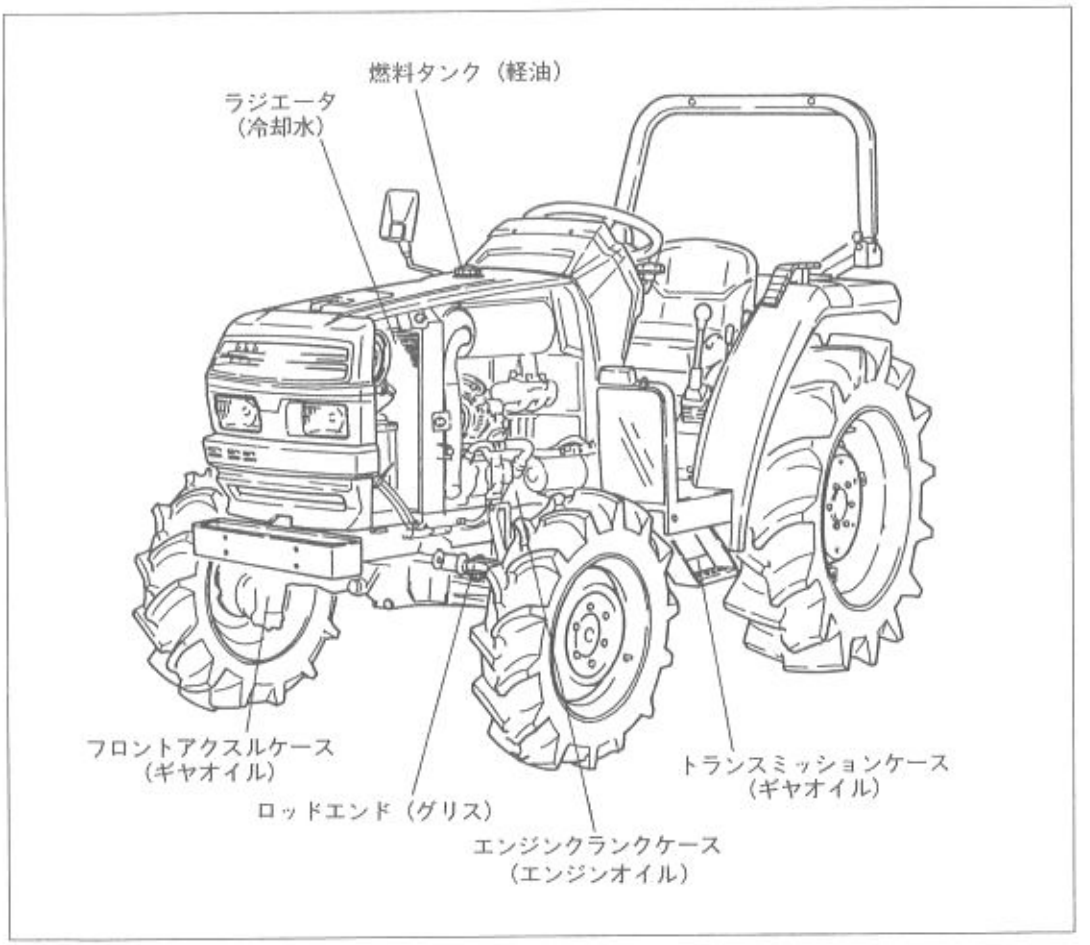
左右のサイドカバーは，カバー中央部のノブを回してフックを解除し，カバーの下方両端を手前に引いた後，持上げる様にして外してください。



2 運転まえの準備

1 給油・注油・給水個所

・出荷のときは各給油個所とも，オイル等は入っていますが，作業するまえに必ず点検してください。



◆給油・注油するときには，機体を水平な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，必ずエンジンを停止してから行ってください。

◆エンジン回転中，またはエンジン停止直後の過熱しているときの燃料補給は厳禁です。

◆燃料補給時は火気厳禁です。燃料に引火し火災の原因になります。

◆燃料がこぼれた場合はきれいにふきとってください。

◆各給油個所には，必ず指定オイルを規定量給油してください。

◆オイル交換は，作業後オイルが暖いうちに行うと容易にできます。

2 給油・注油・給水表

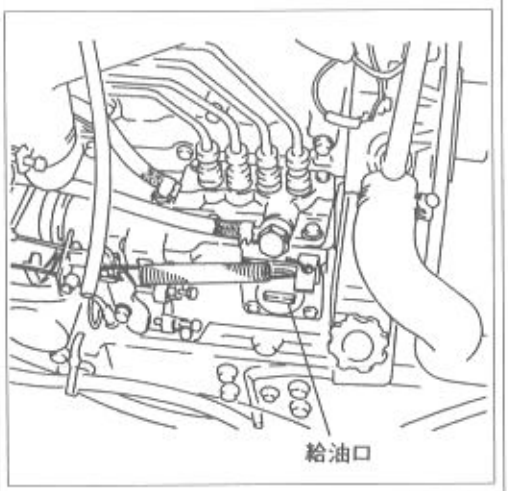
No.	油種(水)	給油・注油・給水脂個所	個所数	容量	交換時間
①	エンジンオイル	エンジンクランクケース	1	4.5ℓ	作業前点検・100時間ごと交換(新車時50時間で交換)
②	軽油	燃料タンク	1	28ℓ	作業前点検(必要量補給)
③	水	ラジエータ	1	6.4ℓ	〃 (〃)
④	ギヤオイル ※1	トランスミッションケース	1	41ℓ	初回100時間,後は200時間ごと交換
⑤	ギヤオイル ※2	フロントアクスルケース	1	3.0ℓ	〃
⑥	グリス	ブレーキリンク(左・右)	2	適量	作業前点検・50時間ごと給脂
⑦	〃	ロッドエンド	4	〃	〃

- エンジンオイル……純正油またはディーゼルエンジンオイルAPI分類CC級以上
- 燃料……ディーゼル軽油
- ギヤオイル……純正油または※1……API分類GL－4級以上
  ※2……API分類GL－3級

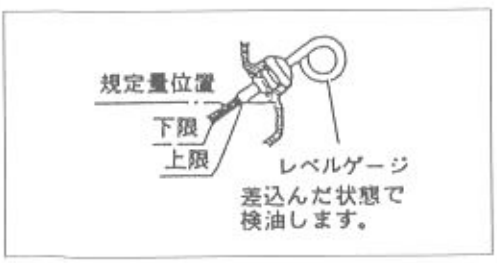
【注】他のメーカのオイルを使用する場合はオイル表を参照してください。

❶ エンジンクランクケース

・オイル……ディーゼルエンジン用オイル，CC級以上。
・オイル量……4.5ℓ
　レベルゲージの刻み線まで給油します。

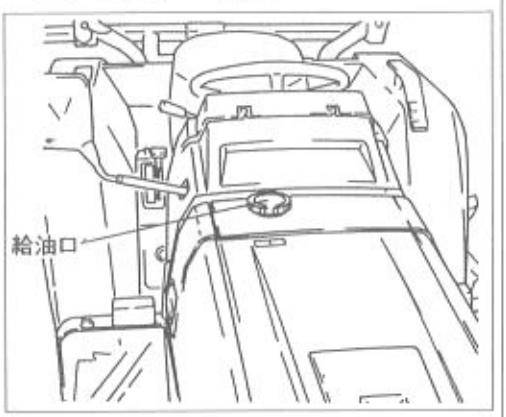




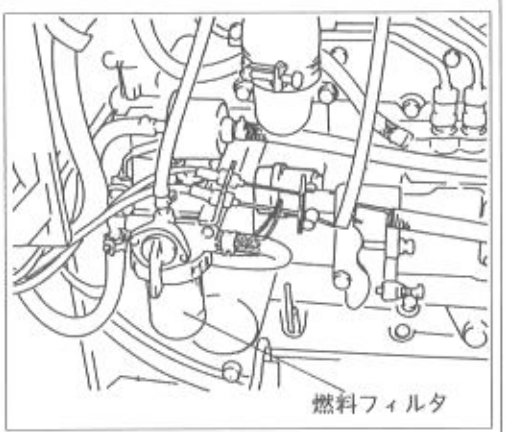


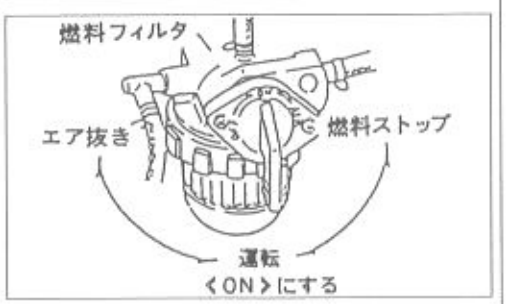
❷ 燃料タンク

・燃料……ディーゼル軽油
・タンク容量……28ℓ



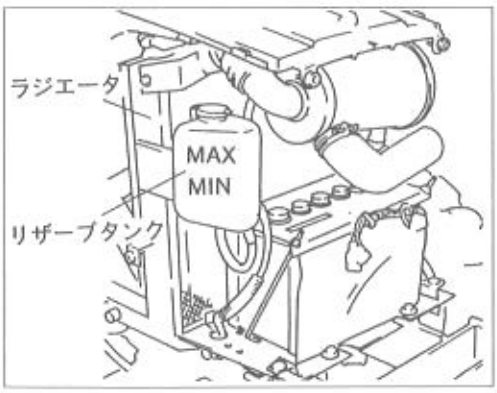
・燃料の供給は必ずこし網を使用し，ゴミや水が混入しないように注意してください。
・燃料フィルタのコックを《ON》にします。





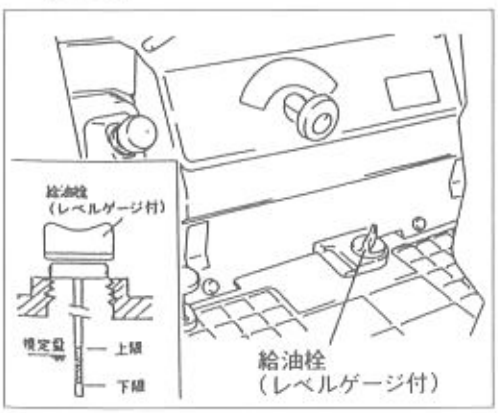
❸ ラジエータ

- 容量……6.4ℓ
- リザーブタンク内の冷却水を上限（MAX），下限（MIN）の中間まで給水します。



❹ トランスミッションケース

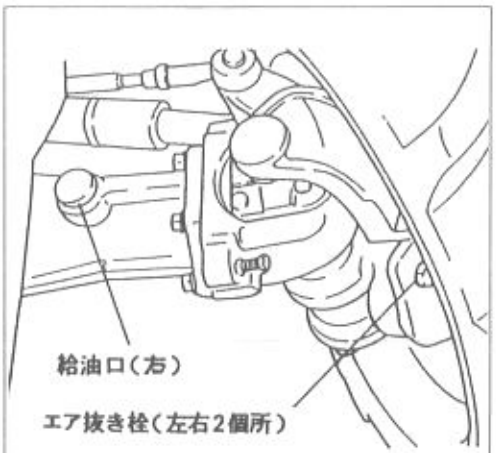
- ギヤオイル……API，GL－4級以上で湿式ブレーキ適性オイル。
- オイル量……41ℓ
- 給油栓のレベルゲージ刻み線まで給油します。



- 給油はゆっくり行ってください。
- 検油は給油後約5分間放置したのち行ってください。
- 検油は給油栓を差し込んだ状態で行ってください。

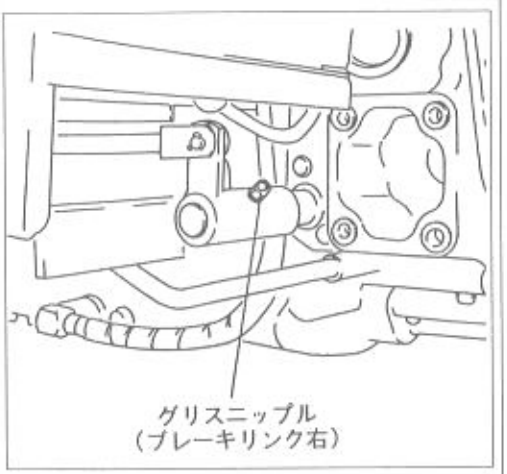
❺ フロントアクスルケース

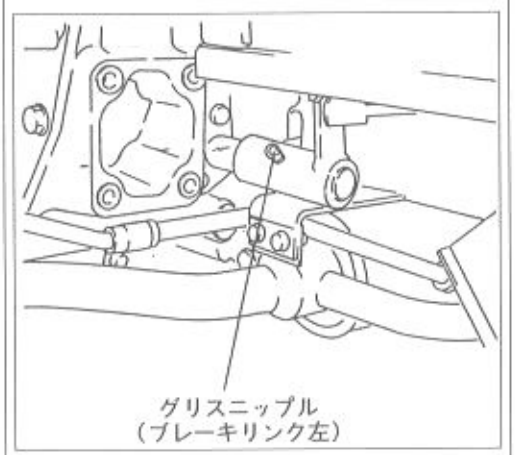
- ギヤオイル……API，GL－3級
  SAE#80
- オイル量……3.0ℓ
- オイルを規定量3.0ℓ給油したのち，左右のエア抜き栓を外し，オイルがもれたら栓を締めます。



❻ ブレーキリンク

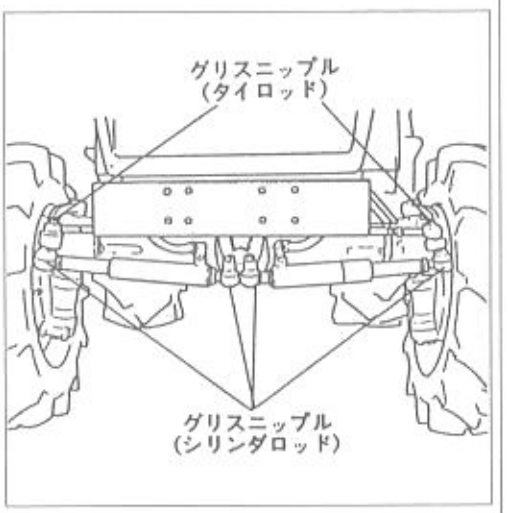
・グリスニップルより適量給脂します。





❼ ロッドエンド

・グリスニップルより適量給脂。
（6個所）



3 運転操作の要領

1 エンジンの始動

❶ 駐車ブレーキをかけておきます。



❷ 主変速レバー，PTO 変速レバーを《中立》にします。

❸ エンジンコントロールレバーを手前にいっぱいに引きます。





❹ クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

❺ スタータスイッチを《ON》にするとエンジンオイルランプ，チャージランプ，グローインジケータランプが点灯します。



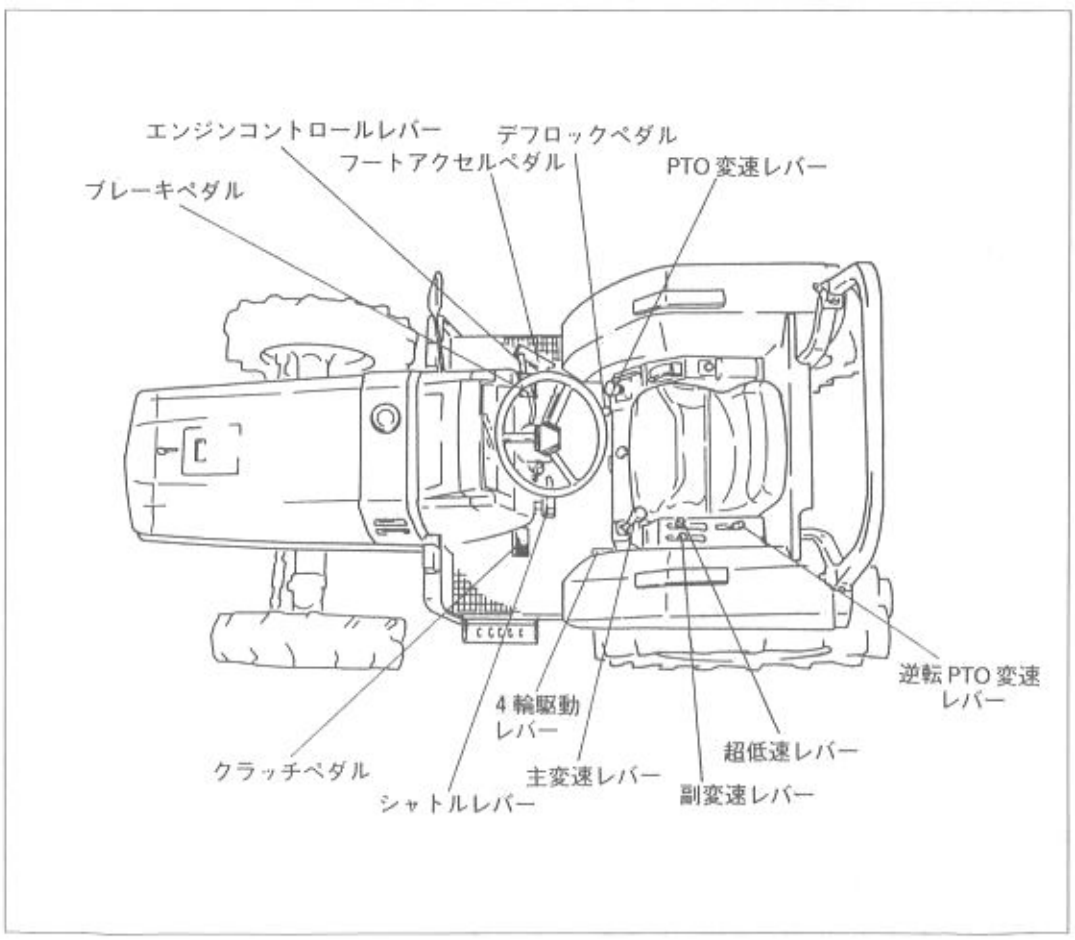


❻ グローインジケータランプが消灯してから，スタータスイッチを《START》位置にしてください。

❼ 始動したら，ただちにスタータスイッチより手を離します。キーは自動的に《ON》の位置に戻ります。



◆エンジンが暖っているとき，および気温の高いときは（夏期）OFFから直接STARTをまわしてエンジンを始動してください。



❽ エンジンオイルランプ，チャージランプが消えている事を確認します。消えないときは，すぐエンジンを停止して点検してください。

❾ エンジン回転1500回転ぐらいで暖機運転します。（５分間ぐらい）

◆トラクタに乗車する前に，必ずトラクタの外周を見て回り，異常がないことを目視で確認してください。

◆エンジンを始動するときは，周囲の人にあいずをし，トラクタのまわりに人がいないか，またトラクタ，作業機の上に運転者以外の人が乗車していないことを確かめてから行ってください。

◆エンジンの始動は，必ずシートに着席してから行ってください。

◆走行クラッチペダルをいっぱい踏まないと，エンジンは始動しません。

◆スタータはエンジンが少しでも回転しているときは，使用してはいけません。
故障の原因となります。

◆始動操作を繰返した場合，グローインジケータランプは点灯しません。またエンジン停止後，すぐにエンジンを再始動する場合にも点灯しないか，点灯時間が短いことがありますが，保護回路が作動するためで，故障ではありません。

◆暖機運転は，寒冷時に限らず行いましょう。エンジンが暖まらないうちに走行しますと，エンジンの寒命を短くします。

《寒冷時の始動》

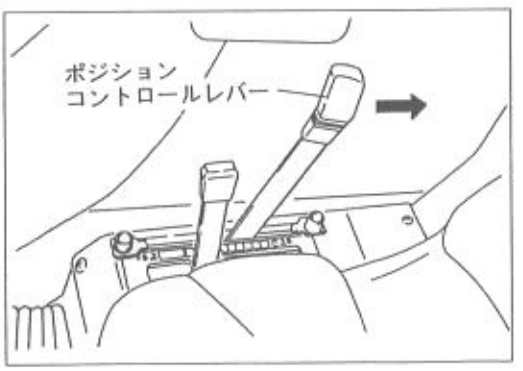
・下表のエンジンオイル，燃料を使用してエンジンを始動し易くします。
（エンジンオイル，冷却水を一度別の容器で暖めればいっそう始動が容易になります。）

気温(℃)	−20	−10	0	10	20
エンジンオイル	10W−30		SAE20		SAE 30
燃料（軽油）	JIS 特3号	JIS 3号	JIS 2号		

◆厳寒時は，トラクタを格納するときにバッテリを取外して暖い所に保管して置きましょう。

2 発進のしかた

❶ ポジションコントロールレバーを後方に引き，作業機を持上げます。



❷ エンジン回転を1500回転位にします。

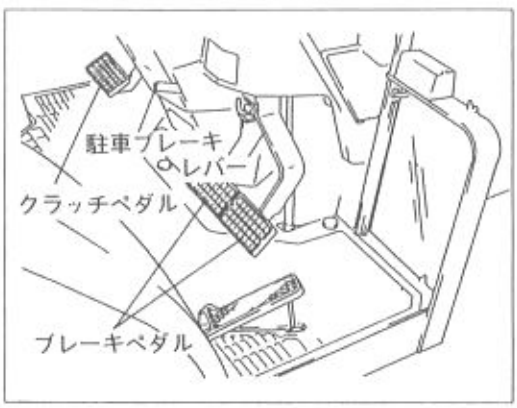
❸ クラッチペダルを，いっぱいに踏込みます。

❹ 各変速レバーを所要変速位置に入れます。

◆変速はクラッチペダルをいっぱい踏込んで，行ってください。

◆変速が入り難い場合は，無理な操作をせず，もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作を行ってください。

❺ ブレーキペダルを強く踏込み，駐車ブレーキレバーを外します。



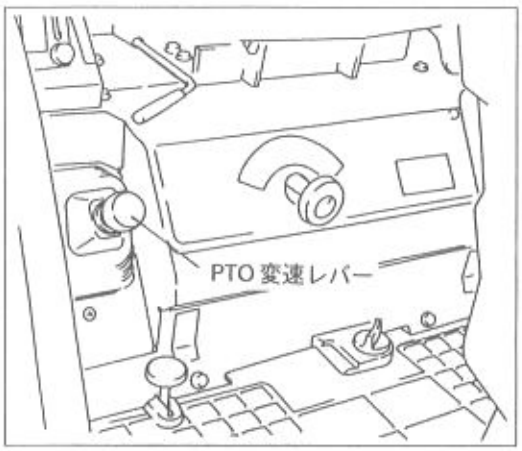
❻ クラッチペダルをゆっくり離して発進します。

◆クラッチペダルはゆっくり離してください。急に離すと急発進して危険です。

《道路走行時の注意》

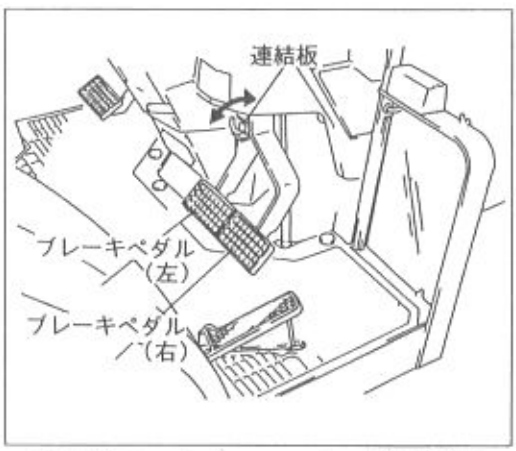
・トラクタや作業機に他の人や物を乗せないでください。

・PTO変速レバーは常に《中立》にしておいてください。

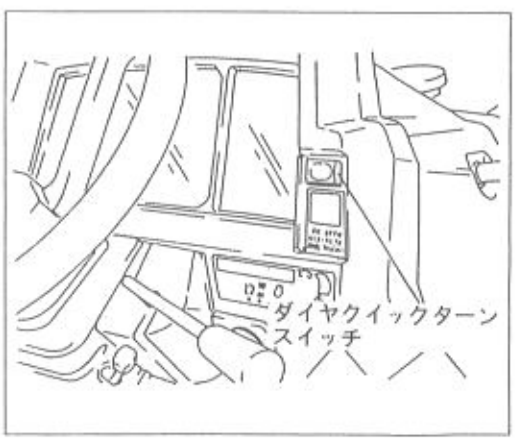


・走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。

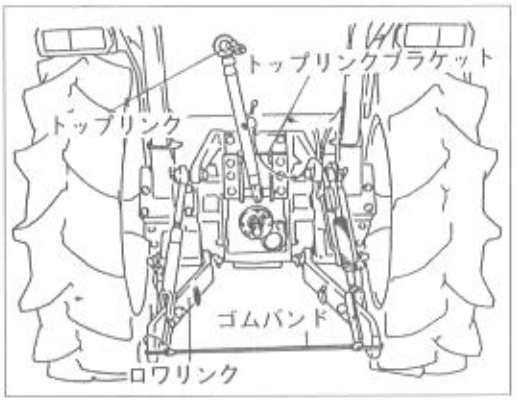
・左右のブレーキペダルは必ず連結してください。



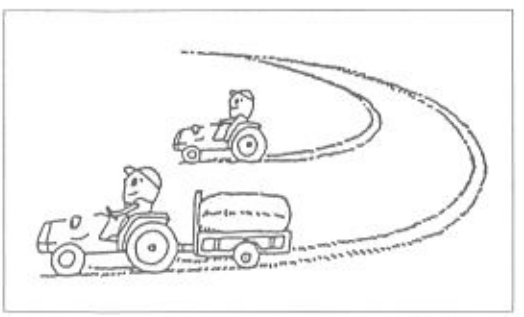
・ダイヤクイックターンスイッチは必ず切って走行してください。
（ダイヤクイックターン装備機）



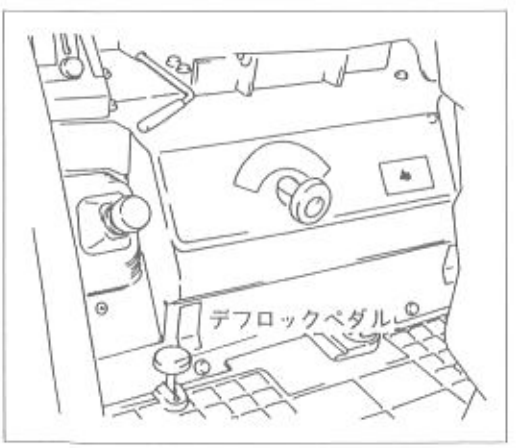
・３点リンクに作業機を装着しないで走行するときは，左右のロワリンクをゴムバンドでつなぎ，振れ止めしてください。尚，トップリンクは取外してください。



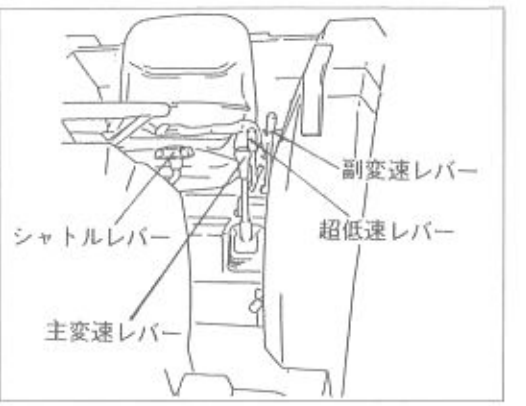
・作業機を装着しているときは，場所を充分に確認し，ゆっくりと旋回してください。
・高速で急旋回しないでください。必ずエンジン回転を下げて旋回してください。



・デフロックが外れていることを確認してください。



・下り坂ではエンジンブレーキをかけ，変速レバーを中立にしないでください。

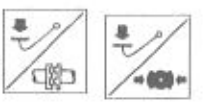


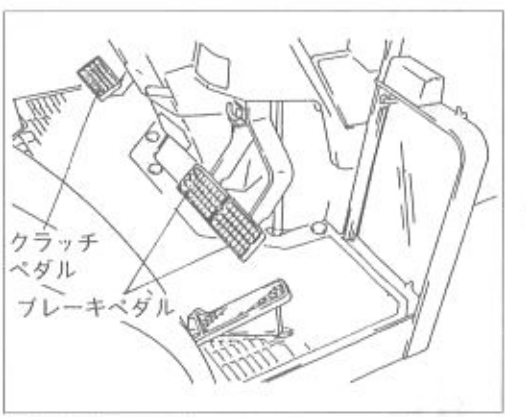
3 停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーを前方に押して，エンジンを低速回転にします。



❷ クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏むと停止します。





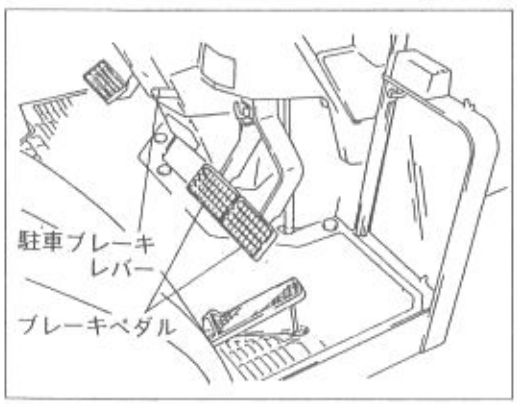
❸ 主変速レバー，シャトルレバー及びPTO変速レバー《中立》にしてから，クラッチペダルより足を離します。

❹ スタータスイッチを《OFF》にします。



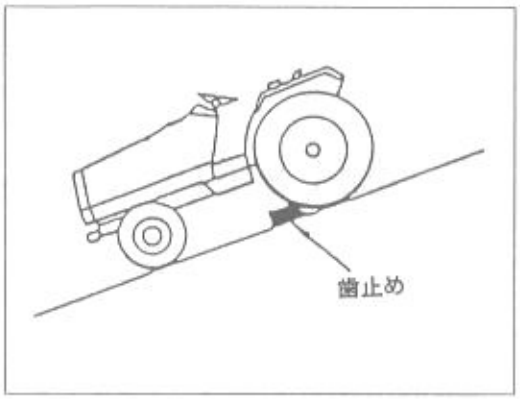
◆作業が終ってもエンジンをすぐ停止させず，アイドリング回転で５分間ほど回転させておきます。
◆すぐ停止させますと，エンジンの冷却が悪くなり，寿命を縮めます。
◆燃えやすいものの近くには停めないでください。
◆エンジンが過熱しているとき，シートをかけないでください。《火災》の原因になります。

❺ 駐車ブレーキをかけます。ブレーキペダルより足を離します。 **P**



◆駐車時，停車時には必ず駐車ブレーキをかけてください。

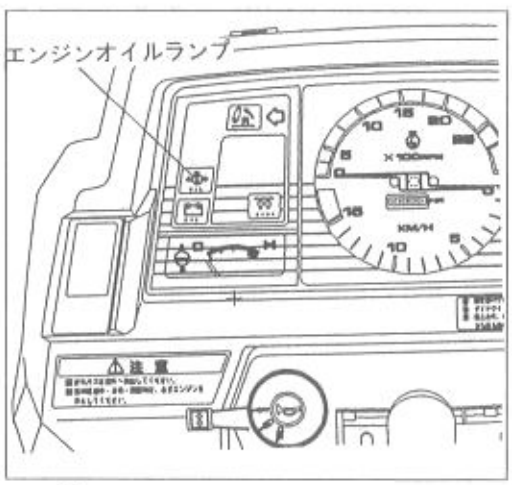
《駐　　車》
・駐車する場所は平らな場所を選んでください。
・駐車ブレーキをかけると共に変速レバーを低速に，シャトルレバーを後進に入れておいてください。
・傾斜地では更にタイヤに歯止めをしてください。



❻ 作業機をおろします。

《自動緊急停止》

エンジンの油圧が何かの原因で規定圧より低下するとエンジンは自動的に停止します。その時《エンジンオイルランプ》が点灯しますので速やかにスタータスイッチを《ＯＦＦ》の位置にしてください。



【自動緊急停止時の再始動について】
◆自動緊急停止後，そのまま再始動するとエンジンは始動しますが，約２秒後再度停止します。この状態で始動すると始動後２秒間隔で停止をくりかえします。
◆自動緊急停止した場合はエンジンオイルレベルまたはオイルフィルタを点検してください。

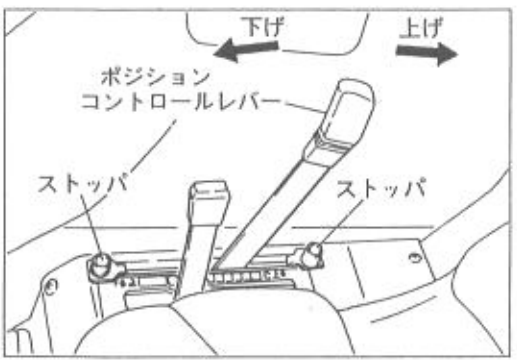
上手な作業のしかた

1 油圧装置の取扱い

1 コントロールレバーの操作（標準機）

この油圧装置にはポジションコントロールレバー及びPACレバーを備えています。・マイコン装備機については「マイコン装備機の取扱い」の項を参照してください。

❶ ポジションコントロールレバー



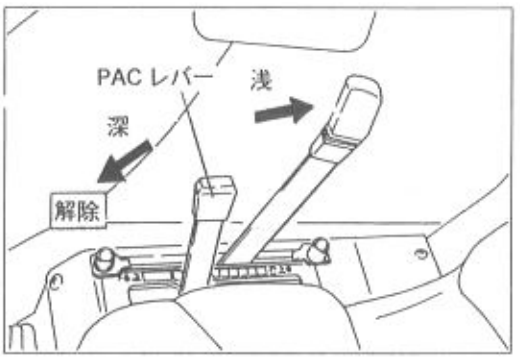
ポジションコントロールレバーは作業機の位置が自由に決められ一定に保たれます。ポジションコントロールレバーを使用する場合は次のように操作してください。

・ポジションコントロールレバーを前方に押せば作業機は自重で下がります。

・ポジションコントロールレバーを任意の位置にすると，作業機はそのレバー位置に対応した高さまで上下した所で止まります。

・作業機の高さを常に一定の位置に保ちたい場合は，《ストッパ》でポジションコントロールレバーの位置を決めることにより，作業機の下げ位置は同じになります。

❷ PACレバー（耕深自動調節）

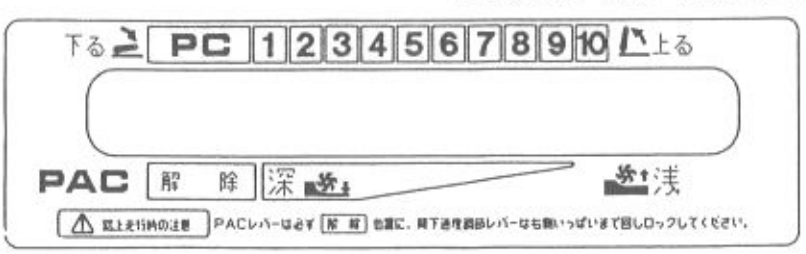


PACレバーは，ロータリ耕うん作業において耕深を自動調節します。

ロータリの耕深をレベラで検知して，自動的に油圧を作動させ，耕深を一定に保持します。PACレバーを使用する場合は，次のように操作してください。

・ポジションコントロールレバーを《下げ》位置にしてください。ロータリは自重で下がります。

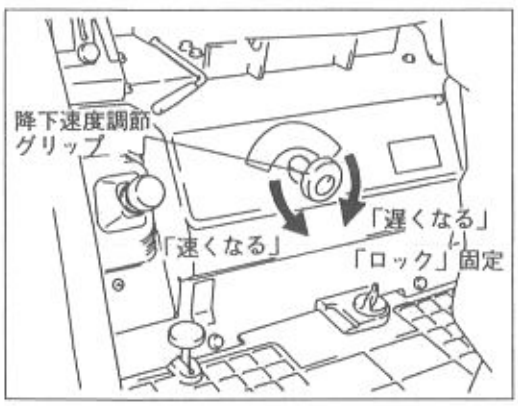
・PACレバーの位置により，ロータリの耕深位置をセットできます。PACレバーを前方にするほど耕深は《深》く，後方にするほど《浅》くなります。



・旋回時は，ポジションコントロールレバーでロータリを上げてください。旋回後ポジションコントロールレバーを下げて耕うんすると，もとの耕深が維持できます。

◆道路走行するときは必ずPACレバーを 解除 位置にしてください。

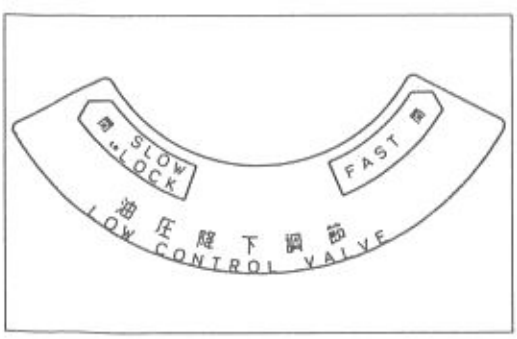
2 作業機降下速度の調節



◆降下速度調節グリップはシートの下にあります。

降下速度調節グリップを回すことにより調節できます。

降下速度調節グリップ	降下速度
右に回す－閉	遅くなる
左に回す－開	速くなる
右に軽く締込む	ロックされる



・作業機の種類，作業状況によって降下速度を調節してください。
　ロータリ作業……降下速度を遅く
　プラウ作業……降下速度を速く
・硬いほ場でのロータリ作業では，普通の場合より降下速度を遅くすると飛出しにくくなります。
・軟らかい土質又は砂地では降下速度調節グリップを《開》の方向に回して飛出ししない程度，速くしてください。

◆油圧をロックするときは降下速度調節グリップを一杯に締込まないで，軽く締込むだけにしてください。締込んだ後，ポジションコントロールレバーを《下げ》の方向に動かして，作業機が落下しないか必ず確認してください。

◆道路走行時は必ず降下速度調節グリップでロックしてください。

◆ロータリのつめ交換，草，ワラなどの除去，および作業機の点検時などのときは安全のため，エンジンを停止し，ポジションコントロールレバーを《上げ》位置にし，必ず降下速度調節グリップでロックしてください。

3 パワーステアリングの取扱い

このトラクタは，全油圧形パワーステアリングが装備されています。従来形のパワーステアリング（インテグラル，コンバインド形）に比較し，操作感覚が少し異なりますので，充分注意し運転してください。

❶ ハンドルから前車軸までの間にリンク機構がありませんので，いっぱいに切った後でも，力を加えることにより更にハンドルは若干回ります。ハンドルは軽い力でも切れるため，余分な力を必要としませんので，必要以上に力を加えてハンドルを切らないようにしてください。（パワステリリーフ圧力以上の過大出力で装置の寿命を縮める原因となります。）

又，ハンドルを切ったときのみ車輪は切れるため，旋回から直進に移るとき，従来形のように直進に戻りませんので，ハンドルを回し直進に戻すことが必要です。（ノンロードリアクションタイプ）

❷ 高速走行時は，ハンドルが軽く感じますので，急にハンドルを切らないよう充分注意してください。

❸ エンジン高回転時はハンドルを切ったとき，ギーという音がする場合がありますが，異常ではありません。

❹ ハンドルとタイヤの位置は，互いに一定でないために，ハンドルを固定保持していても，少しずつ走行方向が変わってきますので，操向修正が必要です。わき見運転は危険ですのでご注意ください。

❺ エンジンが停止中でもハンドルは切れますが，極端に重くなりますので走行中，エンジンが停止した場合には注意してください。他車にけん引してもらう場合は速度を5㎞/H以下としてください。

❻ 下り坂でのエンジンの停止は厳禁です。ハンドルが極端に重くなり危険です。

❼ 寒冷地等で始動時異音が発生し，使用しているうちに止まるのは油がかたいためです。暖機運転をしてから使用すれば問題ありません。

❽ 操舵時，油圧系から異音がする場合，油圧回路に空気が入っていることがあります。左右に一杯ハンドルを5秒程度切ったままにすると空気が抜けますので，音はしなくなります。これでも音が止まらないときは購入先にご相談ください。

❾ フロントローダの過載によりすえ切りができないときには荷を軽くするか，前後に動くと操舵できます。

❿ シリンダ部のホースは，安全のため《2年ごと》に交換してください。

◆走行中エンジンが停止したときは，パワーステアリング装置が働かなくなり，ハンドルが非常に重くなりますので，すみやかにエンジンを再スタートします。

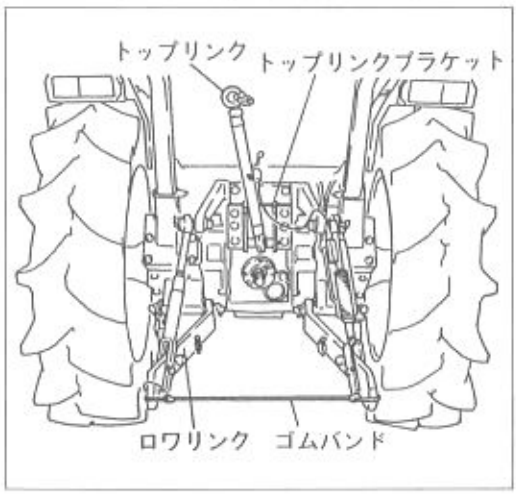
◆ハンドルをいっぱいに切ると安全弁が働きリリーフ音が出ます。短時間であればかまいませんが，この音が鳴ったままで運転しないでください。

◆長時間，機体を放置したり，油温の冷えた状態で他車にけん引してもらう場合はまえもって手動操舵ができることを確認してからけん引してもらってください。

2 3点リンクの取扱い

1 トップリンクの取付け

トップリンクブラケットにトップリンクのボール幅が広い方を取付けます。



2 作業機をつけないで道路走行のとき

❶ トップリンクを外してください。

❷ 左右のロワリンクをゴムバンドでつなぎ振れ止めしてください。

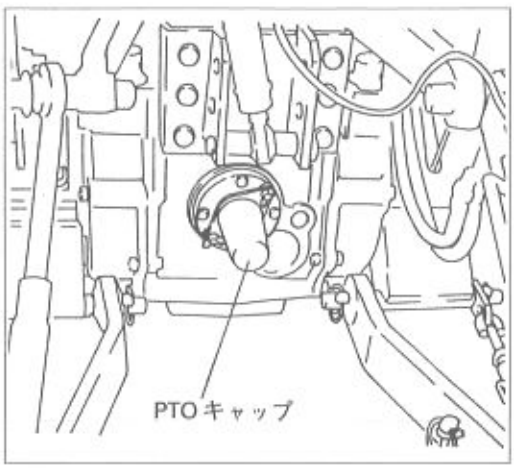
3 ドローバ（オプション）

・けん引はこのトラクタに合った作業機を使用してください。不明な点がありましたら購入先に相談し，無理なけん引は避けてください。

・けん引作業をする場合は，ドローバを利用してください。他の所を利用してけん引すると転倒する危険があります。
（装着の際はドローバの取付説明書に従ってください。）

4 PTOキャップ

PTOを使わないときは，PTO軸にグリスを塗布し，キャップを必ず取付けてください。

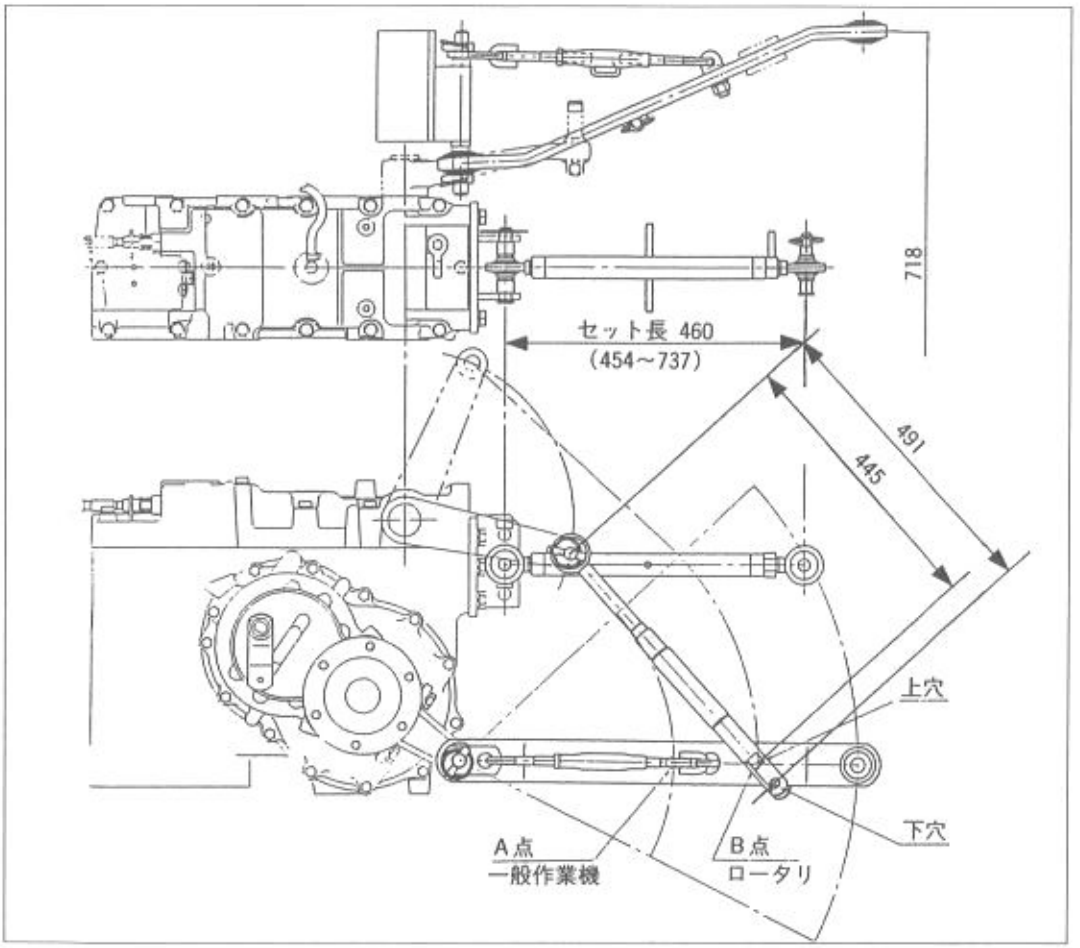


◆PTOキャップを取付けないと非常に危険です。もしおこたると巻込まれによる傷害事故を引起こす恐れがあります。

5 3点リンクの取付寸法と調整

3点リンクに作業機を取付けるときは作業機の重さ，必要持上げ高さに応じて最も適した位置にセットしてください。

リフトロッド，トップリンクの長さの調整範囲は次の通りです。



・ロワリンク後方目玉の地上高

状　態	A点（一般作業機）		B点（ロータリ）	
	下　穴	上　穴	下　穴	上　穴
最　下　げ	105	210	310	400
最　上　げ	765	835	785	835
揚　　程	660	625	475	435

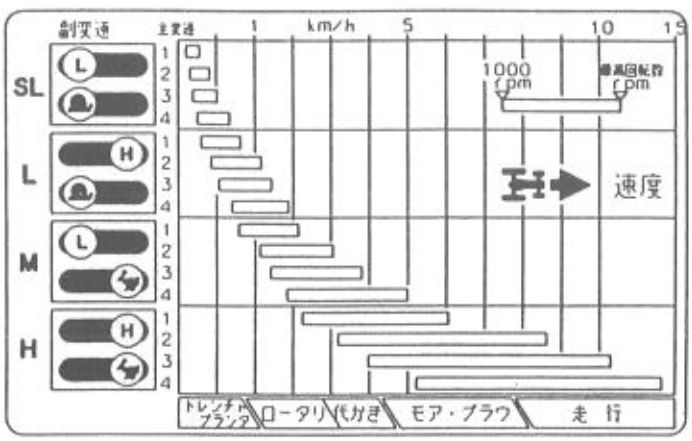
※純正ロータリの取付けは，ロータリの取扱説明書をごらんください。

3 作業運転のしかた

1 走行速度とPTO回転速度

トラクタの走行速度及びPTO回転速度は，作業内容，ほ場の条件によって異なります。安全で最適な速度で運転してください。

❶ 走行速度



❷ PTO回転速度

PTO		作業内容	回転数／分
正転	1速	ロータリ耕うん・畦立	543
	2速	ロータリ耕うん・畦立	774
	3速	代掻・砕土	965
	4速	代掻・砕土	1266
逆転	1速	逆転耕うん	513
	2速	土寄せ	731
	3速	砕土	912
	4速		1197

2 旋　　回

❶ 道路走行時は必ず左右ブレーキを連結板で連結してください。また，高速で急旋回しないでください。

❷ ほ場では，ブレーキペダルの連結板を外し，左右独立して使用れば小さく旋回できます。旋回時のブレーキは車輪が完全に止まるまで，ブレーキをふんでください。

❸ 作業速度やほ場の傾斜の度合を考慮し，安全な作業をしてください。

3 ダイヤクイックターン（ダイヤクイックターン装備機）

ダイヤクイックターンはダイヤクイックターンスイッチを入れると小さく素早く旋回できます。



◆ダイヤクイックターンは，フロントローダ作業等，前輪に重荷重のかかる作業に使用しないでください。

◆ダイヤクイックターンは，小さく旋回でき，旋回速度も速くなり，作業能率が上がりますが，使用方法を誤ると横転等の危険があります。安全速度で運転してください。

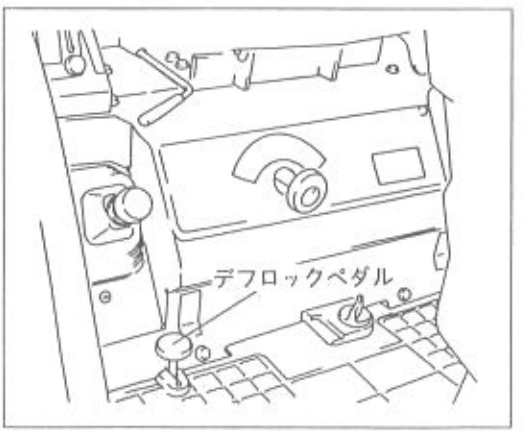
◆ダイヤクイックターンスイッチを入れたままでの道路走行や傾斜地作業は行わないでください。ほ場から出るときは，必ずダイヤクイックターンスイッチを切ってください。横転や傷害事故の危険があります。

4 車輪がスリップするとき

片側の車輪がスリップし前後進しない場合はデフロックペタルを踏んでください。次のような場合に効果が出ます。

・軟いほ場　　・ほ場への出入り

・ブラウ作業



◆デフロックペタルを踏込みますと，直進しかできなくなります。道路走行時は使用しないでください。

◆両輪の回転差が大きい場合は，一度クラッチを切ってから行ってください。

◆デフロックを入れたままで旋回すると非常に危険です。もしおこたると障害事故につながります。

マイコン装備機の取扱い

1 マイコンの取扱い

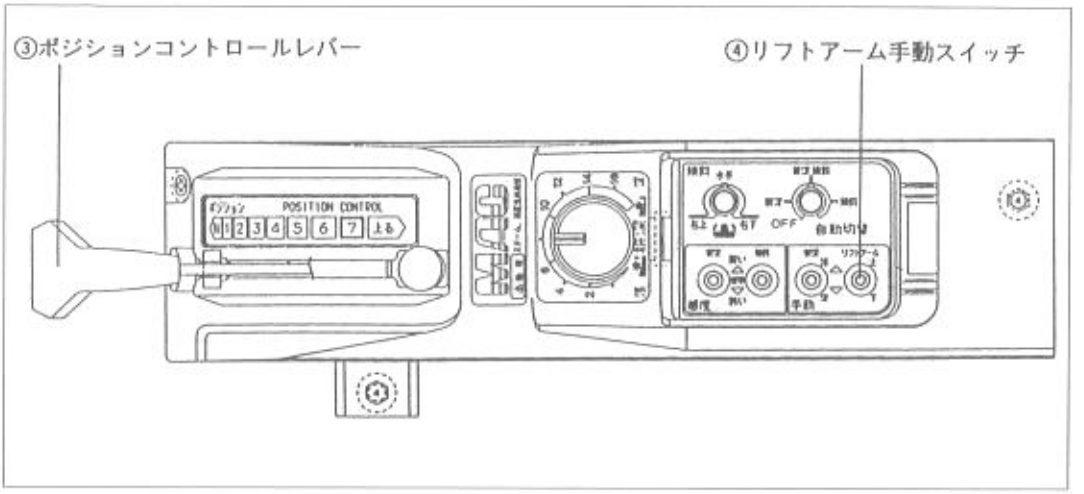
1 マイコンの機能

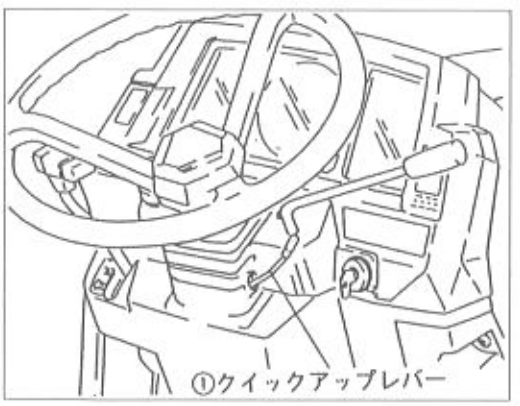
マイコン装備機は，高性能マイクロコンピュータ（略：マイコン）が搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

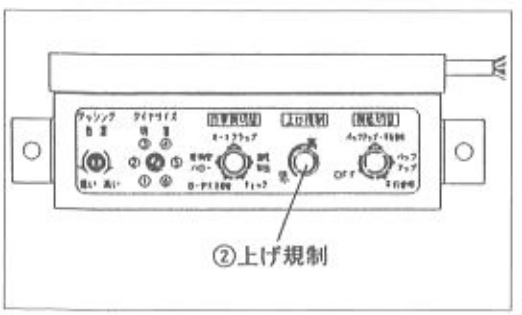
マイコンによる制御機能
・ポジションコントロール ・傾斜自動 ・耕深自動 ・安全装置 　・エンジン始動時の安全機能 　・バックアップ機能 　・平行復帰機能 　・ダッシング防止機能 ・その他 　・作業機切替え機能

2 ポジションコントロールの取扱い

1 運転装置







2 取扱い操作

❶ クイックアップレバー

クイックアップレバーを軽く上げ方向に操作すると作業機が上昇または下降します。

❷ 上げ規制

上げ規制により，クイックアップレバーでの作業機の上昇位置を規制することができます。

❸ ポジションコントロールレバー

ポジションコントロールレバーの操作によって作業機の位置が自由に決められます。

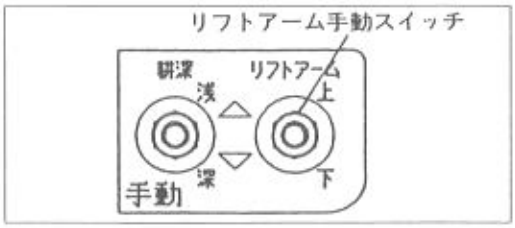
・下げ規制

クイックアップレバーにより作業機を下降した時の作業機の下げ位置をポジションコントロールレバーで規制することができます。

❹ リフトアーム手動スイッチ

ポジションコントロールレバーで操作できなくなったときはリフトアーム手動

スイッチにより，作業機を動かし安全な所まで移動した後，ただちに点検サービスを受けてください。



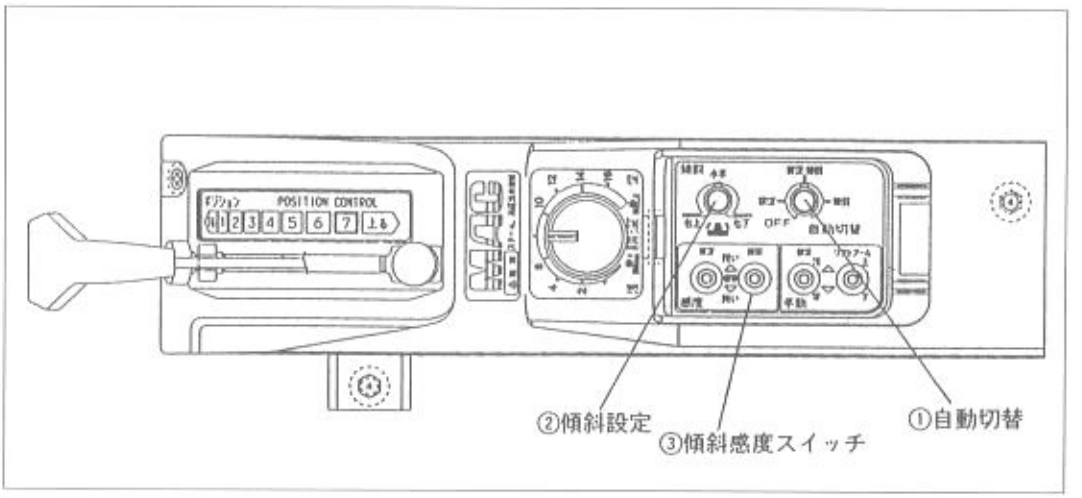
◆リフトアーム手動スイッチは，非常スイッチであり通常作業中は使用しないでください。

◆リフトアーム手動スイッチを通常時に操作するとマイコンのセットが《解除》となります。

◆エンジン停止中，スタータスイッチ《ON》状態でブザーが鳴っていなければポジションコントロールレバーの下げ操作で作業機は下降します。

3 傾斜自動の取扱い

1 運転装置



2 取扱い操作

❶ 自動切替

《傾斜》又は《耕深・傾斜》位置にします。



❷ 傾斜設定

作業機の角度調整は傾斜設定によって行います。

・《水平》……作業機は常に水平となるよう自動的にコントロールされます。

・《右上》……常に右上りで保たれます。

・《右下》……常に右下りで保たれます。



なお，作業機をいっぱい上にあげると自動的に本機と平行になります。

（平行復帰機能ON時）

◆道路走行時は安全のため自動切替を《OFF》位置（傾斜自動ランプ消灯）にしてください。

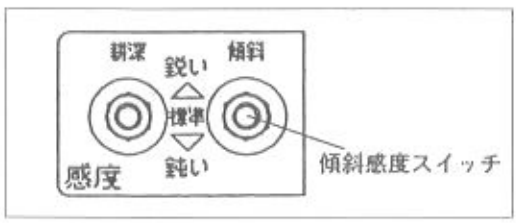
◆作業機の着脱は自動切替を《傾斜》位置にし，傾斜設定の操作により行ってください。

❸ 傾斜感度スイッチ

傾斜自動（リフトロッドの動作）の感度を作業スピードに応じて切替えることができるスイッチです。

・《鋭い》……しろかき作業などに適します。
・《標準》……通常の作業に適します。
・《鈍い》……作業スピードの遅いものに適します。

仕上りを確認しながら，ほ場条件により適宜切替えます。



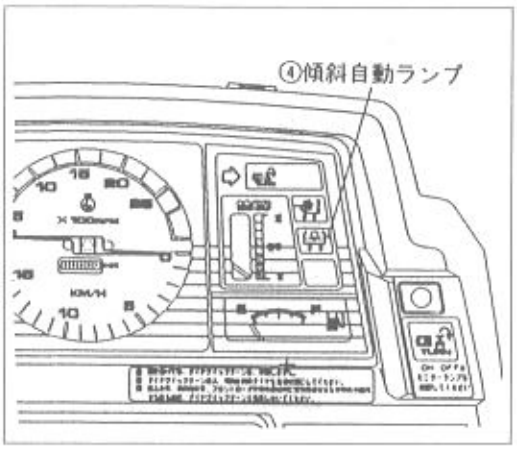
◆傾斜自動が故障のときは自動切替を《ＯＦＦ》位置にし，傾斜設定の操作でリフトロットシリンダを動かしたのち，作業を行ってください。

・《水平》……リフトシリンダは停止します。
・《右上》……リフトシリンダは縮みます。
・《右下》……リフトシリンダは伸びます。



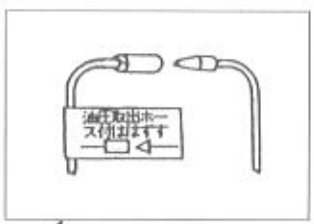
❹ 傾斜自動ランプ

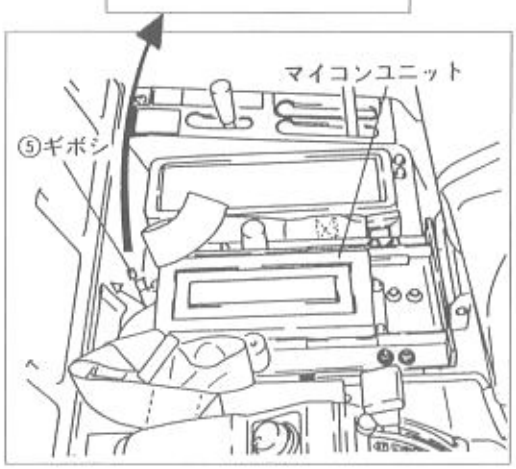
《傾斜》又は《耕深・傾斜》位置で点灯し，傾斜自動状態を示します。



❺ 油圧取出用ホース装着機

フロントローダーなどを装着するために油圧取出用ホースを本機に装着した場合には，座席シート下にある《油圧ホース付は外す》ラベルの貼られたコードのギボシ端子を外してください。（端子を外さないと傾斜制御が正常に働かないことがあります。

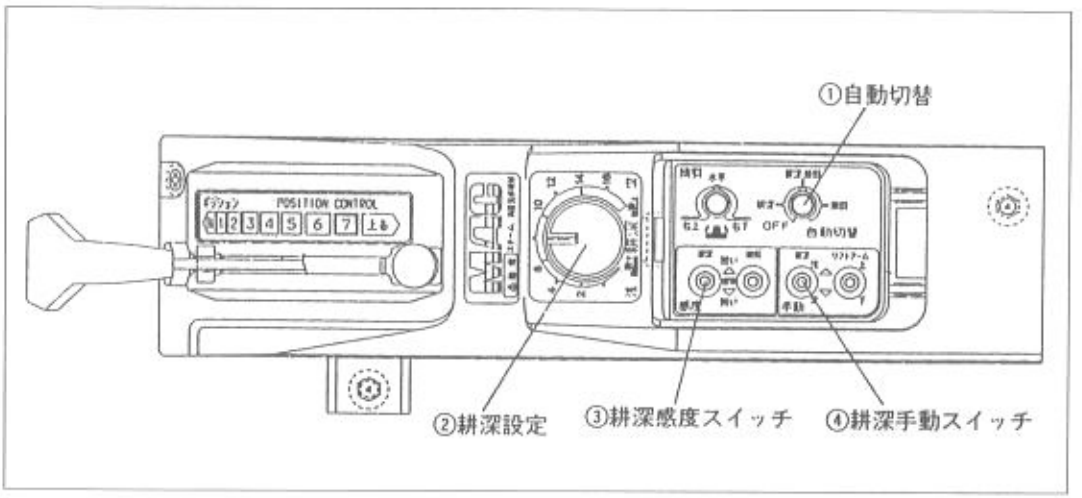




◆ギボシの切替えは必ずスタータスイッチを《ＯＦＦ》にして行ってください。

4 耕深自動の取扱い

1 運転装置



2 取扱い操作

❶ 自動切替

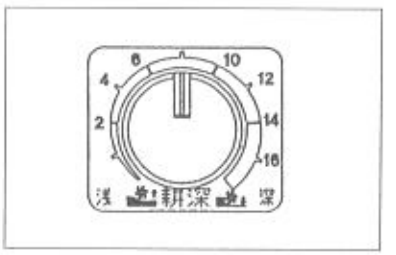
《耕深》又は《耕深・傾斜》位置にします。



❷ 耕深設定

ロータリの耕深量の調整は耕深設定によって行います。

・《12～14位置》……120～140㎜範囲の耕深を維持します。
・《浅へ回す》……耕深が浅くなります。
・《深へ回す》……耕深が深くなります。



◆耕深自動時，作業機切替が《オートフラップ》の位置でフラップ（リヤカバー）スライド用電動シリンダが自動的に動作します。（耕深設定を《2～14》の間で操作したとき伸縮）

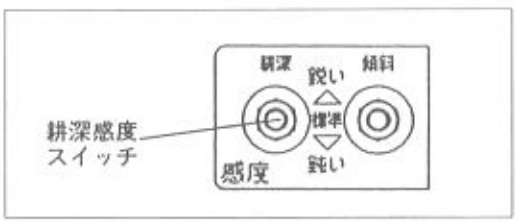
◆道路走行時は安全のため自動切替を《OFF》位置（耕深自動ランプ消灯）にしてください。

❸ 耕深感度スイッチ

耕深自動（リフトアームの動作）の感度を作業に応じて切替えることができるスイッチです。

- 《鋭い》……しろかき作業などに適します。
- 《標準》……通常の作業に適します。
- 《鈍い》……浅耕・除草などの作業に適します。

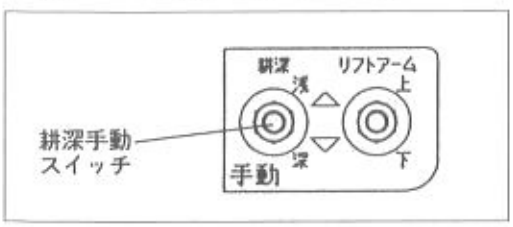
仕上りを確認しながら，ほ場条件によって適宜切替えます。



❹ 耕深手動スイッチ

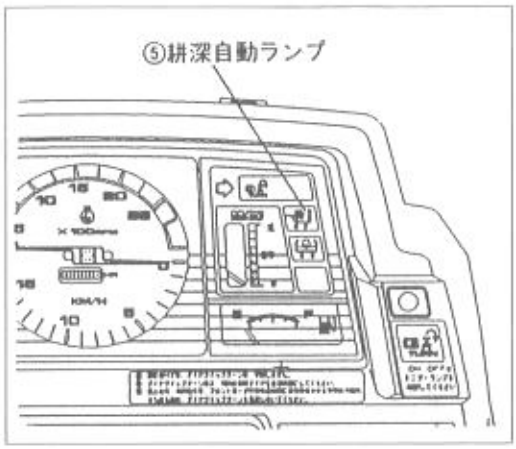
自動切替が《ＯＦＦ》位置の場合，耕深を手動で調整するときに使用します。

- 《深》……耕深が深くなります。
- 《浅》……耕深が浅くなります。



❺ 耕深自動ランプ

《耕深》または《耕深・傾斜》位置で点灯し，耕深自動状態を示します。



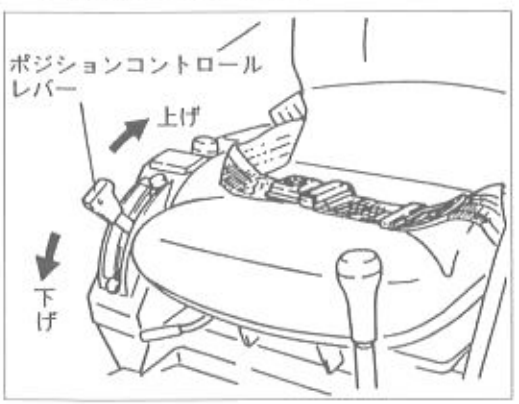
5 安全装置の取扱い

1 安全装置

❶ エンジン始動時の安全機能

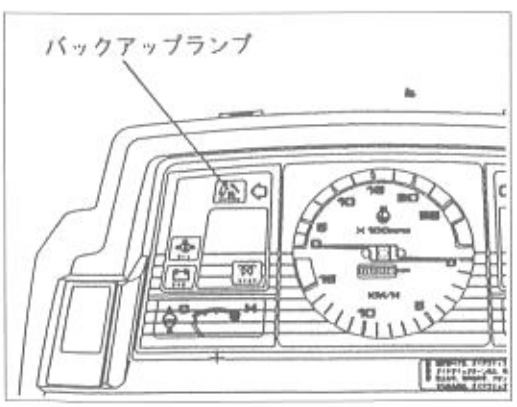
エンジン始動後，ポジションコントロールレバーの設定値と作業機の位置が一致するまでブザーが“ピッ，ピッ，ピッ”と鳴り一致点に近づくにしたがって，ブザーの断続音が早くなります。ブザーが鳴らなくなったところが一致点です。

◆ポジションコントロールレバーはゆっくりと操作してください。



❷ バックアップ機能

(1) エンジンが回転中シャトルレバーを《後進》に入れると，メータパネル内のバックアップランプが点滅し，作業機が自動的に上昇します。

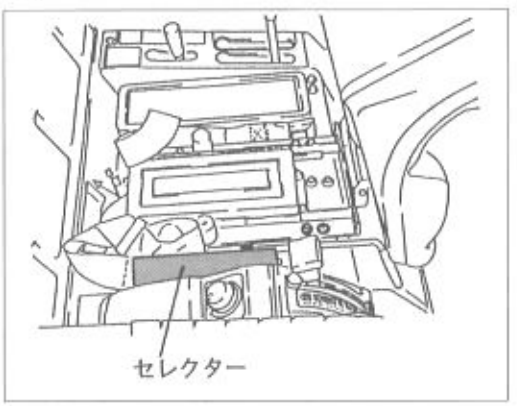


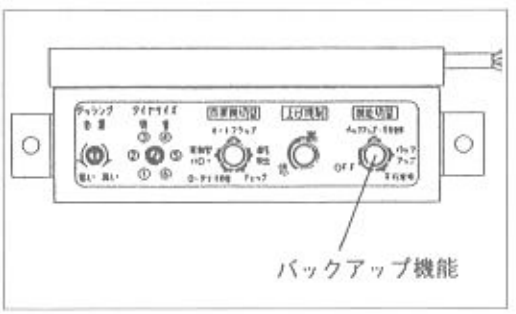
(2) 作業機を下げるときは，クイックアップレバーを軽く上げ方向に操作します。するとバックアップ機能がＯＦＦになり（バックアップランプが消える）作業機が下がります。

ポジションコントロールレバーの場合は，レバーを一度最上げにし，その後レバーを下げることにより，作業機が下がります。

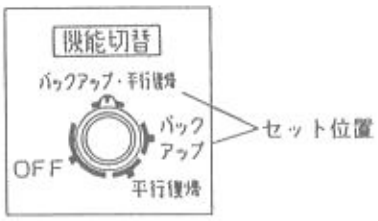
《バックアップ機能のON，OFF》

バックアップ機能のON，OFFは，シート下セレクター内の機能切替により行います。





・バックアップ機能ＯＮ
機能切替を《バックアップ・平行復帰》又は《バックアップ》の位置にセットします。



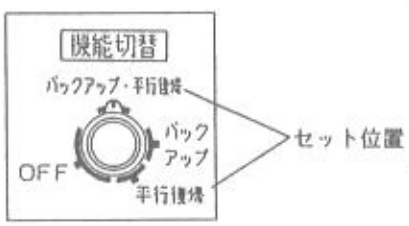
・バックアップ機能ＯＦＦ
機能切替を《ＯＦＦ》又は《平行復帰》の位置にセットします。



❸ 平行復帰機能

セレクタ内の機能切替が《バックアップ・平行復帰》又は《平行復帰》位置でエンジンが回転中作業機をいっぱい上にあげると，自動的に本機と平行になります。

・平行復帰機能ＯＮ
機能切替を《バックアップ・平行復帰》又は《平行復帰》の位置にセットします。



・平行復帰機能ＯＦＦ
機能切替を《ＯＦＦ》又は《バックアップ》の位置にセットします。

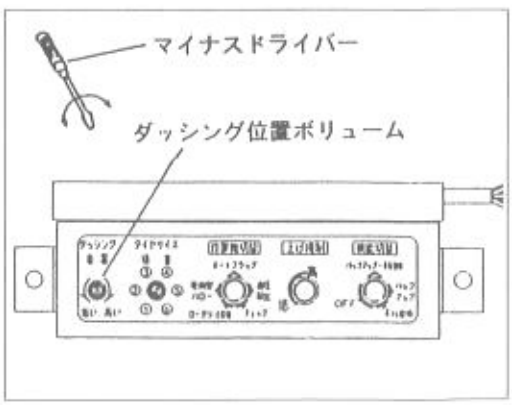


❹ ダッシング防止機能

自動切替が《耕深》または《耕深・傾斜》位置のとき，ロータリが地面に接触する付近で降下速度が遅くなり，硬いほ場でのロータリ耕うん爪でのかけだし及びエンストを防止します。

(1) ほ場条件，作業条件によってダッシング防止効き始め位置を変更することができます。

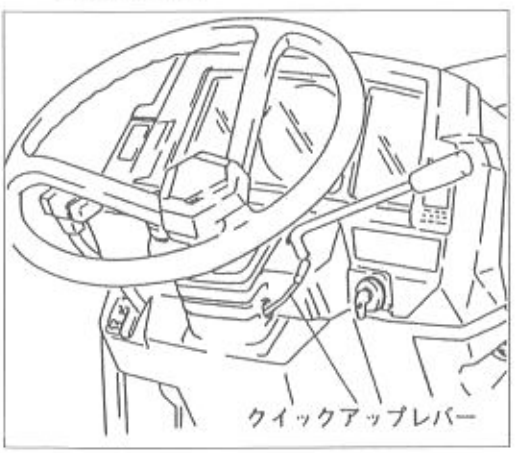
ダッシング防止効き始め位置を低くする時はダッシング位置ボリュームをドライバーで反時計方向に回します。

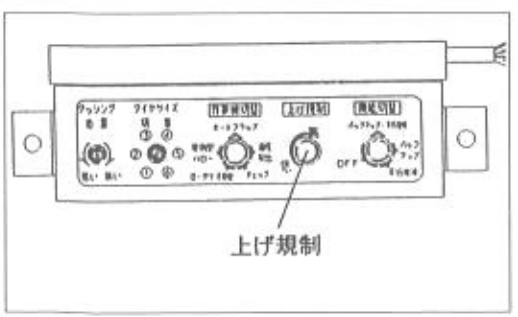


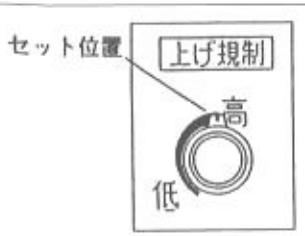
(2) ポジションコントロールレバーの操作でダッシング防止機能を使用するときは，レバーを最上げ位置まで上げてから下げ操作してください。



(3) クイックアップレバーの操作でダッシング防止機能を使用するときは，上げ規制を下記の位置にセットしておいてください。

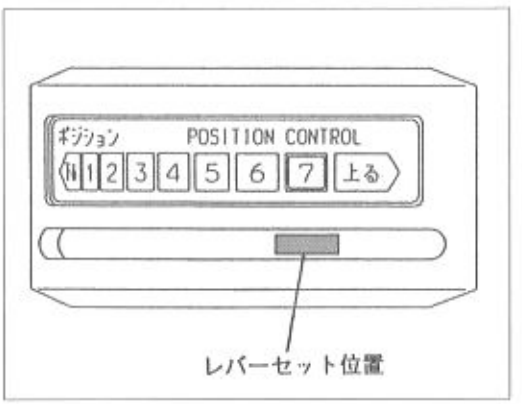




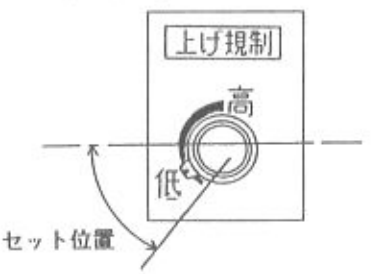


《ダッシング防止機能の解除》

ロータリ作業時，ダッシング防止機能を解除するときはポジションコントロールレバーをポジションレベル7のオレンジゾーン内にセットして使用します。(但し，その時は耕深設定ダイヤルが《浅》の位置にあると作業機下降速度が遅くなることがあります。)



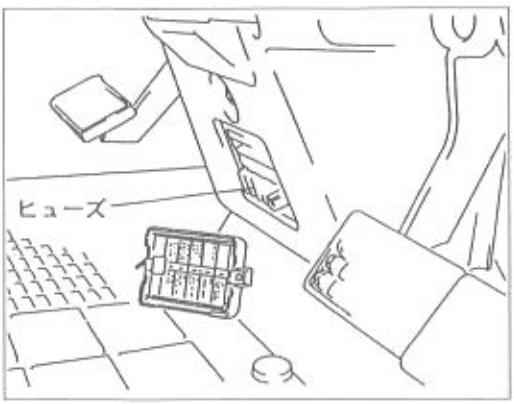
・クイックアップレバーの場合は，上げ規制を下図の矢印の範囲内にセットしておいてください。



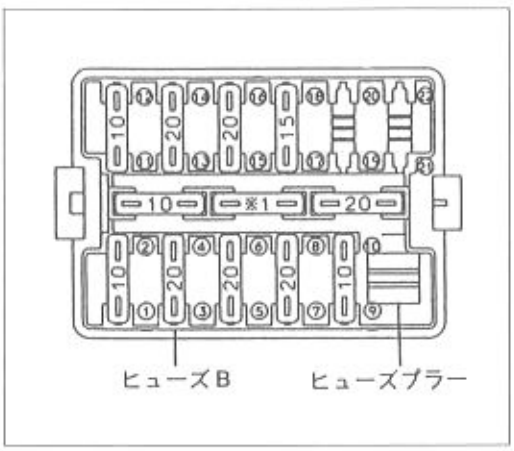
◆ダッシングするようなほ場は4輪駆動レバーを《入》で作業をしてください。

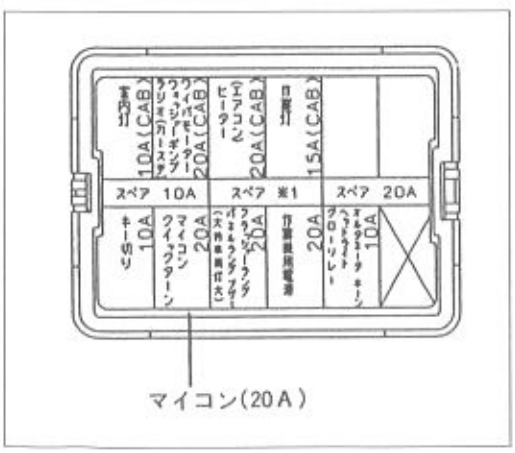
◆ダッシング位置ボリュームは工場出荷時中央部にセットされていますが《低い》↔《高い》の間でダッシング効き始め位置が約250mm変更可能です。

2 ヒューズ



ヒューズBが溶断しているときは，マイコンの各制御機能が停止状態となります。





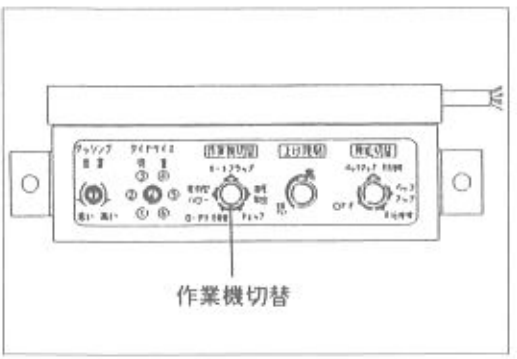
ヒューズボックスのフタの裏に位置を示すマークが貼ってあります。

◆ヒューズが溶断しているときは，原因を調べ，修理後スペアのヒューズ（指定容量）と交換します。決して針金などで代用しないでください。

6 作業機切替

1 作業機切替機能

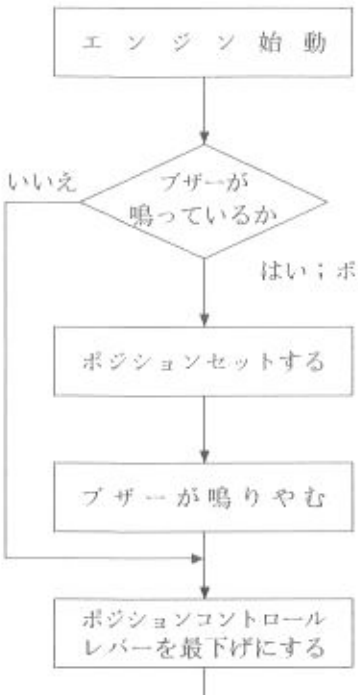
作業機切替を，各作業機に応じてセットします。





ボリューム位置	条件
オートフラップ	純正ロータリでの一般的作業（フラップが自動伸縮）
駆動型ハロー	駆動型ハロー装着時
油圧取出	ダンプトレーラのダンプ等操作時
チェック	入力チェック操作時
ロータリその他	純正ロータリでのフラップ（リヤカバー）を自動伸縮させない特殊作業及びその他の作業機装着時

7 マイコンの操作要領



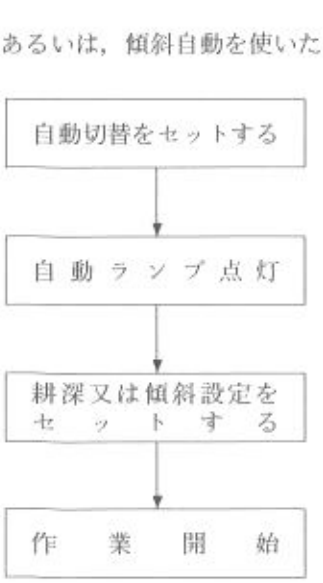
；標準機の運転操作の要領に従い，エンジンを始動してください。

はい；ポジションコントロールレバーと作業機の位置が一致していない。

；ブザーの断続音が早くなる方向へレバーを動かす。

；レバーを軽く上げ方向に操作すると作業機が上がる。
再度レバーを軽く上げ方向に操作すると作業機が下がる。

（耕深あるいは，傾斜自動を使いたいとき）



《耕深・傾斜》…耕深および傾斜自動となります。
《耕　深》……耕深のみ自動となります。
《傾　斜》……傾斜のみ自動となります。
《ＯＦＦ》……耕深および傾斜自動が解除されます。

8 マイコン装備機の作業別，組合せ操作

マイコン装備機による作業は下記の操作手順を参考にして作業してください。但し，一般的に表わしてあり条件により例外もあります。

1 標 準 機

※1．走行変速とロータリ変速の組合せは，エンジン馬力により選定しエンストの発生がないこと。
※2．リヤカバーの加圧は，耕うん中に耕深ハンチングが発生する場合，加圧してください。
※3．耕深自動及び傾斜自動に於いてハンチングが発生する場合には各感度スイッチの切替えを鈍い方にしてください。
また，枕地整地に於いて湿田の場合にも条件によって鈍い方が仕上りが良い場合もあります。
※4．モード切替は使用する作業機に合わせて切替えてください。

●印は一般的な組合せ

作業名	耕うん深さ㎜	主変速 1	主変速 2	主変速 3	主変速 4	副変速 (L)	副変速 (H)	副変速 (L)	副変速 (H)	ロータリ速度 1	ロータリ速度 2	ロータリ速度 3	ロータリ速度 4	リヤカバー加圧 有	リヤカバー加圧 無	感度切替 耕深 鋭い	感度切替 耕深 標準	感度切替 耕深 鈍い	感度切替 傾斜 鋭い	感度切替 傾斜 標準	感度切替 傾斜 鈍い	モード切替 フラットロータリ	モード切替 駆動ハロー型	モード切替 その他ロータリ	備考
ロータリ耕うん	浅耕 80～120		○	○	●		●				●	○			●		●	○		●	○				(注)・水田用補助車輪装置のときは鈍い方にスイッチを切替えてください。(湿田作業) ・耕うん深さは耕深設定で調節してください。 ・麦作地区に於ける浅耕には『ロータリ，その他』モードによる回動縮み状態での耕深自動制御が威力を発揮します。
	標準耕 120～150		○	○	●		●			○	●	○			●		●			●		●		○	
	深耕 150～		○	●	○		●			●	○				●		●			●					
ロータリしろかき	浅耕～標準	○	●	○				●			○	●	○		●	○	●		○	●	○	●			(注)・水田用補助車輪装備のときは傾斜自動がハンチングする場合があり，鈍い方にスイッチを切替えてください。
除草・浅耕	浅耕 0～80											○	●	○	●		●	○		●	○	●		○	(注)・加圧はハンチングする場合に行ってください。
畝くずし	深耕	○	●	○			●				●			○	●		●			●			●		
ハロー		○	●	○				●			○	●	○	－	－	○	●		○	●			●		(注)・左記は参考ですので作業機取扱い説明書及び作業機マニュアルに従って作業をしてください。
ブラウ		○	●	○					●	－	－	－	－	－	－	－	－	－			○			●	
その他																								●	

手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生ずるので点検・再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしてください。

◆清掃・点検・調整・整備・補給は，必ずエンジンを停止してから行ってください。

1 定期点検整備表

・正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように《**定期点検整備表**》を参考に点検・整備をしてください。
・《**定期点検整備表**》は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度，調整をしてください。
・表示記号の説明　○ …… 指定時間に達したときに点検し，調整・補給・清掃などの処置をします。
　　● …… 指定時間ごとに交換します。
　　◎ …… 指定時間ごとに点検し，調整・補給・清掃などの処置をします。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					備考
			作業前	50時間	100時間	200時間	300時間	
エンジン関係	燃料タンク	点検・補給・タンクの清掃	○				◎	JIS 2 号軽油又は 3 号軽油　28 ℓ
	燃料フィルタ	点検・清掃・交換		○		●		エレメント
	燃料パイプの劣化と洩れ	点検・交換	○			●		
	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	●(初回のみ)	●			ディーゼルオイル CC 級以上 4.5 ℓ
	エンジンオイルフィルタ	交換		●(初回のみ)	●			フィルタ
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・清掃・交換	○				●	飲料水　6.4 ℓ
	ラジエータスクリーン	点検・清掃		◎				ゴミの多いところでは作業前
	エアクリーナエレメント	点検・清掃		◎				〃
	ファンベルト	点検・調整		◎				ベルト中央部押し　10～13㎜
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○					
	電気配線（配線，接続部のゆるみ，損傷）	点検・修正	○					損傷の場合交換
	計器類	点検	○					
本機関係	油圧フィルタ	交換			●(初回のみ)		●	
	ミッションオイル	点検・補給・交換		○	●(初回のみ)	●		API.GL－4 級以上で湿式ブレーキ用　41 ℓ
	フロントアクスルオイル	点検・補給・交換		○	●(初回のみ)	●		API.GL－3 級　SAE#80　3.0 ℓ
	タイロッド（左・右），ロッドエンド	点検・補給		◎				グリス適量
	ブレーキリンク	点検・補給		◎				〃
	クラッチペダル	点検・調整	○	◎				遊び　20～30㎜
	ブレーキペダル	点検・調整	○	◎				遊び　25～35㎜
	各レバー類の作動	点検	○					
	ボルト，ナットのゆるみ	点検	○					
	タイヤ空気圧	点検	○					前輪　1.5kg/㎠，後輪　1.0kg/㎠
	トーイン	点検・調整				◎		0～10㎜
	パワステシリンダ油圧ホース	点検・交換						2 年ごとに交換

2 点検と清掃

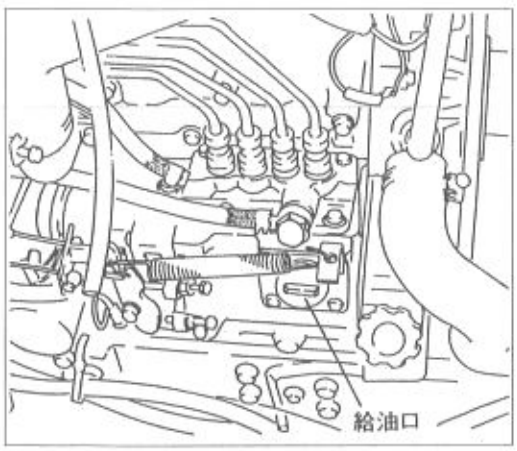
1 エンジンオイル

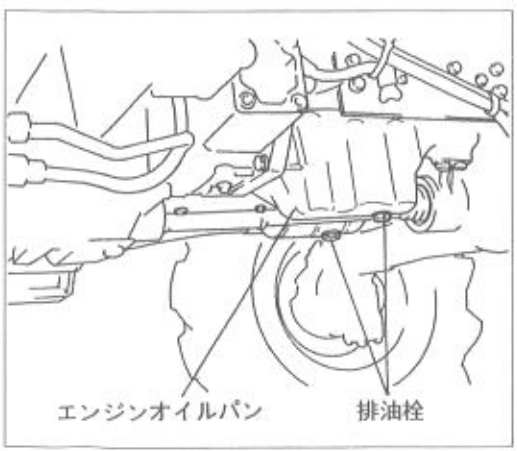
❶ エンジンオイルの交換

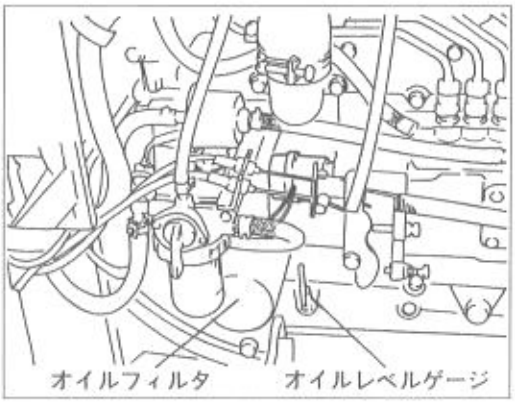
エンジンオイルの交換は，初回は50時間運転後に，第２回目からは100時間運転ごとおよび格納時に行います。

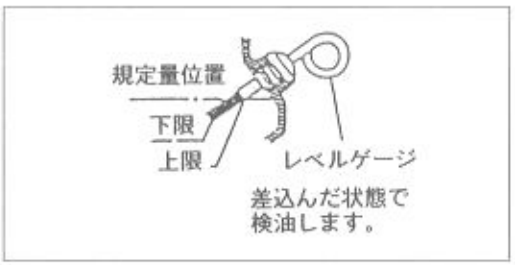
① オイルレベルゲージとエンジンオイルパンの排油栓を外し，オイルを抜きます。

② 新しいエンジンオイルを，オイルレベルゲージの刻み線《上》まで給油します。









◆エンジンオイルは推奨銘柄をご使用ください。（オイル表参照）

◆オイルの粘土は，外気温によって下表のように使い分けてください。

気温 (℃)	−20	−10	0	10	20
エンジンオイル	10W−30		SAE20		SAE 30
燃料（軽油）	JIS 特3号	JIS 3号	JIS2号		

・オイル……純正油またはディーゼルエンジンオイル API 分類 CC 級以上

・オイル量…4.5ℓ

❷ オイルフィルタの交換

オイルフィルタは《カートリッジタイプ》を使用しますので，ご購入のうえ交換してください。

・第１回目…50時間運転後に交換

・第２回目より…100時間運転ごとに交換

① オイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合には専用工具（市販品）を使用して，外してください。

② オイルフィルタを交換したときは，《オイル量》が多く入るので必ずオイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは規定量まで補給します。

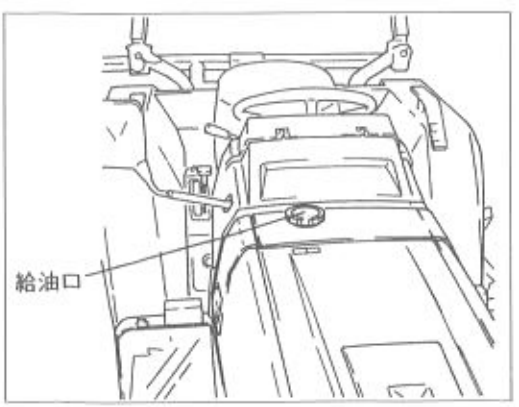
◆オイルフィルタを取付けるときは，パッキン面にオイルを塗り，オイルフィルタを手で締め，パッキンシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

2 燃料の補給

燃料タンクの残量を確認し，《こし網をとおして》燃料（ディーゼル軽油）を補給します。

●使用する燃料は

・JIS２号又は３号軽油を使用してください。



◆軽油は，気温に合わせて，２号，３号，特３号軽油を使用してください。

－10℃までは　２号

－20℃までは　３号

－20℃以下は特３号

◆燃料補給時は火気厳禁です。

燃料に引火し火災の原因となります。

◆燃料がこぼれた場合はきれいにふきとってください。

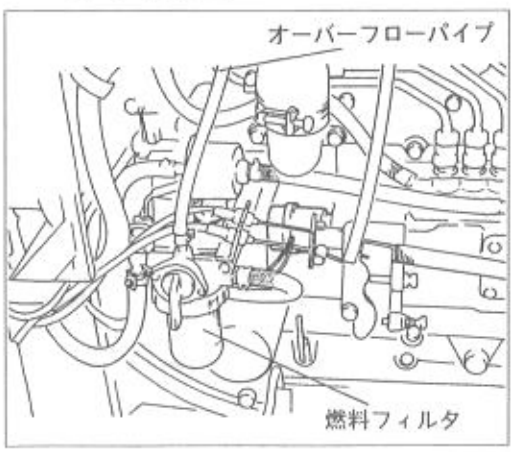
◆燃料ホース及び継手部より燃料洩れがないか点検をし，洩れている場合は交換してください。

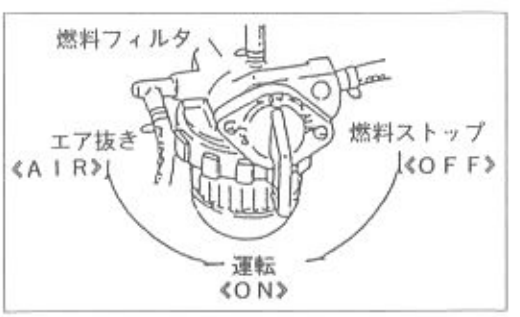
❶ エア抜き要領（エア抜き容易化装置）

① 燃料が空のときは５ℓ以上補給します。

② ボンネットを開け，右サイドカバーを取外します。

③ 燃料フィルタコックレバーを《ＡＩＲ》にします。

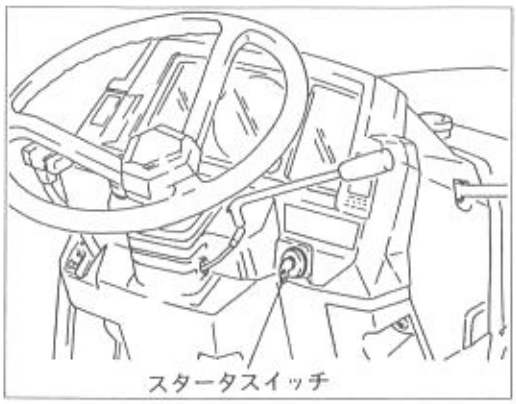




④ オーバーフローパイプに燃料が上って来るのを確認します。

⑤ オーバーフローパイプに燃料が上ったら燃料フィルタコックレバーを《ON》に戻します。

⑥ スタータスイッチを《ON》にします。(電磁ポンプが作動します。)



⑦ ⑥項の状態を約15秒間保持して，泡の発生が止まったことを確認してください。インジェクションポンプ内のエアが抜けます。

⑧ 以上でエア抜きは完了ですのでエンジンを始動します。

⑨ 始動しないときは，③～⑧項を繰返してください。

⑩ 右サイドカバーを取付けます。

◆燃料満タン時や，前傾になっているときは，コックレバーが《AIR》状態になったままですとオーバーフローパイプより燃料が洩れます。

❷ 燃料フィルタの清掃と交換

① 50時間ごとに清掃し，200時間ごとに交換します。

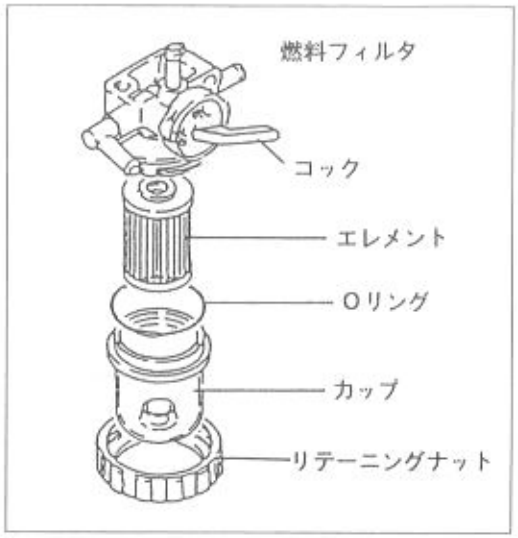
② コックを《OFF》の位置にしてリテーニングナットを外します。

③ カップを取外し，きれいな軽油で洗浄します。

④ エレメントを取外し，洗浄または交換します。

⑤ Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付けます。

⑥ エア抜き要領に従ってエア抜きをします。



3 冷却水の保守管理

ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きな影響を与えます。作業時，格納時の冷却水の取扱いには十分注意します。

❶ ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。

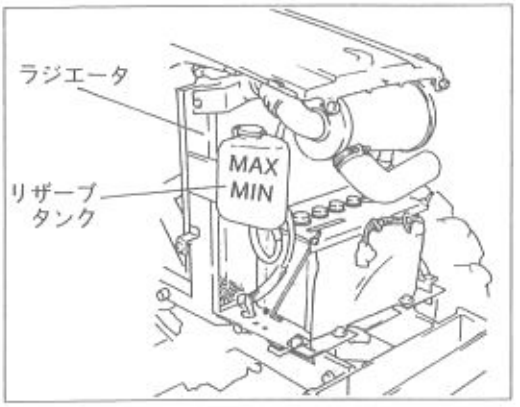
❷ 点 検

① サイドカバー右を開いてリザーブタンク内の冷却水が上限（MAX），下限（MIN）の間にある事を確認してください。

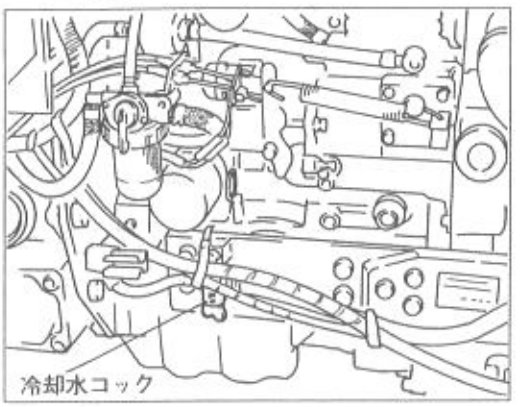
② 冷却水が不足している時は補給してください。

冷却水の交換

① ボンネットのルーフカバーを開きラジエータキャップを外します。



② ボンネットのサイドカバー（右）を外し，エンジン冷却水コックをゆるめ，冷却水を排水します。リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。



③ ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入れ替えを繰返し，内部を十分洗浄します。

・洗浄剤を使用すると効果的です。

④ 排水が終ったら冷却水コックを閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

・一度エンジンをかけると水が循環してラジエータ内の水量が減りますので補給してください。

・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

・冷却水量…6.4ℓ

◆運転中およびエンジン停止直後は絶対にラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し《火傷》をすることがあります。冷えてから注意しつつ開けてください。

◆冷却水には泥水や塩水を絶対に使用しないでください。

◆冬季には冷却水が凍結し，シリンダやラジエータを破損することがあります。使用後は冷却水を抜きとるかまたは不凍液を混合してご使用ください。

不凍液の注入要領

工場出荷のときは不凍液が注入され《外気温度－25℃》を保っていますが，納入後1年以上経過すると効力が低下するので，冷却水を交換し《不凍液濃度基準》を参考に入替えます。

不凍液濃度基準

外気温度	℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度	%	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・不凍液は「ロングライフクーラント」をご使用ください。

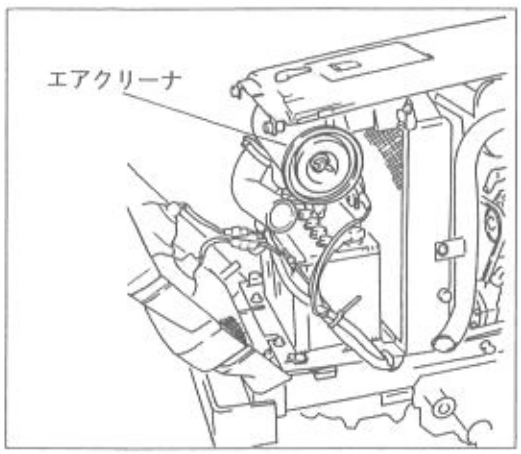
入替え要領

・別容器（ポリバケツ：10ℓ）に不凍液を必要量（濃度基準表参照）入れます。

・飲料水を加えよく攪拌した後にラジエータに注入します。

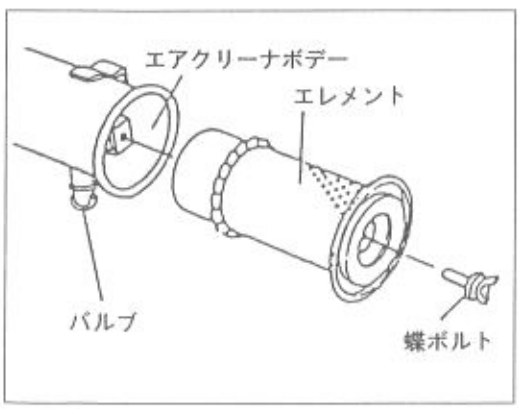
4 エアクリーナの清掃

エアクリーナエレメントを汚れたまま使用すると，エンジンの内部損耗，あるいは出力が低下します。



① 蝶ボルトを外し，エレメントを取出します。

② エレメント・エアクリーナボデーの内部・バルブの内部を清掃してください。

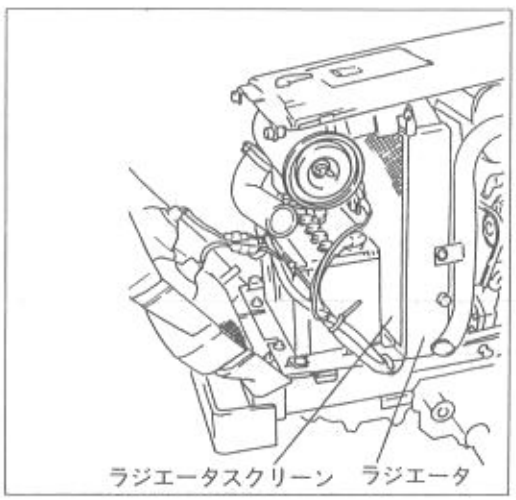


◆コンプレッサで吹きつける場合は，空気圧《7 kg/㎠以下》で行ってください。

5 ラジエータ・ラジエータスクリーンの清掃

① ラジエータスクリーンを取外し，手で《ゴミ・ワラ》等を取除いてください。

② ラジエータの目づまりを点検し，つまっている場合は，まずラジエータ前面の手で取れる大きな《ゴミ・ワラ》等を取除き，エアをファン側より吹きつけ《ホコリ・ゴミ》等を取除いてください。



◆エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。
エンジン始動不良の原因となります。

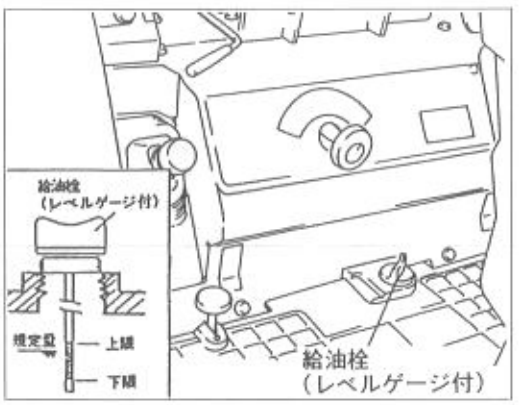
6 ミッションオイル

❶ 点検・補給

・給油栓を外し，レベルゲージの刻線まであれば適量です。

・エンジンを始動している場合は，オイルレベルが低下する構造となっています。検油する場合はエンジンを停止してから30分後に行ってください。

・エンジン始動前には必ずオイルレベルを確認してください。



・不足している場合は給油栓の刻線まで補給します。

◆点検はトラクタを平坦な所におき，行ってください。

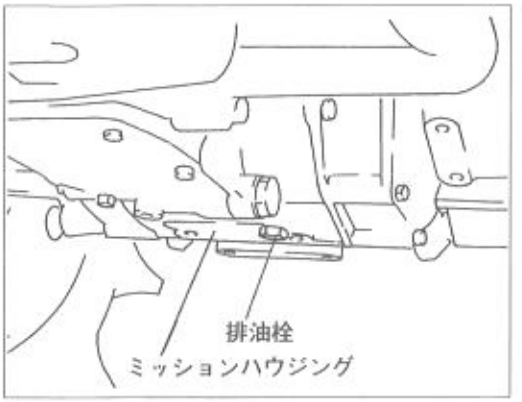
◆油量点検は始動前に行ってください。

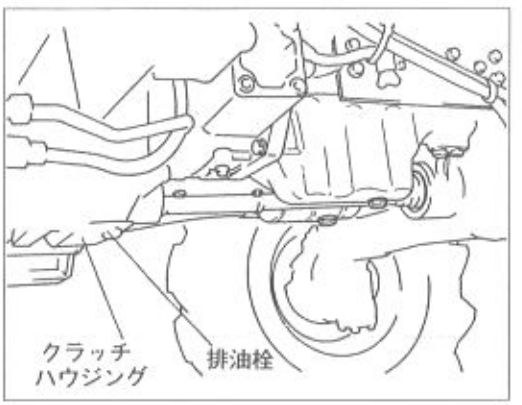
❷ 交　換

ミッションオイルの交換は，初回は100時間運転後に，第2回目からは200時間運転ごとに行います。

① ミッションハウジング下部1個所及びクラッチハウジング下部1個所の排油栓を外し，オイルを抜きます。

② 新しいギヤオイルを，レベルゲージの刻み線《上》まで給油します。





◆運転終了後，オイルの暖かいうちに抜くと，ゴミ・不純物の排出が容易になります。

オイル……GL－4級以上で湿式ブレーキ適正のあるもの

オイル量……41ℓ

7 油圧フィルタの交換

油圧フィルタは《カートリッジタイプ》を使用しますので，ご購入のうえ交換してください。

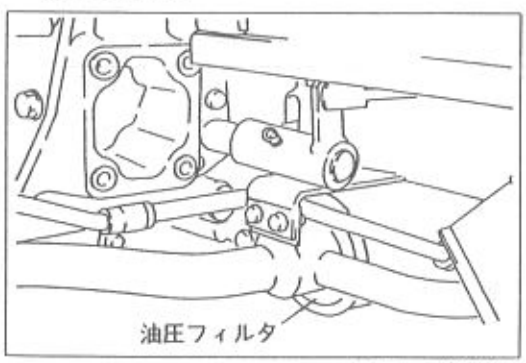
・初回…100時間運転後に交換

・第２回目より…300時間運転ごとに交換

❶ フィルタの廻りの土などを取除きます。

❷ 油圧フィルタは手でゆるまない場合には専用工具（市販品）を使用して，外してください。

❸ 油圧フィルタを交換したときは，《**オイル量**》が多く入るので，５分間運転してからレベルゲージで確認し規定量まで補給します。



ステップ左側下

◆油圧フィルタを取付けるときはパッキン面にオイルを塗り，油圧フィルタを手で締め，パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

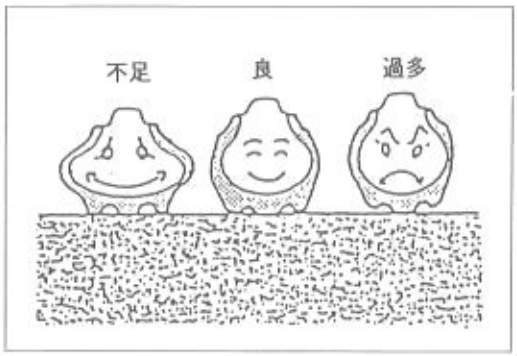
8 タイヤの空気圧及び損傷

・空気圧及び損傷を点検してください。損傷のひどい場合は交換してください。

・標準空気圧

前輪……1.5kg/㎠

後輪……1.0kg/㎠

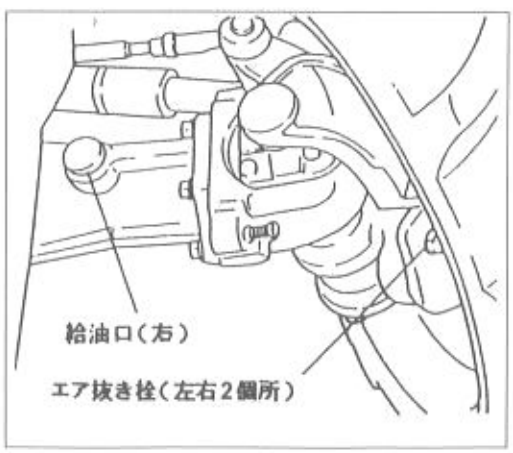


9 フロントアクスルオイル

❶ 点検・補給

① 検油栓を外し，デフシャフト中心または，下面までオイルがあれば適量です。

② 不足している場合は給油口から補給します。

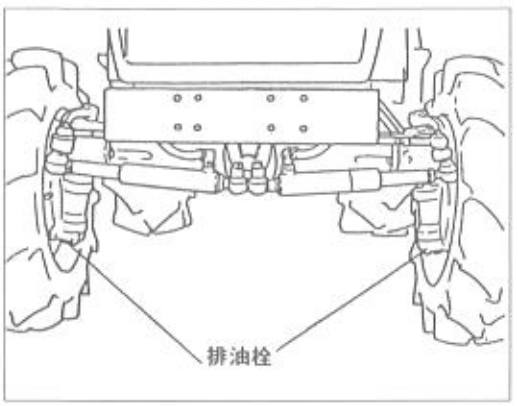


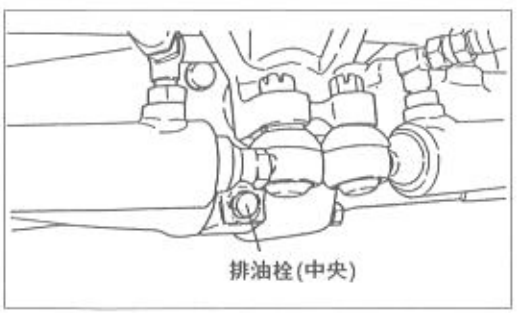
❷ オイルの交換

① 排油栓（3個所）を外し，オイルを抜きます。

② 新しいギヤオイルを給油口（右）より規定量3.0ℓ給油します。

③ 左右のエア抜き栓を取外し，オイルがもれたら栓を締めます。





◆デフシャフト中心または，下面までオイルがあるか確認してください。

・ギヤオイル……API，GL－3級
SAE＃80

・オイル量……3.0ℓ

◆最初の交換は100時間目に行ってください。

10 電気配線の点検，清掃

❶ 点　検

配線のターミナル（端子）部のゆるみや接続不良または配線が損傷していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，ショート（短絡），焼損などで火災の原因となります。定期的に配線を点検し，傷んだ配線は早めに交換，修理してください。

❷ 清　掃

エンジンまわり，バッテリ，電気配線部に溜っているワラやゴミなどは火災の原因となりますので取除いてください。

◆メータパネル，バッテリ，エンジンまわりの電気配線部及びマイコン操作部（マイコン装備機）には水をかけないでください。電気部品の損傷をまねき，エンジンの始動不良及びマイコン制御機能の不良となります。

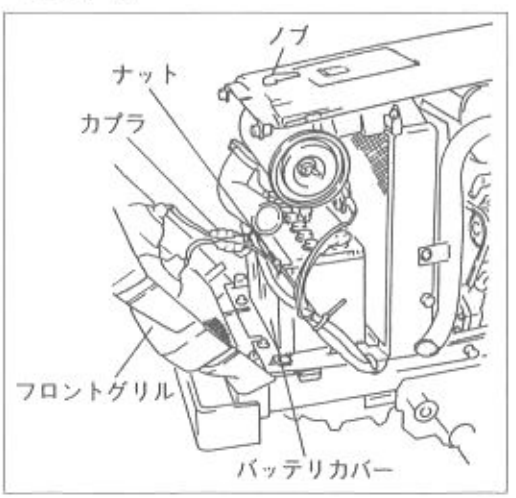
11 バッテリの点検

❶ ボンネット上のノブを時計方向に回して，フックを外し，フロントグリルの上側を少し前に倒します。

❷ 電気配線のカプラを2個所外します。

❸ フロントグリルを上方に引上げて取外します。

❹ ナット2個を緩めて，バッテリカバーを取外し，バッテリ液量等の点検をします。（点検方法は14ページを参照してください。）



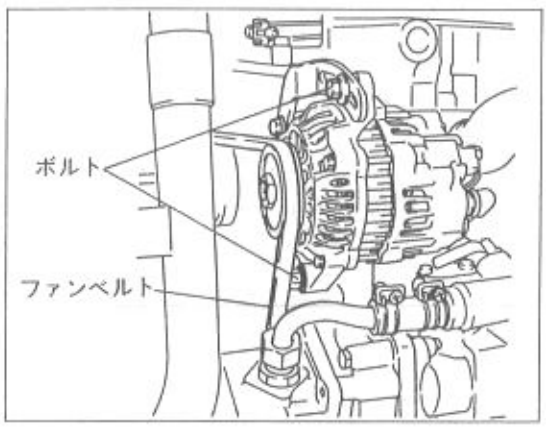
3 調整のしかた

・各部は出荷のとき正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生ずるので再調整を行い，損耗の限度を越えた部品は交換し正しく使用できる状態にしてください。

1 ベルトの点検・調整

ファンベルトの張り調整

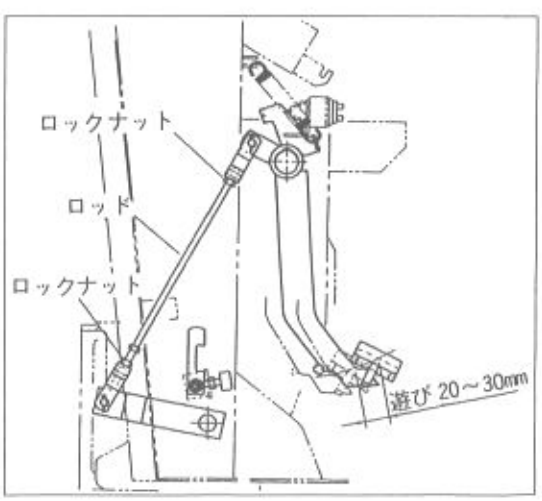
点検	ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，たわみ量が《10～13㎜》となっていますか。 次の要領で調整を行います。
調整	① オルタネータ取付ボルト（2個所）をゆるめます。 ・オルタネータを外側に倒しベルトを張ります。 ・オルタネータを内側に倒すとベルトはゆるみます。 ② 調整後は取付ボルトを確実に締めつけます。



2 ペダルの点検・調整

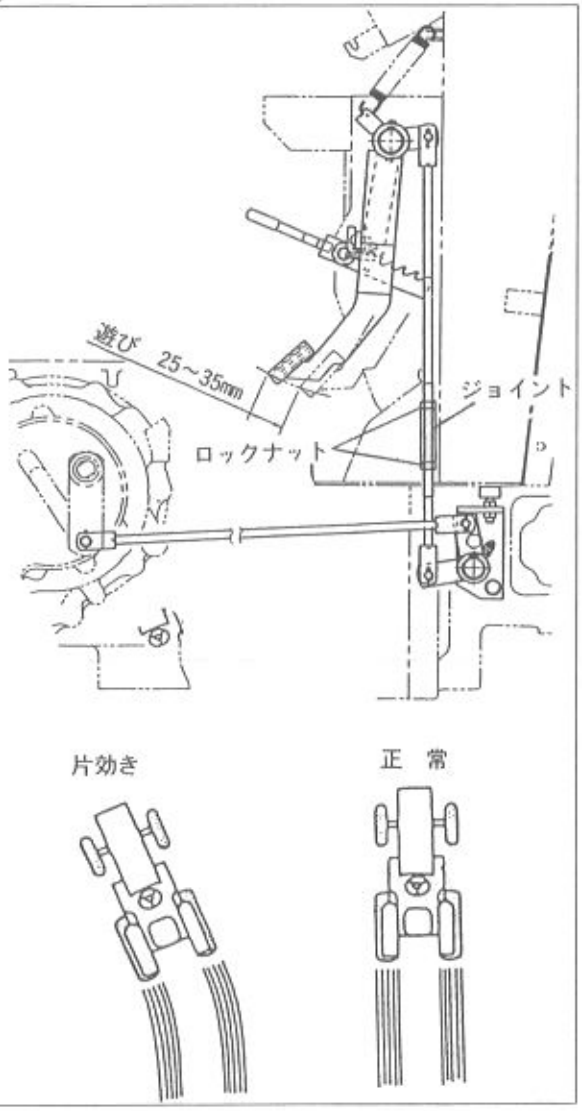
クラッチペダルの遊び調整

点検	クラッチペダル遊び量は《20～30㎜》です。 次の要領で調整を行います。
調整	① ロックナットをゆるめます。 ② ロッドを回して調整します。 ねじ込む…遊びが少なくなります。 ねじ戻す…遊びが多くなります。 ③ ロックナットを締めつけます。 締付トルク 120～170kgf-cm



ブレーキペダルの遊び調整

点検	ブレーキペダルの遊び量は《25～35㎜》です。次の要領で調整を行います。
調整	① ロックナットをゆるめます。 ② ジョイントを回して調整します。 ねじ込む…遊びが少なくなります。 ねじ戻す…遊びが多くなります。 ③ ロックナットを締めつけます。 締付トルク 210～300kgf-cm
確認	左右とも正規の寸法が出たら次の要領で機能を確認します。 ・効　き…片輪制動その場旋回をしてみてブレーキの効きを確かめてください。（左右） ・片効き…左右ブレーキペダルを連結板で連結し，普通走行で走り，両方のブレーキペダルを一緒に踏んで，タイヤスリップ跡により片効きの有無を確かめます。トラクタが真っ直ぐ止まれば正常ですが，曲って止まる場合は再調整してください。



3 トーインの点検・調整

タイロッドの調整

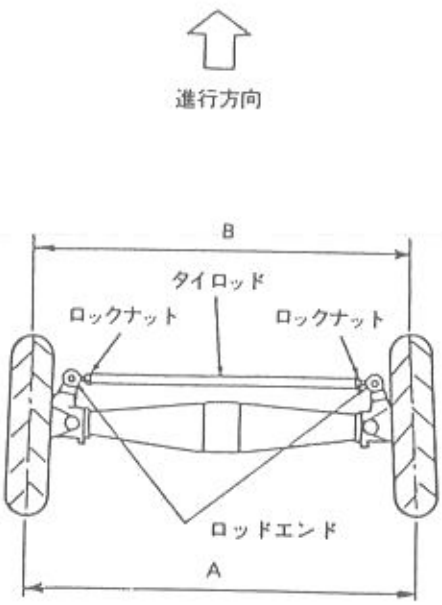
点検

トーインは《0～10㎜》です。（タイヤ中心）トーインは車の安定性を左右する重要な役目を持っています。
走行中にハンドルがとられやすくなった時はトーインが狂っている恐れがありますから点検調整してください。
トーインは前輪を上から見て前部が後部より狭くなっていることをいいます。
調整は次の要領で行います。

調整

① タイロッドのロックナットを左右共ゆるめます。
② タイロッドを回してロッドエンドにネジこめばトーインは大きくなり，逆にネジもどせばトーインは小さくなります。
③ 調整後は左右のロックナットを確実に締付けて，前輪の前端を手で左右に振ってみて異常な遊びのないことを確かめてください。

注意：前輪の遊びが無いことを確かめてから調整を行ってください。



4 格納のしかた

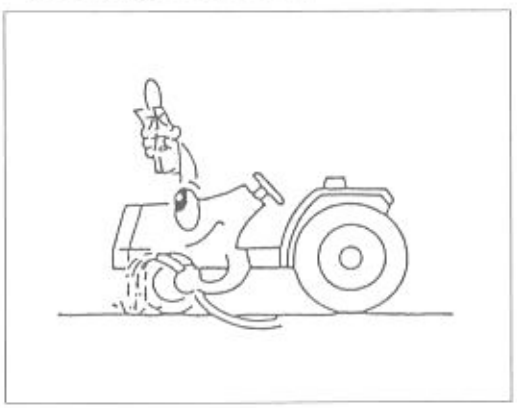
1 機体の清掃・洗浄・格納

トラクタを保管するときは各部の汚れをよく清掃したうえで次の処置をしてください。

❶ 金属露出部，ネジ部にグリスやオイルを塗ってさび止めしてください。

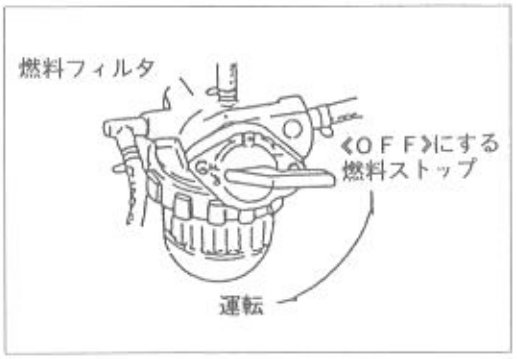
❷ 油もれ個所，各部の油量を点検し5分間程度エンジンを回してオイルを各部にゆきわたらせてください。

❸ 冷却水を完全に排出する。この場合《**水なし**》の警告札をハンドルにつけておくと，次回に冷却水の入れ忘れがなく重宝です。但し，不凍液を入れている場合は抜く必要はありませんが不凍液の濃度を調整してください。



◆高圧洗車機にて洗浄する場合には，メータパネル及び電装品に直接水をかけないでください。

❹ きれいな燃料を燃料タンク容量の80%補給し，燃料フィルタのコックを《OFF》にしてください。



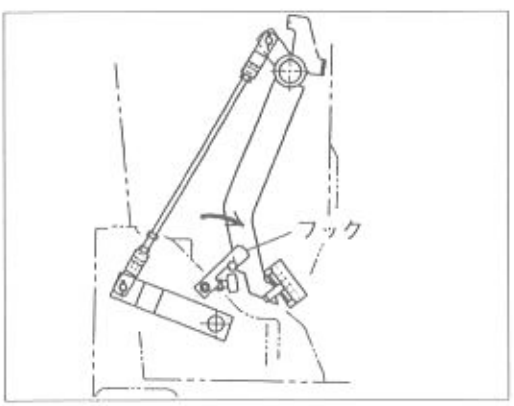
❺ タイヤの老化を防止するために車軸またはケースに台をしてタイヤを浮かすか，空気圧を高めに入れてタイヤの下に板等を敷いて直接地面に置かないでください。

❻ 作業機（ロータリ等）を地面におろしてください。

❼ 保管場所は屋内にする。やむをえず屋外におく場合は風雨にさらさないようシートを使用してください。また停止直後の《**加熱した状態**》ではシートをかけないでください。

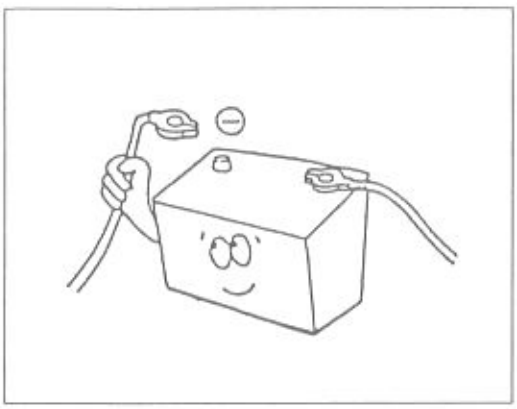
❽ ウエイト類を取り外してください。

❾ クラッチこう着防止のためクラッチペダルを押下げ，フックをかけてクラッチ《**切**》の状態にしてください。

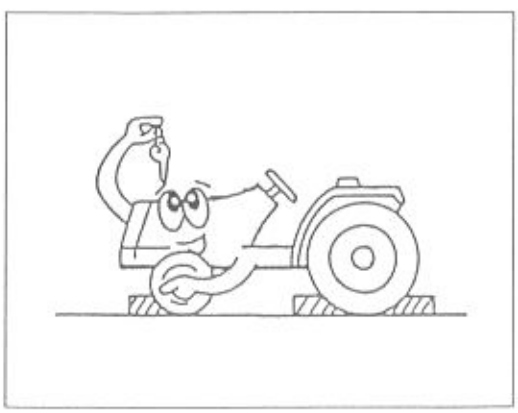


❿ クラッチハウジング下部の水抜き栓を外し水を抜いておいてください。

⓫ 保管中の不意な漏電，発火を防ぐためバッテリを車体から取外し，風通しの良い屋内に保管してください。また機体に取付けたまま保管するときには必ずバッテリのマイナスターミナル（アース側）を外しておいてください。



⓬ 保管中，不意にトラクタが動き出すのを防ぐため，必ずタイヤに歯止めをし，キーを抜きとっておいてください。



2 格納中の手入れ

❶ １カ月に１度，防錆，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間回してください。

❷ 金属露出部，ネジ部を点検し，防錆処置をしてください。

❸ 油もれ，水もれの有無を点検し不具合のある場合は処置してください。

❹ バッテリは１カ月に１度補充電をし再使用にそなえてください。

◆エンジンを回す前に冷却水，バッテリターミナル等保管準備で処置した項目を復元してください。

3 再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行った後に運転してください。

❶ 冷却水，バッテリターミナル等保管準備で処置した項目を正しく復元してください。

❷ 始業点検を確実に行ってください。

不調の発見と処置

・異常を感じたときは，すぐにその原因を調べて対策をし故障を大きくしないようにしてください。
・原因がわからないときは，《お買いあげ先》にご相談のうえ処置してください。
・そのときは《機体番号》と《エンジン番号》をあわせてお知らせください。

◆清掃・点検・調整・整備は，必ずエンジンを停止してから行ってください。

エンジン関係

始動しない，または始動困難

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
❶ スタータスイッチを回しても，スタータが回らない。	○クラッチペダルを踏み忘れていませんか。	・ペダルを必ず踏み込む。ペダルをいっぱい踏み込みます。エンジンがかかるまで踏み込んでおきます。	26・35・36
	○バッテリの放電	・バッテリを充電，交換	12～17
	○各部端子のゆるみ	・はずれ，ゆるみ，腐食を点検し清掃して確実に締付け，グリスを塗布し防錆しておく。	
	○セフティスイッチの故障	・サービス工場で修理または交換	
	○スタータの故障	・サービス工場で修理または交換	
	○ヒュージブルリンクの断線	・ヒュージブルリンクの交換	11・12
❷ スタータは回るが，回転が上らない。	○バッテリの放電	・バッテリの充電	12～17
	○アース不良	・接続部を清掃し，アースを確実に。	11・12
	○エンジンオイルの粘度不適	・適正粘度のオイルに交換	30・32・65

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
❸ スタータは回るが，エンジンがかからない。	○燃料タンクに燃料がない。	・補給する。	30・32・66
	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う。	66・67
	○燃料フィルタ詰まり	・フィルタの清掃または交換	67
	○エンジン本体の不具合	・サービス工場で修理する。	
	○燃料フィルタのコックがＯＮになっていない。	・ＯＮにする。	32・67

エンジンの出力不足およびエンジンの自然停止

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
❶ エンジン回転が不規則。	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う。	66・67
	○燃料フィルタの水・ゴミ詰まり	・フィルタの清掃または交換	67
	○噴射ノズルの水・ゴミ詰まり	・サービス工場で修理	
	○パイプ系の燃料もれ	・クランプの締付け，パイプ交換	
	○燃料噴射の不揃い	・サービス工場で修理	
❷ エンジンを低速にすると停止する。	○インジェクションポンプの不良	・サービス工場で修理	
	○エンジンバルブクリアランス不良	・サービス工場で修理	
	○ノズル不良	・サービス工場で修理	
❸ エンジンが過回転する。	○ガバナにゴミ等が詰まっている。	・サービス工場で修理	
	○オイル上り	・サービス工場で修理	
❹ 運転中エンジンが突然停止した。	○燃料不足	・燃料補給とエア抜きを行う。	66・67
	○ノズル不良	・サービス工場に依頼し交換	
	○オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付	・サービス工場に依頼	
		・ファンベルトの張り調整をして動けば燃料不足か，ノズル不良の場合が多い。	73 32
	○エンジンオイル不足などによる油圧低下		
	○ヒューズＥの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する。	11

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
❺ エンジンが加熱する。	○冷却水の不足	・冷却水を補給する。	33・67・68
	○ファンベルトのゆるみ，破損	・ベルトの張り調整または交換	73
	○ラジエータの目詰まり	・ラジエータスクリーンを清掃する。	69
❻ エンジンの排気色が白い（除く始動直後）。	○エンジンオイル量が多すぎる。	・点検し適正量にする。	30・32・65
	○燃料供給量の不足	・サービス工場で修理	
❼ エンジンの排気色が黒すぎる。	○エアクリーナが詰まっている。	・エレメントの清掃	69
	○燃料が悪い。	・正規の燃料に入れかえる。	32・66
	○燃料の供給過剰	・サービス工場で修理	
	○ノズル不良	・サービス工場で修理	
❽ エンジンの出力不良	○エアクリーナの詰まり	・エレメントを清掃する。	69
	○燃料不足，燃料フィルタの詰まり	・燃料系統をチェックする。	32・66・67
	○噴射時期不良		
	○バルブクリアランス調整不良	・サービス工場で修理	
	○圧縮圧力の不足，バルブシート部よりガスもれ		
	○ノズルの焼付，詰まりおよびカーボンのたまり		
❾ 運転中オイルランプが点灯する。	○エンジンオイル量が少ない。	・規定量まで補給	30・32・65
	○エンジンオイルの粘度が低い。	・適正粘度のオイル交換	32・65
	○プレッシャスイッチの故障	・スイッチを交換する。	
	○オイルポンプの故障	・サービス工場で修理	
	○オイルフィルタの目詰まり	・オイルフィルタを交換	66
❿ 運転中にチャージランプが点灯する。	○配線の故障	・端子のゆるみ汚損，アース不良の修理	11・12
	○オルタネータ	・サービス工場で修理	
	○ファンベルトのゆるみまたは破損	・張り調整またはベルト交換	73
⓫ 始動するがすぐとまる。	○エンジンオイル量が少ない。（安全装置が作動）	・オイルを補給する。	30・32・65

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
⓬ エンジンが停止しない。	○バッテリの放電	・充電	12～17
	○キー切りタイマ接続不良	・サービス工場で修理	
	○キー切りタイマ故障	・サービス工場で修理	
	○ヒューズA，Eの断線	・配線をチェックしヒューズを交換	11・12
	○ヒュージブルリンクの断線	・ヒュージブルリンク交換	11・12

走行操作関係

走らない，ブレーキがきかない

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
❶ クラッチがすべる。	○ペダルの調整不良	・ペダルの遊び，調整	73
	○クラッチライニングの摩耗・焼付	・サービス工場でライニング交換	
❷ クラッチが切れない。	○ペダルの調整不良	・ペダルの遊び，調整	73
	○クラッチライニングの錆付き	・サービス工場で修理する。	
❸ ブレーキの効きが悪いまたは片効きである。	○ブレーキペダルの遊び量が大きすぎる。	・遊びを調整する。	74
	○ブレーキライニング摩耗・焼付	・サービス工場でライニング交換	
	○左右の踏込み量が異なる。	・踏込み量を左右同じにする。	74
❹ ブレーキペダルの戻りが悪い。	○ブレーキ戻しスプリングの損傷	・スプリング交換	
	○各摺動部のグリス切れ	・グリスアップ	34
❺ ダイヤクイックターンが作動しない（ダイヤクイックターン装備機）。	○配線のキボシ外れ，カプラ不良	・点検しセットする。	11
	○ヒューズBの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する。	11・12
	○ソレノイドバルブ，ダイヤクイックターンスイッチ，副変速スイッチの故障	・サービス工場で修理する。 故障したときはダイヤクイックターンスイッチを速やかに《切》にしてください。	21・46

パワーステアリング

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
❶ 圧力があがらない。	○ポンプの不良	・サービス工場で修理	
	(1) 摩耗等による性能劣化		
	(2) 内部部品の損傷		
	○パワーステアリングのコントロールバルブのこう着，損傷，摩耗	・サービス工場で修理	
	○リリーフバルブ部のゴミかみ又はバルブの損傷	・サービス工場で修理	
	○シール類の損傷	・サービス工場で修理	
	○配管の損傷，油洩れ	・増締，又は交換	
	○回路中のエア溜まり	・エア抜きを十分に行う。	
❷ ハンドルが重い。	○タイヤ空気圧の不揃い	・左・右共に規定空気圧にする。	71
ハンドルがとられる。	○各エンドに遊びがある。	・増し締めまたは部品交換	32・70
	○使用オイルの粘性大	・オイル交換又は暖機運転を十分に行う。	
	○トーイン不良	・修正	75
❸ 追従性不良	○油圧ポンプの損傷・摩耗	・サービス工場で修理・交換	
	○油量不足	・規定量まで補給	30・33
	○エア混入	・完全にエア抜きをする。 油量点検 サクション系配管点検	
	○バルブ作動不良	・サービス工場で修理	
	○ロッドエンドの遊び発生	・サービス工場で交換	
	○各締付部のゆるみ発生	・増し締めをする。	
❹ 前輪のふらつき（ハンドルの遊びが多い）。	○トーイン不良	・修正	75
	○エア混入	・エア抜き	
	○ロッドエンドの遊び発生	・サービス工場で交換	
	○各締付部のゆるみ発生	・増し締めをする。	
❺ 油圧回路系の異常音	○油量不足（ミッションオイル）	・補給	30・33
	○吸入抵抗過大によるキャビテーション音	・パイプのつぶれ等は修理 ・フィルタの交換 ・暖機運転を十分に行う。	

油圧関係

油圧関係

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
❶ 油圧回路の異常音	○油量不足（ミッションオイル） ○吸入抵抗過大によるキャビテーション音	・規定量まで補給 ・パイプのつぶれ等は修理 ・フィルタの交換	30・33 71
❷ 油圧が上がらない。	○油量不足（ミッションオイル） ○吸入パイプ系統からエアを吸い込む。 ○シール部の油もれ ○油圧フィルタの詰まり ○油圧ポンプの故障 ○コントロールバルブの故障 ○シリンダの破損	・規定量まで補給 ・フィルタケースや取付部などを増し締めし，パイプに亀裂が発生していたり，Oリングが破損していれば交換 ・交換する。 ・サービス工場で修理 ・サービス工場で修理 ・サービス工場で交換	30・33 71
❸ 配管に油もれがある。	○各部ジョイントのゆるみ ○パイプの亀裂 ○Oリングの切れ	・増し締めを行う。 ・サービス工場で交換する。 ・交換する。	
❹ 油圧レバーを上げにするとピーというリリーフバルブの音がする。	○ストッパ位置の調整不良	・サービス工場で修理	
❺ リフトアームが下らない。	○降下速度調節グリップがロック位置になっている。 ○コントロールバルブの故障 ○リフト・シャフト回動部の焼付き ○バルブ下げスプリングの切損（PAC）	・下げの位置にする。 ・サービス工場で修理 ・サービス工場で修理 ・サービス工場で修理	41

電気・自動制御関係

電気関係

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
❶ バッテリが充電しない。 ・運転中チャージランプが点灯する。	○配線の故障	・端子のゆるみ汚損，アース不良を修正	11・12
	○オルタネータ不良	・サービス工場で修理	
	○ヒュージブルリンクの断線	・配線をチェックし，ヒュージブルリンクを交換する。	11・12
	○ファンベルトのゆるみまたは破損	・張り調整またはベルト交換	73
	○バッテリの機能不良	・端子のゆるみ，腐食，電解液の不足などを修正	12～17
❷ 前照灯が暗い。	○バッテリの放電	・充電する。	12～17
❸ 前照灯が点灯しない。	○電球切れ	・電球を交換する。	
	○ヒューズEの断線	・ヒューズを交換する。	11・12
❹ ホーンが鳴らない。	○ホーンの損傷	・修理または交換する。	
	○ヒューズCの断線	・ヒューズを交換する。	11・12
❺ 方向指示灯が点滅しない。	○電球切れ	・電球を交換する。	
	○フラッシャユニットの故障	・ユニットを交換する。	
	○ヒューズCの断線	・ヒューズを交換する。	11・12
❻ パネルランプ類が点灯しない。	○ヒューズCの断線	・ヒューズを交換する。	11・12
	○電球切れ	・電球を交換する。	

自動制御関係（マイコン装備機）

状　況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
❶ ポジションコントロールが作動しない。	○ヒューズBの断線	・ヒューズを交換する。	11・48・57
❷ 傾斜，耕深自動が作動しない。	○ヒューズBの断線	・ヒューズを交換する。	11・50・51 57
❸ 電動シリンダが作動しない。	○ヒューズBの断線 ○電動シリンダのコネクタが外れている。	・ヒューズを交換する。 ・確実に差込む。	11・52・57
❹ ブザーが鳴らない。	○ヒューズCの断線	・ヒューズを交換する。	12

注）1．各不調時の点検は，配線のソケット外れ，接触不良及びアース不良の点検もあわせて行ってください。

2．ヒューズの断線が再発するときは点検サービスを受けてください。

付　表

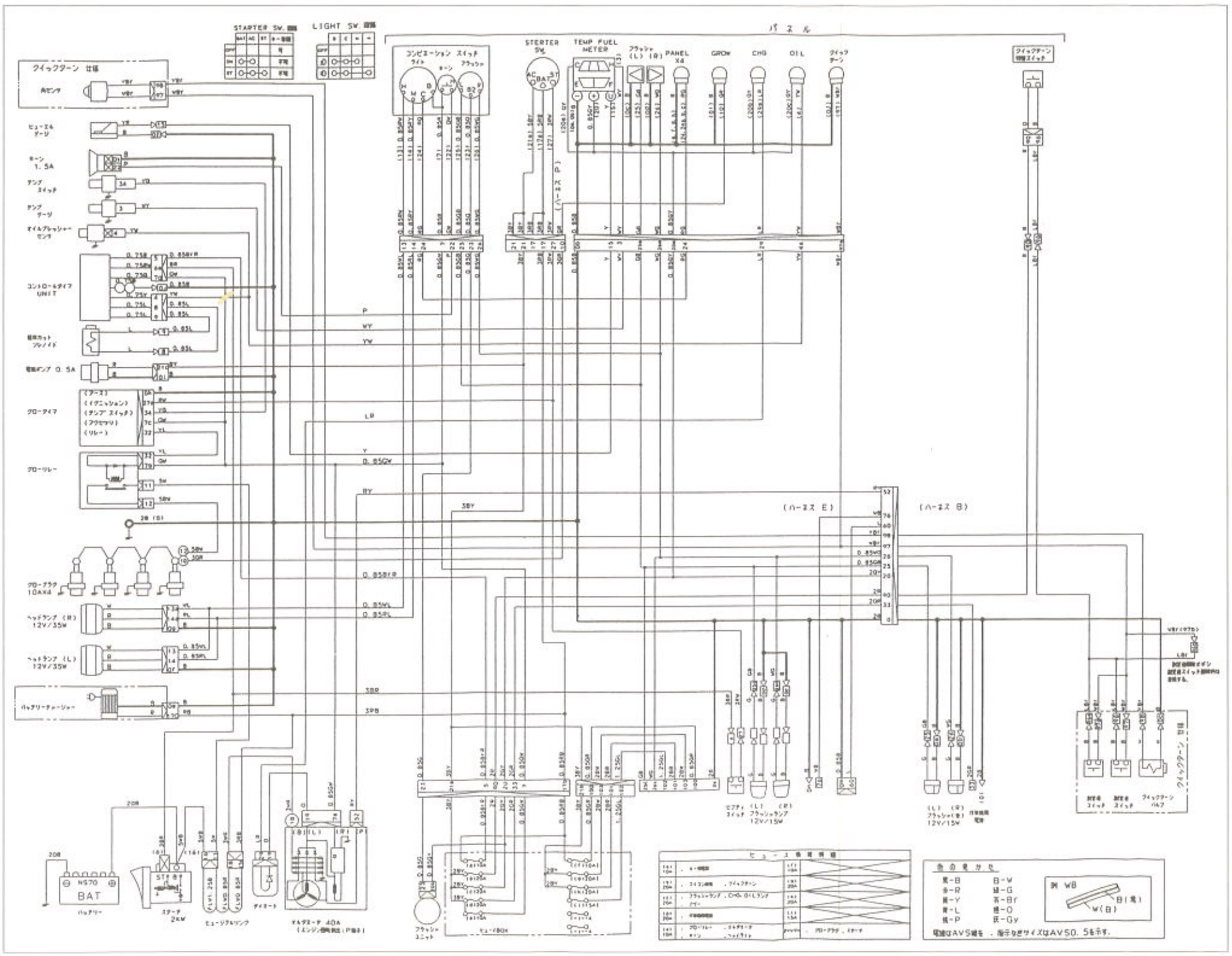
1 主要諸元

駆動方式			4輪駆動
機体寸法	全長(ロワリンク先端) mm		3015
	全幅 mm		1205
	全高 mm (ハンドル上端)		1905 (1460)
	軸距 mm		1565
	輪距	前輪mm	950
		後輪mm	940
	最低地上高 mm		335
重量 kg			1215
エンジン	名称		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル
	形式		S4L9
	総排気量 cc		1462
	出力/回転数 PS/rpm		22.5/2500
	使用燃料		ディーゼル軽油
	燃料タンク容量 ℓ		28
	始動方式		セルスタータ式
タイヤ		前輪	7－14
		後輪	9.5－26
最小回転半径 m			2.1
車体	クラッチ方式		乾式単板
	制動装置		湿式ディスク
	作動方式		傘歯車式（デフロック付）
	変速方式		常時噛合式
変速段数			前進16段，後進16段
走行速度		前進 km/h	0.26～13.86
		後進 km/h	0.24～12.82
PTO	回転数 rpm	正転	543,774,965,1266
		逆転	513,731,912,1197
	軸寸法 mm		JIS35
作業機昇降装置		制御方式	ポジションコントロール
		装着方式	3P（JIS1）

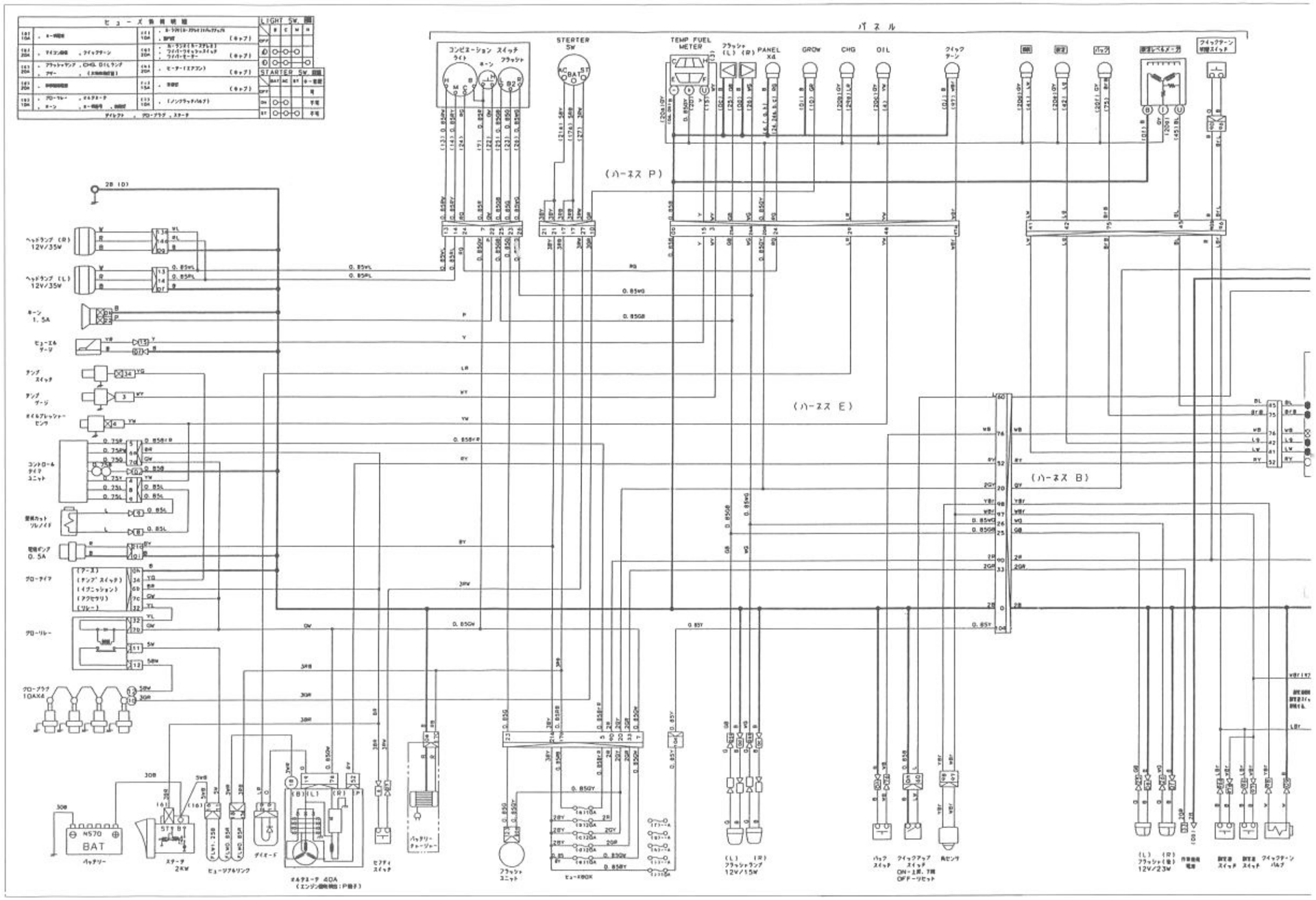
※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

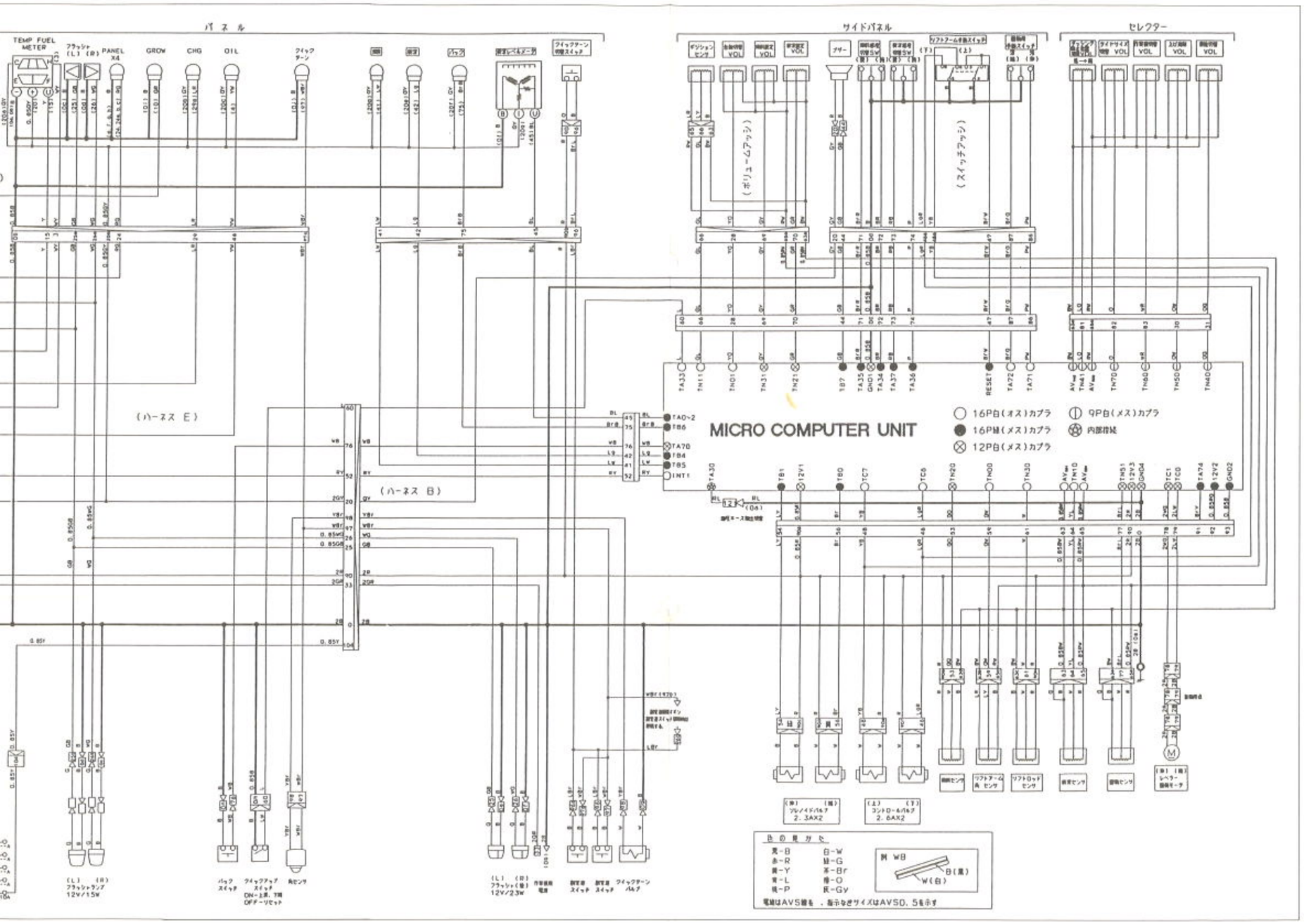
2 電気配線図

1 標準機


STARTER SW.
LIGHT SW.
パネル
コンビネーション スイッチ
STERTER SW.
TEMP FUEL METER
PANEL
GROW
CHG
OIL
クイックターン 仕様
クイックターン 増設スイッチ
ホーン 1.5A
ターン スイッチ
ターン リレー
コントロールタイマ UNIT
グロータイマ
グロープラグ 10AX4
ヘッドランプ (R) 12V/35W
ヘッドランプ (L) 12V/35W
バッテリーチャージャー
(ハーネス E)
(ハーネス B)
BAT
NS70
バッテリー
スターター 2KW
ヒューズ/リレーBOX
ダイオード
オルタネータ 40A
フラッシャユニット
ヒューズ容量明細
色の見方
B-W
G-R
Y-R
Y-L
P-L
R-P
B-G
R-O
R-Gy
B(黒)
W(白)
電線はAVS線を、指示なきサイズはAVS0.5を示す。

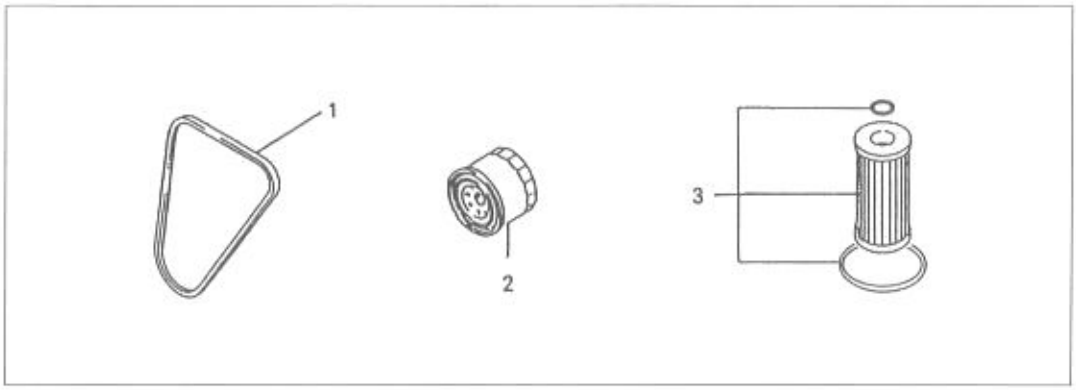
2 マイコン装備機


パネル
コンビネーション スイッチ
ライト
ホーン
フラッシャ
STERTER SW
TEMP FUEL METER
フラッシャ (L) (R)
PANEL X4
GROW
CHG
OIL
クイック アーシ
(ハーネス P)
(ハーネス E)
(ハーネス B)
ヘッドランプ (R) 12V/35W
ヘッドランプ (L) 12V/35W
ホーン 1.5A
ヒューズ 4 アーシ
ランプ スイッチ
ランプ ゲージ
オイルプレッシャー センサ
コントロール ダイア ユニット
燃料カット ソレノイド
電磁ポンプ 0.5A
グロー ダイア
グロー リレー
グロープラグ 10A×4
BAT
バッテリー
スタータ 2KW
ヒューズ/ヒューズ&リンク
ダイオード
オルタネータ 40A
(エンジン型式略称:P型)
センディ スイッチ
バッテリー チャージャー
フラッシャ ユニット
ヒューズBOX
(L) (R) フラッシャランプ 12V/15W
バック スイッチ
クイックアップ スイッチ ON-上昇, 下降 OFF-リセット
R センサ
(L) (R) フラッシャ(電) 12V/23W
作業機用 電源
調整器 スイッチ
調整器 スイッチ
クイックターン バルブ


パネル
サイドパネル
セレクター
TEMP FUEL METER
フラッシャ (L) (R)
PANEL
GROW
CHG
OIL
クイックターン
(ボリュームアッシ)
(スイッチアッシ)
MICRO COMPUTER UNIT
16P白(オス)カプラ
16P黒(メス)カプラ
12P白(メス)カプラ
9P白(メス)カプラ
内部接続
(ハーネス E)
(ハーネス B)
色の見かた
黒-B
赤-R
黄-Y
青-L
桃-P
白-W
緑-G
茶-Br
橙-O
灰-Gy
例 WB
B(黒)
W(白)
電線はAVS線を，指示なきサイズはAVS0.5を示す

3 主な消耗部品

1 エンジン関係



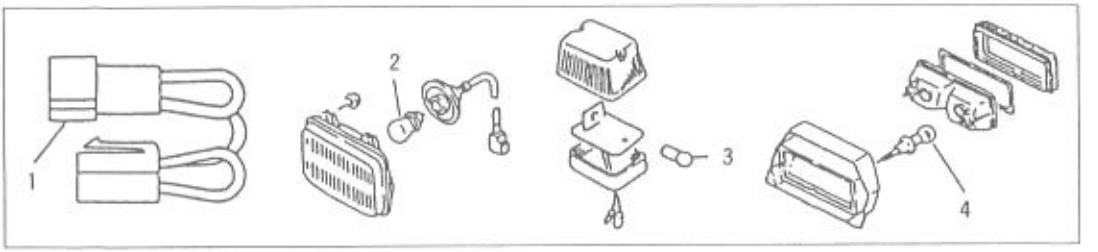
見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型寸	備考
1	MD088955	ファンベルト	1		HM L＝980
2	MD134953	フィルタアセンブリ	1		
3	MM320886	フュエルエレメント	1		

2 エアクリーナ・油圧ライン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型寸	備考
1	1031 0511 200	エレメント	1		
2	1035 2509 000	油圧フィルタ	1		

3 電装関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型　寸	備　考
1	1025 3543 000	ヒュージブルリンク	1		
2	6740 4-01 720	バルブ	2	12V－35W	前照灯
3	0980 8121 504	バルブ	2	12V－15W	方向指示灯(前)
4	0980 8121 504	バルブ	2	12V－15W	方向指示灯(後)

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後12年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させいただく場合もあります。

補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

4 アタッチメント一覧表

次のアタッチメントを基本作業機として準備しておりますので御利用下さい。

	コードNo.	名　　称	型　　式	主 な 仕 様
1	3211110010	リンケージドローバー	NO1	JIS1型
2	3210640200	ドローバー	DH−GO	引き出し式
3	3210120030	バンパーウェイト	BW−1843MT	20kg 5 個まで装着可
4	3210150161	バンパーウェイト	BW−F1	20kg 6 個まで装着可
5	3210150171	バンパーウェイト	BW−F2	22kg 6 個まで装着可
6	3210150211	シャーシウェイト	SW−F2	32kg
7	3210330041	リヤホイールウェイト	RW−344	32kg 4 個まで装着可
8	3211650080	ルーフキット	F−GO	2 柱折り畳み式
9	3254211300	代掻きローター(センター用)		RB140C 用
10	3254210507	代掻きローター(センター用)		RB150C 用
11	3250160070	延長パイプキット	EXP−F2C3	R1416C.R1516C 用.延長幅150mm×2
12	3250160090	延長カバーキット	EXC−GOC	RB140C.RB150C 用.延長幅150mm×2
13	3255910306	クイックレベラ	JKL−1440F1	レベラ幅2.2m
14	3255910181	クイックレベラ	JKL−1440DXF1	レベラ幅2.2m. デラックス型
15	3255910276	クイックレベラ	JKL−1640F2	レベラ幅2.4m
16	3255910216	クイックレベラ	JKL−1640DXF2	レベラ幅2.4m. デラックス型
17	3250511120	畦立器ブラケット	TB−F23N	固定式（ℓ：130）
18	3250511140	反転畦立器ブラケット	TBL−F23N	反転式（ℓ：130）
19	3250511240	畦立器45型	RR−45F23N	底幅135mm
20	3250511250	畦立器6型	RR−60F23N	底幅180mm
21	3252111010	反転式片培土器（右）	FKR12−FN	横反転式（右用）底幅120mm
22	3252111020	反転式片培土器（左）	FKL12−FN	横反転式（左用）底幅120mm
23	3252111030	反転式片培土器（右）	FKR19−FN	横反転式（右用）底幅190mm
24	3252111040	反転式片培土器（左）	FKL19−FN	横反転式（左用）底幅190mm
25	3212410580	サブバルブ1連（手動）	D1−2228GO	安全フレーム用手動レバー式. 単復切換式1連
26	3212410590	サブバルブ2連（手動）	D2−2228GO	安全フレーム用手動レバー式. 単復切換式2連

5 潤滑油

使用オイル表

オイルを使用する場合は下記の表を参照の上温度条件に合わせて使用してください。

1 エンジン

メーカ	商品名
純正油	マルチSTOUオイル（10W−30）
全農	クミアイエンジンオイル（ディーゼル用）
三菱石油	ダイヤモンドHDS−3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

その他一流メーカのオイルでAPIサービス分類CC，CD級オイルをお使いください。

2 ミッション，フロントアクスル

APIサービス分類　GL−4級以上のオイルで湿式ブレーキ適正のあるもの。

銘柄（メーカ）	オイル商品名	
純正油	マルチGBオイル	(80W)
〃	マルチSTOUオイル	(10W−30)
三菱石油	ダイヤモンドファームギヤオイルB	(80W)
〃	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	(10W−30)
日本石油	アントイルB	(80W)
全農	クミアイトラクタオイル	(80W)
昭和シェル石油	ギヤオイルHTS−56スーパー	(80W)

※商品名は変更することがあります。

《三菱農機 純正油 マルチオイルペア》

・マルチＳＴＯＵ（ストー）オイルは，１種類でエンジンオイル，ギヤオイルとして，一年中ご使用いただける，オールシーズンタイプのオイルです。

・マルチＧＢオイルは，ギヤ及び湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（Ｇ）と湿式ブレーキ（Ｂ）専用オイルです。

マルチSTOU（ストー）オイル



マルチGBオイル



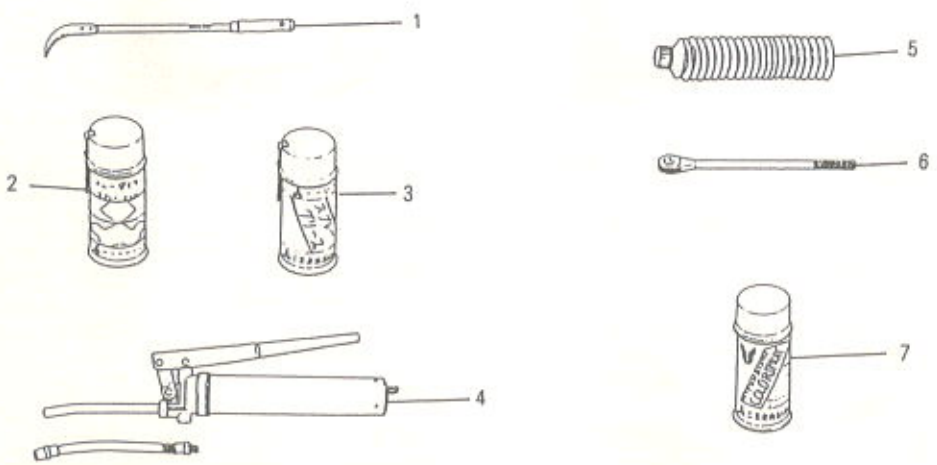
性状＼品名		マルチＳＴＯＵオイル	マルチＧＢオイル
比重 15/4℃		0.883	0.893
引火点 ℃		210	230
流動点 ℃		−37.5	−35.0
動粘度cSt	@ 40℃	62.2	78.4
	@100℃	10.8	9.8
粘度指数		168	104
ＡＰＩサービス分類		SD/CD/GL−4	GL−4
ＳＡＥ粘度番号		10W−30	80W
荷姿		ドラム・20ℓ缶	20ℓ缶

♣お買い求めは，弊社《特約販売店》で取扱っていますのでご相談ください。

6 トラクター関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商品名	商品番号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1−420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850−666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	ラチェットレンチ（17）	HT3100	爪の脱着，増締
7	カラースプレー（赤） 〃（白） 〃（黒）	0975 0000 490 0975 0000 160 0975 0000 470	補修用塗料



★ご用命のときは，必ず《商品番号》・《部品番号》をお知らせください。